

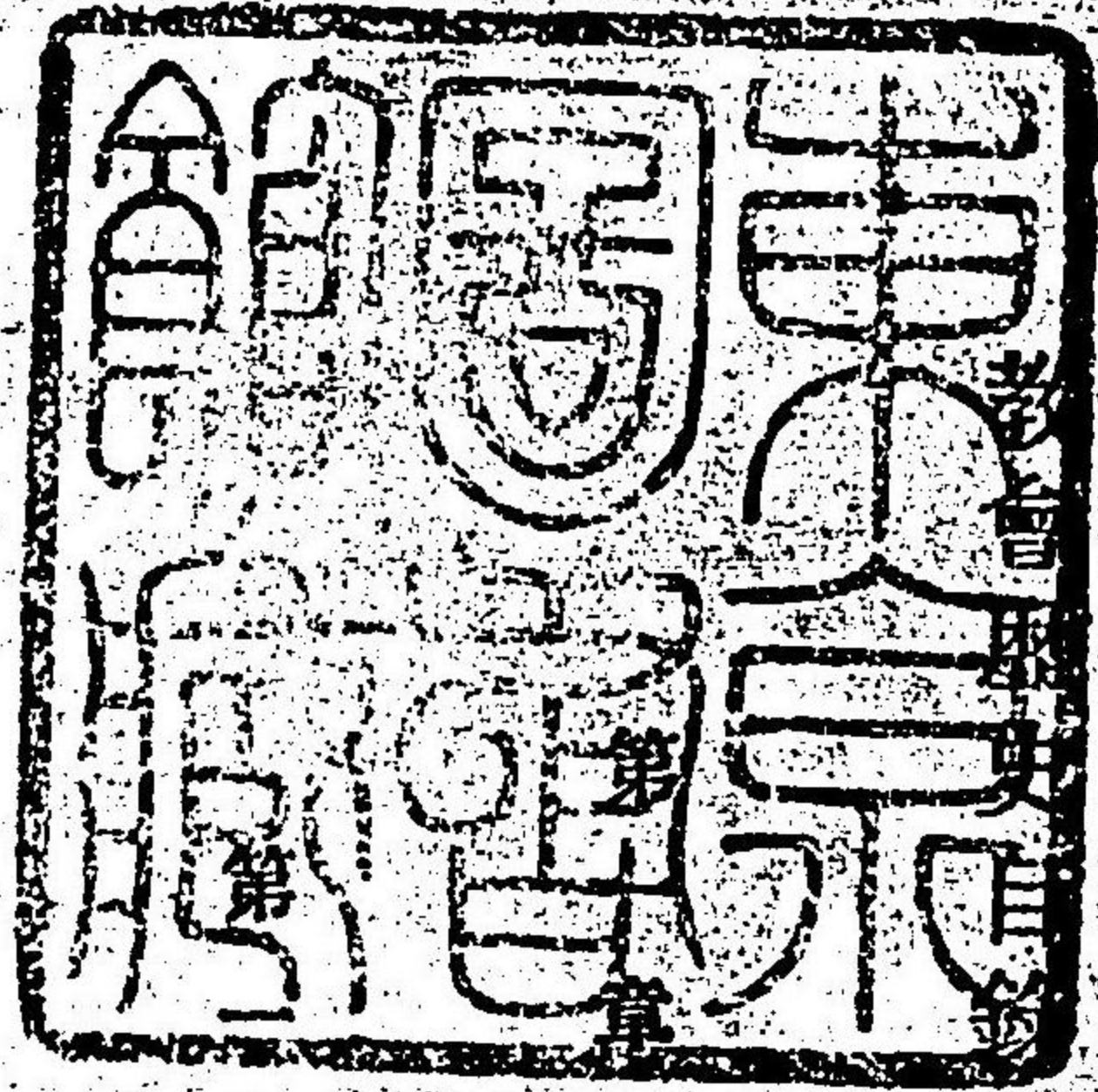
東亞
書局

教會歷史

二十一年十二月

下





改革ノ準備

初丁

総論

全丁

節 外部ノ準備

三丁

一 歐羅巴學問ノ再興 (二) 大學校 (二) キリシヤ學者ノ散亡

(三) 印刷術ノ發明 (四) 文學者 (ヒュマニスト)

二 教王政治ノ衰微

三 教王及ヒ聖職者等ノ醜行

四 種々ノ兆候

第二節 内部ノ準備

二十六丁

一 改革前ノ改革家 (一) マヨモン、ウイシロン (二) ミラツ (三) マ

目録

一

目録

二

ヨシ、ホス(四)プレグノゼロム(五)サウナラ(六)ゴッソマ
ヨシ(七)シヨシ、ワセル(八)シヨシ、ウエセル

二改革前ノ改革派 (一)玄奥派(二)兄弟共通派

第二章 改革

五十七丁

第一節 ゼルマニ

五十八丁

一改革ノ近因 (一)赦罪券ノ理由(二)赦罪券發賣方法(三)赦
罪券ノ不服

二マルテン、ルイテルノ傳記

三改革ノ創造 (一)ルイテルト教王ノ軋轢(二)新教ノ建基
ルイテルノ著書

四ルイテルノ訊問及ヒ潜居

五改革ノ障妨 (一)ヘッセ侯フヒリアノ重婚(二)ルイテル、エラ
スマスノ確執(三)一揆

六新教ノ組織 因新教ノ撲滅セラレサル理由

七改革ノ完全 因ルイテル教會ノ憲法

第二節 スウイツラント

九十九丁

一形勢

二ズウキングリ及ヒズリクノ改革

三北部諸務ノ改革 (一)ベルン(二)ハル(三)種々ノ結果

四南部諸務 (一)ゼニウア

第三節 スウイデン及ヒデンマルク

百十二丁

一ズウイデン

二デンマルク

目録

三

目錄

第四節 フランス

百十五丁

一 第一期 改革ノ發端及ヒ迫害

二 第二期 ナンツ勅書ノ效驗

三 第三期 再度ノ迫害及ヒ教會ノ微弱

第五節 チェルランドス

百三十丁

一 形勢

二 改革及ヒ迫害

三 改革ノ成就 因國勢ノ衰微

四 教會ノ綱領

第六節 イングランド

百四十五丁

一 改革ノ發端 ヘンリ第八ノ時代

二 改革ノ進歩 エドワルド第六ノ時代

三 迫害及ヒ退歩 マリアノ時代

四 教會ノ創成 エリザベツノ時代

第七節 スコットランド

百五十二丁

一 改革ノ起原

二 ショーン、ナッス及ヒ改革ノ創造

第八節 スペイン及ヒイタリヤ

百五十七丁

一 スペイン

二 イタリヤ 因改革中止ノ理由

第三章 新教諸教會

百六十二丁

第一節 ルーテル教會及ヒ改革教會

全丁

一 兩教會見解ノ差異 (一)聖書(二)バプテスマ(三)晚餐(四)定

目錄

一 意ノ原由(五)會例

二 改革家ノ商議

三 ヲヨソ、カルウヰノ傳記

四 カルウヰノ教系ノ行ハル、地方

第二節 諸教派

百八十四丁

一 復バプテスト派

二 ビユリタン派

三 玄奥及ヒッヘケル派

四 敬虔家

五 モレウイアン派

第四章 教義

二百十丁

第一節 基督學

全丁

一本位ニ就キテノ見解 (一)ロマ教會(二)ルーテル(三)ズウ

キングリ(四)諸學者、メラントン、移属說、隠密說

撤除說、新撤除說、因諸學者ノ批評

二本位ニ就キテノ異說 (一)メンノ、シモンズ(二)セルウヰト

ス(三)ソサイヌス(四)スウイデンホルグ

第二節 救拯學

二百二十八丁

第三節 人間學

二百三十三丁

一新教諸教會

二 メラントン等

三 律法廢棄論者、因遞傳創成說

四 アルミニアン派 (一)發端(二)教義(三)紛議(四)ドルトノ議

會

五 新學派神學

六 契約神學 因諸教會一致ノ計畫

第五章 合理論

二百五十九丁

總論

全丁

第一節 形而上

二百六十二丁

一 玄奧

二 性理學者 (一)ダカルト(二)スペノザ(三)ライプニツ(四)カ

ント(五)フイシテ(六)シエルリング(七)ヘゲル 因合理論ノ

勢力

第二節 形而下

二百七十三丁

一 準備 (一)ロルド、ペーコン(二)ハルトリ

二 唯理論 (一)ピリストリ(二)ボリンブロッグ等

三 有神論 (一)ロルド、ヘルベルト等

四 無神論 (一)デウイ、ヒュム等 因辨明

第三節 批評

二百七十九丁

一 最初ノ批評

二 高等批評(一名新道學) (一)ナルフ(二)セムレル等(三)レッセ

ング等(四)スタラオス(五)レナン

三 輓今ノ批評 (一)粉本(二)増訂(三)進化

第四節 合理論ノ盛衰

二百八十九丁

一 猖獗

二 福音主義ノ挽回 因教師ノ義務

目録

第六章 ロマ及ヒギリシヤ教會

三百丁

第一節 ロマ教會

全丁

一 テレントノ議會

二 三十年間ノ大戦

三 シエシユイト派 (一) イグチシウス、ロヨラノ傳記 (二) 組織及ヒ作動

四 シヤンセンイスト派

五 寂靜家

六 古義公會

第二節 ギリシヤ教會

三百二十六丁

一 來歴

二 形狀 (一) トルキ (二) ロシヤ 因國教ニ服セサル者

(三) ギリシヤ

三 教義及ヒ習慣

第七章 輒今ノ傳道 (増加)

三百四十丁

第一節 ロマ教會

三百四十三丁

一 組織

二 作動

第二節 ギリシヤ教會

三百五十四丁

第三節 新教

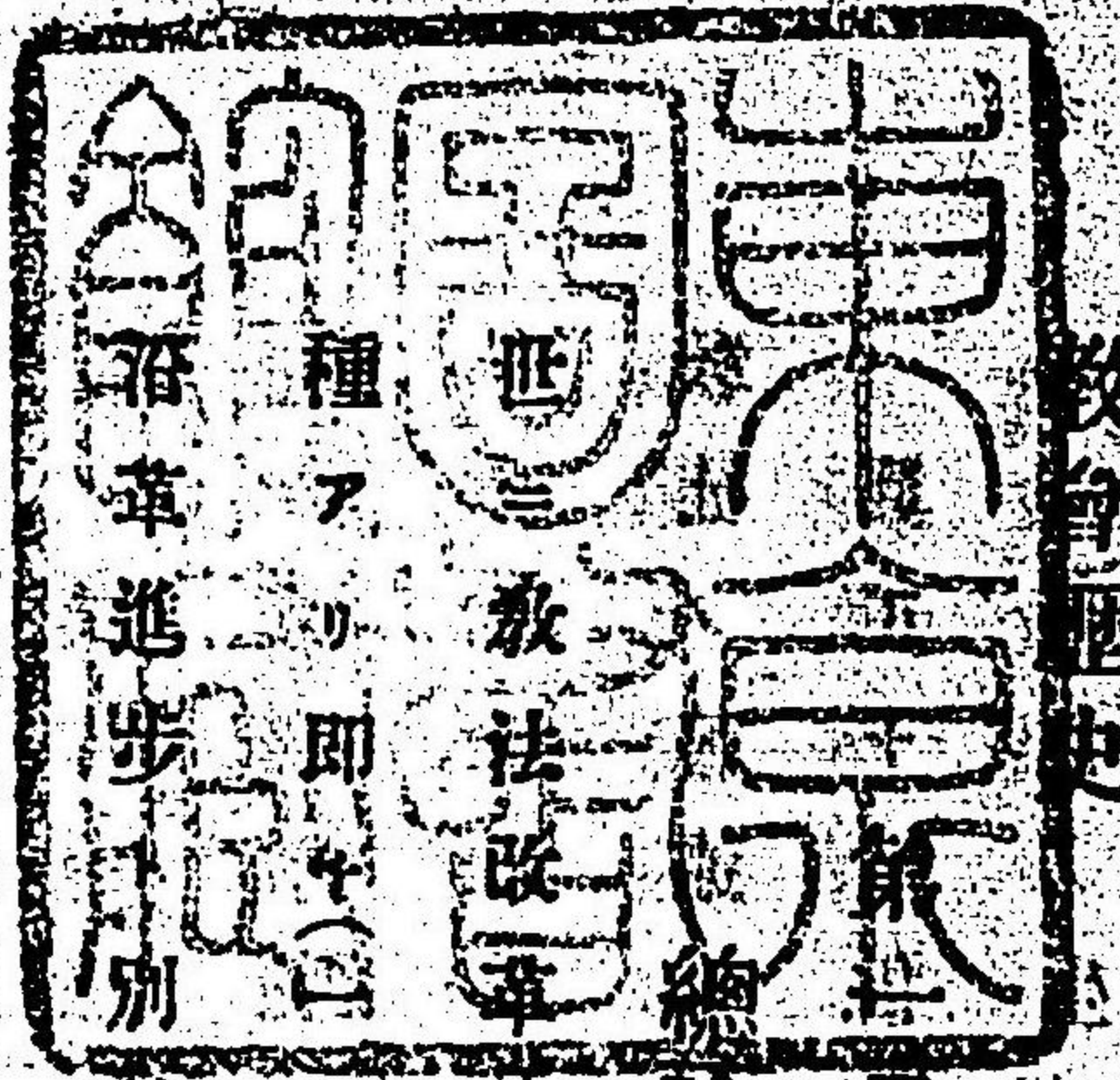
三百五十六丁

一 來歴

二 組織及ヒ結果

目録

教會歷史目錄



教會歷史
 第一章 緒論
 一、教會之起源
 二、教會之發展
 三、教會之組織
 四、教會之教義
 五、教會之禮儀
 六、教會之社會地位
 七、教會之與世界
 八、教會之未來
 九、教會之研究
 十、教會之實踐
 十一、教會之貢獻
 十二、教會之榮譽
 十三、教會之責任
 十四、教會之使命
 十五、教會之希望
 十六、教會之理想
 十七、教會之目標
 十八、教會之動力
 十九、教會之力量
 二十、教會之權威
 二十一、教會之尊嚴
 二十二、教會之榮耀
 二十三、教會之光榮
 二十四、教會之榮光
 二十五、教會之榮華
 二十六、教會之榮貴
 二十七、教會之榮貴
 二十八、教會之榮貴
 二十九、教會之榮貴
 三十、教會之榮貴

第二章

ノ聖潔ナル信仰ヲ繼續スルコトヲ證明スベシ夫以我新教ノ現今セラル
 此書ニシテラニシテスウイタルラノ大アレテ及北亞米利加諸國ノ中
 ニ弘行シ信仰スル者甚々多ク特ニ此教法及ヒ定例ハ漸々全世界ニ普
 及セントスルヲ傾嚮アリ由是觀之ハ新教ノ興起スルハ實ニ神ノ應護ニ
 由ル者ニテ決シテ或者等々如ク此教會ハ基督ノ建タル教會ニ繼續セ
 スト云フヘカラス却說此新教ノ古昔ノ教會ト聯絡接續スル所以ハ四
 個アリ即チ(一)聖書(二)此書ハ中古天主教ノ隆盛ナル頃ト敢テ教會ヲ基
 礎タルコトヲ否メテ者ナキ耳ナラス天主教ノ或神學者カ註解セシ者ヲ如
 キハ今日新教徒中ニテ甚々貴重スル者ナリ(三)文學(四)新教徒ハ古昔天主
 教徒ノ著述セシ書類ヲ傳ヘ今日マテ支持セリ(五)玄奧及ヒ靈體ノ作動
 眞正ナル信徒ハ時々古今無關ハラス皆神ト交通シ互ニ相愛スルナ
 リ(六)教會ノ生命及ヒ道徳 現今新教ニテハ多ク古昔ノ聖歌祈禱及ヒ

例式ヲ用キル計アリ其故ハ以テ其時ノ新教ノ興起スルニ由リテ
 此改革ハ實ニ變遷ト云ハカカカカカ然レモ此變遷ハ唯其頃人民ノ
 心裡ニ存在セシ思想ノ一且其外部ニ溢出セシ耳ナラ決シテ新發ノ者
 ナラサルナリ實ニ此改革以前ニハ種々奇異ナル徵候以顯カレテ
 恰モ基督降世以前ノ奇異ニ異ナラサレハ或有識者等ハ此等種々ノ事
 變ヲ觀テ將來必ク一大變動ヲ起ランコトヲ豫想セリ
 改革ノ準備ハ兩種アリ(一)教會ノ外部ヨリ起ル者(二)教會ノ内部ヨリ起
 ル者

第一節 外部ノ準備
 一 歐羅巴學問ノ再興 歐羅巴ノ學問ハ教王大ナルレテ時紀元六
 百年(三)漸々衰微シテレマン太帝ノ頃(紀元八百年)ニ至リ全ク地ニ
 墜リ復テ事ナシル者ナラ後世ニ此時代ヲ指シ凡ヘテ黑暗時代ト

嘆へ然れど何頃よりカ學問又起り第十二三世紀頃ハ大學進歩其
後第十四世紀頃暫ク退步セント雖モ第十五世紀頃更ニ又著ク興隆
シ遂ニ從來學問目興隆新ニ起リ至シ研蓋學問ク斯ク如ク興隆セシ
所以ハ大學校ノ設置印廟術發明等アリ大ニ其輔ヲ爲セシニ由テナ
リ

〔三〕大學校此四校内ニテ神學法律及ヒ醫學等ヲ教授ス成者ニシテ
其最著ク著者第九世紀初頃オングラヂヤ王アルフレドノ勢力ニ
由テ興隆セリ其後シラスカニテ大學校ヲ設ケ又彼等有名ニ著クシテ
學校ハ第十三世紀ノ初頃ラヂヤニテ此大學校總長ヲ以テ從來京城
内ニ存在スル諸學校ヲ綜理セリ決議巨由テ建設セリ著クナリ
却說此大學校ハ「オクスフォード」大學校ト稱ス然レ所以其初設之ヲ建設スル時
以來ホリナル者其勢力ヲ以テ此校ノ神學部ヲ建設セルニ由ル者ニテ

初スハ唯其神學部及ヒ稱シ其後倍ス繁昌スル迄及ヒ學校全
體ノ名ト爲シリ斯クテ「オクスフォード」大學校ト稱スル者ハ其後
起リ有名ナル法律學ノ學校(「オクスフォード」)等ノ諸大學校其後相嗣
テ建設スルカ此等ハ皆世ノ改良ヲ促ス爲メ自勢力ヲ著ク爲レ
ル(蓋オクスフォード以下諸大學校建設以前後ニ就キテハ諸説紛々
シテ一定ス難シ)諸大學校書生ノ數ハ當時甚ク許多ナル者ニテ例シ
オクスフォードノ大學校ノ如クオクスフォード及ヒ「オクスフォード」
ノ在職セシ頃ニハ書生ノ數三千人許アリ特ニ「オクスフォード」ノ大學校
或說ニ其書生ノ許多ナルカ爲メ府下ノ人口一倍セリト云々今日
聽聞スルハ實ニ驚訝スルニ堪ヘズ此等諸學校皆ラテ之ヲ語リ以テ
教授セル故ニ書生ハ本概歐羅巴諸國ニテ集合スル者ナリ其能ハ其教
ヲ了解スルカ得テ此等諸學校ハ大概其政府ニテ種々ノ特權ヲ與ヘ

ラレ殆ト獨立の形狀大學校以如律ハツ辯々ト建製セザル
 法外ストテ批准ニ由テ政府ト干渉ヲ離ル且教王及ヒ諸國政府
 諸國格別ナリ特權與ヘラレ此校ニ居ル者ハ教諭以下皆生員至其
 矣皆其權有ス以テ設令犯罪ノ事アリト雖モ國王及ヒ官吏ニ之ヲ
 逮捕スル能ハサル耳其ヲテ教會トテモ教王ヲ除クソ外ハ監督教師ニ
 テモ之ヲ放逐スル能ハス且其總長ハ皆聖人ノ尊稱ヲ有スルナリ此等
 諸學校ノ勢力ニ就キテハ皆議論以自由ヲ有スル故ニ隨キテ思想ソ
 自由ヲ有シ教授法ノ如キ者漸々古代ノ方式ヲ改良シ彼ノ北極ノ如キ
 ハ更ニ之ニ據ラズ凡ハ之ヲ以テ種類ニ就キテ講習團論ヲ設クメテ其
 其頃思想ノ自由ヲ以テ例ヲ舉グンハ嘗テ新リテ大學校學生等四百
 九條ノ論題ニ由テ論辨セシ時或者等ハ神學ト哲學ト相離レテ者ニ
 所設令然三位學科基督ノ神性肉體ノ復活及ヒ靈魂ノ永遠等ノ説ハ神

學上ニテハ真理ヲ以テ哲學上ニテハ善美ヲ以テ此世共永遠不變者ナリ
 人類形而前以力即學心等ハ罪ヲ犯ス能ハス形而下力ハ是等罪
 天モ其業ハ四福音ニ以テ虛誕ナル小説ナリ新舊論無益論放蕩無禮論
 罪論論議之類ニテ因テハ亦沙大監督等之聞キ斯等事如キ
 論説ハ學校ヲ特權ヲ犯スルナリ我義務トシテ之ヲ排斥セサルヘカ
 其等事ヲ以テ其思惟セリ茲ニ我儕ガ記憶スルキニ事アリ即チ改革前
 重要ナル改革家ハ天概此等學校ヲ教諭及ヒ生徒ヲ中盤リ出シテ
 (三)キリシタン學者ノ散亡
 キリシタンノナリ則チ天ニ攻陷セラル、西方ヲ多ク以テ民ト共ニ相得
 利銀西方諸國由道志思以ハ此時歐羅巴諸國ノ貴族等其學問ヲ傳習
 せテ其説ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ之ヲ
 如キ最モ多ク招聘シテリ却説則チ以テ辭ハ昔昔主其雅俗兩種

載セシ如クナシト眞正ナル書籍ヲ出版セシテ千四百五十年ニラテ
 語ヲ聖書ヲ出版セシテ始メテ爾來相嗣キテキリヤラテ語ノ諸
 書ヲ出版シ遂ニ今日ノ盛大ナルニ至リテ其ノ盛ニ至ルニ至ル
 (四)文學者(ヒュマニスト) 此ハ第十六世紀頃ヨリ起レル者ニテ初メ其
 頃ノ有識者ハ多ク教會ノ風俗大ニ衰頽シテ教王及ヒ教師等ノ品行甚
 シ醜陋ナル耳ナラズ信徒ノ信仰モ亦全ク地ニ墮ナシテ觀テ基督教ハ
 偶像教或ハ「アノ」派ノ哲學ニ及バサル者ナリト思惟シ專ラ古昔ノ優
 美ナル文學ノミヲ研究セシカ其後種々ノ哲學等ヲ研究シ又中古ニ起
 レル煩瑣哲學ニ相對シテ純全ナル文學ヲ主張シタリ且此等ハ大概無
 神論者ニシテ教法ヲ蔑視スル者ナシト其間或ヒハ哲學ヲ教法トシテ
 教セシラシメ謀ル「新アジト」派ノ哲學者ア或世ハ自由自治ノ擴張等

熱心ナル武族アリ其他教王及ヒ教師等モ亦學ヲラサルナリ却說此
 文學者ノ中心ナルフロレンスノ地ニハ古昔ヨリシテ「ダ」派ノ哲學者
 建設セル「新アジト」派ノ哲學校アリ此學校ハ後年ニ至テ甚ク有名ナ
 ル者ト爲リ歐羅巴諸國ヨリ來學スル者許多アリ其教ハセルマニイ
 シテ「ア」等マテ弘行セリ或說ニ此學校ノ有名ナル教諭兩人ハ嘗テ其
 邸内ニ一小祠ヲ建テアジトヲ祀レリト且此等ノ文學者ハギリシヤノ
 美術ヲ以テイタリヤニ傳習セシ耳ナラズ美術ニ屬スル古器物ヲ網羅
 シ偶像教ヲ神體等ニ至ルマテギリシヤヨリイタリヤニ移轉セシカ此
 等ノ古器物ハ今日ニ至ルマテイタリヤノ諸會堂中ニ遺存セリ
 博士ヨリト及ヒ伯爵トマテモ此三人ハ其ニイタリヤニ來テ其高
 名ナル文學者ナリ抑モヨリトハ副稱ヲ改革前テ改革家ト稱シ初テ若
 年ヲ頃オグテラオルトハ大學校ニ入り後又天竺諸國所學校ニ遊ヒ凡

三年ニシテイメグナムトキニ歸リ始メ宗教操主義ノ演説ヲ爲シ然
 ルニ從來此國ニテハ握手禮ヲ受ケザル者ヲ聖書ヲ講義スルヲ禁ズ
 シカ此人ニハ特別ニ之ヲ默許セシメ山ニ其平生厭惡スル煩瑣哲學
 向キ痛ク之ヲ排撃シ其餘地ヲ遺サ、リシカ聴聞スル者甚ク多ク特ニ
 彼ノ後來有名ナルユラスムスモ之ヲ聞キ深ク其説ニ賛成セリコレ
 ハ始メ哲學ヲ研究セシ頃ハ深クゾイオニシウスノ「天國及ヒ教會ノ定
 例」ヲ喜ミ之ヲ以テ恰モ當時信徒ノ信仰セシ如ク實ニゾイオニシウス
 カ使徒パウロヨリ直傳セシ者ト思ヒ勉強セシカ其後ゾリメヤ語ニ熟
 達セル或學者ト共ニ精シク研究スルニ及ヒ始メテ其偽書オルトヲ發
 見シ爾來ハ其徒弟等ニモ唯聖書ノミヲ以テ真理ト爲スヘシト教ヘテ
 此大ハ後年ロンドンナル聖パウロノ大會堂長ト爲レリ却説トマス
 モルモ亦嘗テオックスフォードノ大學校ニ於テ勉強シ其後ヘンリ第八

夕唐政ニ抵抗シテ五百三十五年死刑ニ處テ此大ハ平生天主
 教ヲ信仰セシヲ知シナレバ其著述セシ「聖書ヲ讀ム」此頃流
 行セシ有神論ヲ喜ヒシヲ甚ク明白トシテ其著述ニテハ「聖書ヲ讀ム」
 此大ハ第十五世紀ノ中葉セルニ生レ歐羅巴
 大陸ニ最モ有名ナル文學者トシテ一人ニテ耳ナラス原語學ニ通達シ其
 名頗ル世ニ顯ハレシカ此頃許多ノ無智昧ナル修道者等カ古代ノ書
 籍ヲ焚燒シテ滅スルニ方リ深ク愛惜シテ之ヲ中止セシ謀リ之カ爲
 テ天主教徒ヲ凌辱受ケ悉ク其財產ヲ喪ヘリ抑モ此人ハ固ニ法律
 學者ニテ教會ノ教師ニアラサレバ「聖書ヲ讀ム」語ノ文典著述ヲ教師等
 プル語ヲ研究スルノ階梯ニ爲リ改革ノ爲メ功績アリ日語ヲ以テ特
 彼有名ナル「ラ」ヲ以テ「親」シテ其教導ヲ受ケシ耳ナラス其他ノ
 改革家モ多ク此人ノ爲メ益ヲ得タリ

亦亦最手有名ナル文學者ノ一人ナリ抑モ此人ハ幼名ヲゲラルドト云
 口或者ノ私生ナリ一説ニ修道者ノ子ナリ少年ノ頃或縁故ニ由テ僅
 少ノ財産ヲ得テ以テ之ヲ以テ學資トシ其國ナリ會住派ノ學校ニ入り
 專ラテラテ語ヲ勉強シ其後保管人カ此人ノ學資ヲ私消シ遂ニ此人ヲ
 強迫シ或修道院ニ入ラシメテ之ヲ敢テ修道者ト爲ルノ志アラサレハ
 修道院ヲ去リテパリノ大學校ニ至リ貧窶困難ノ中ニ在リト雖モ毫モ
 其志ヲ屈セズ倍ス學問ヲ修メ諸國ヲ遊歴セシカイノグラントナル或
 貴族ノ懇志ニ由テオクスフォードノ大學校ニ入り彼ノコレトトマス
 毛ルノ諸學者ト交リギリギリノ語ヲ研究スルコトヲ得テ其後ケンブリヂ
 ンノ大學校ニ招聘セラレギリギリノ語ノ教諭ト爲リ此頃愚痴ノ名譽ト題
 スル有名ナル一書ヲ著シ當時修道者等カ無學懶怠ナルハナリ嘲弄セリ

晩年ニ及ヒユウイッルヲ至リ大槪其地ニ住シ勉強ト著述ヲ以
 テ餘生ヲ終レリ抑モ此人ノ著述セシ書類ハ許多アリ其就中其傍註新
 約聖書ナル者ハ數種ノギリギリノ語聖書ノ寫本ニ就キ校合訂正シ且傍
 註ヲ加ヘシ者ニテ最モ緊要ナル書ナリ此人ハパリニ遊學セシ頃トシ
 ス、スコトス派ノ學者ニ就キ神學ヲ研究セシ故ニ其說ノ所多ク半ビレ
 ナアソノ説ニ基テ其普通信徒モ固ヨリ國語ニテ翻譯セル聖書
 ナリ讀ムヘシト述ヘシハ當時卓越セシ名言ト云フヘシ此人カ教法改革
 ニ與セサルコトニ就キテハ種々ノ説アリ一説ニ其性質卑怯ナル爲メナ
 リトアリ是レモ亦或ヒハ實説ナルモ知ルヘカラス然レモ要スルニ此
 人カ改革ニ與セサル一ノ理由ハ唯其徳操ノ改革ノミヲ希望シ教會ヲ
 根本ヨリ轉覆スルヲ欲セサルニ由テナリ蓋彼ノルイテルノ如キハ靈
 魂上ニ關スル定例ヲ改革シ熱心セシ故現世ノ幸福ニ就キテハ毫モ注

憲也。カトリシト雖此大特許人民ノ自由自治を被カテ教會ヲ制定例
 以テキハ却テ永遠不可搖シ者ト思惟セリ。蓋シテカトリシトノ教會ハ
 此頃詩人モ亦改革ノ爲メ大ナル勢力ヲ有シテ殆シト文學者ニ劣ラサ
 ルナリ。例テハイタリヤノ詩人ダントテリ。詩ニハ教王ヲ醜態ヲルヲ述
 へ其壓獄セシヲ發露シ又詩人セテラルシ。詩ニハ新皇ニ最初教會
 ノ如ク凡ヘテ制定例ヲ建テシトテ述ヘタリ云々。其ノ人々皆カトリシト
 三、**教王政治ノ衰微**。讀者尙古今ノ歴史ヲ沉潜反覆セバ必ズ一ツ緊
 要ナル事ヲ胸中ニ現出セシムル所ナリ。即チ國家ノ隆替ハ實ニ人力ノ
 奈何ニモ爲シ能ハサル者ニテ例テハ古昔ノバビロンニテアト及ヒロ
 ヲ等及如キ有名ナル強國ト雖モ一旦其衰運ニ傾ク時ハ何等ノ方法ヲ
 用テ之ヲ決シテ之ヲ挽回スル能ハサズ。如クマ教會モ亦此定則ヲ
 脱スル能ハサズナリ。即チ彼ノ監督大別オタル者カ自派使徒ヲテ

ノ法統ヲ嗣キタレシ「ペテロ」即チ盤石ナリト稱シ此教會ヲ組織セシ以
 來其勢力日月ニ増加シ教王ヒルテブランドノ時ニハ自ラ全世界ヲ統
 馭スヘキ權アリト主張シ其後教王イノセント第三ノ時ニ至テハ其
 勢力ノ強大ナルヲ特ニイノグランドフランス等諸國ノ政治ニ干涉シ
 或ヒハ其君主ヲ廢立シ或ヒハ其邦域ヲ制禁シ又ハ聖體變化説ヲ定メ
 人民ノ聖書ヲ繙讀スルヲ禁スル等種々ノ事ヲ行ヒタレシ。皆之ニ抗抵
 スル能ハス其權下ニ服屬スル人民ハ貳億萬ノ多キニ至リ實ニ其隆盛
 ナ極メタリ。然レヒロマ教會ノ命脈ハ此頃ヨリ漸々衰微シ第十二世紀
 頃フランス王フエリブ第四ハ常ニ教王カ其教權ヲ專ラニスル耳ナラス
 世務ニ干涉シ妄リニ威權ヲ逞スルヲ憤リシカ遂ニ教王ボニファエス
 第八ニ向テ其虛誕ナル教義ヲ定メ又聖職ヲ賣買セシヲ訊問シ教王
 ヨリ放逐ヲ命セラル、ニ及ヒ國內ノ貴族ヲ集メ必ズ將來ノ議會ニ於

テ此事ヲ上告セント告ケ其後遂ニ大軍ヲ遣シ教王ヲ生擒シ教王ハ之
 カ爲メ其蒙塵ヲ耻ナテ憤死セリ且フ^レアハ其後或フフランス人ヲ選ミ
 教王ニ立テ之ヲケレメント第五ト稱シ千三百〇八年其教廳ヲフラン
 スナルアウシエーンニ遷セシカ教王ハ是レヨリ數世七十年ノ間大概
 其地ニ居住セリ因テ世人ハ之ヲバピロンノ禁囚ト云ヘリ却説イタリ
 ヤニハ此頃グウエルフ及ヒ「キッペルリント」ト云ヘル二個ノ黨派起リ「グウ
 エルフ」黨ハ常ニ教王ヲ輔翼シ「キッペルリ」黨ハ大ニ教王ニ抵抗シ其所
 領ノ郡區ヲ狼籍シ或ヒハ詬罵ヲ極メタル種々ノ書ヲ著述シ又ハ教王
 ノ布告ヲ塵泥ノ中ニ汚穢セシムル等種々ノ侮辱ヲ試ミシカ諸國人民
 モ亦其舉動ニ傲ヒ教王ニ背叛スル者許多アリ教王ハ其後教廳ヲロマ
 ニ復シタルニ遂ニ昔日ノ隆盛ニ挽回スル能ハサリシナリ第十四世紀
 頃アラストリア帝及ヒマランヌ王ハ互ニ教王ヲ己ニ服從セシメント

テ種々ノ計略ヲ施コシ或時ハ國內ニ於テ私カニ教王ヲ選立セシトア
 リ之カ爲メ二三人ノ教王一時ニ併立スルトハ屢々ナリシカ或説ニハ
 四人ノ教王併立セシトアリト却説其競争ノ倍ス旺盛ナルニ及ヒ千三
 百七十八年フランス並ニスペインスコットランドシ、リ等ノ諸國ハ教
 王クレメント第七ヲ奉シアウストリア及ヒ其他ノ諸國ハ教王ウルバ
 ン第六ヲ奉シ遂ニ戰端ヲ開キシカ其後五十年許リ連續シ人民ハ賢ニ
 塗炭ノ苦ニ陷キリ且教王ハ其頃互ニ其敵者ヲ放逐セシニ由テ人民教
 王ヲ尊敬スル心漸々衰微シ終ニ之ヲ平等視スルニ至レルハ蓋止ムチ
 得サル結果ナリ却説此等諸事ハ教王政治ノ衰微ニ就キ最モ著大ナル
 者ナレトモ其餘瑣細ナル者ニ至テハ許多アリ
 教王政治ノ勢力ヲ喪キシトニ就キテハ矯正議會ノ力モ亦與リテ力
 リ特ニ教王ジョン第廿三カ千四百十四年セルマニノ南部ナルユニス

マシスニ開キタル議會ノ如キハ其最モ顯著ナル者ナリ初メ此教王ヨ
 ヨン第廿三ハ天性甚ク暗愚ニシテ其頃教會ノ大ニ紛亂スレトモ之ヲ統
 馭スルノ才幹ナク且セルマニ帝シヤスムソドカ屢々議會ヲ招集シ其
 矯正ヲ議セシメテ勸奨シタレトモ亦之ニ從フ能ハス數回其期ヲ遲延セ
 シカ遂ニ是歲ニ至リテ招集セリ却說此議會ハ從來教會ニ行ハレシ種
 々ノ惡弊ヲ矯正スル爲メナレハ其議員タル者ハ甚ク多カラサレトモ教
 師貴族等ノ傍聽ニ來レル者極メテ多シ議員中ニテハバリノ會堂長シ
 ヨンセルソノ等頗ル勢力ヲ占メ教王ニ抵抗シ其從來行フタル專斷ノ
 權ヲ抑ヘ立憲ノ制度ヲ設ケシカ是レハ唯其名義ノ立ナシ耳ニテ實行
 スルニ至ラザリシナリ此議會ハ凡ソ三年半許リ連續シ議會ノ權ヲ教
 王ノ上ニ置キ且重大ノ力ヲ有セシム等ノ事ヲ決議シ其他從來ノ惡弊
 ヲ矯正スヘキ種々ノ議論モ甚カラザリシカ教王マルテシ第五ヨリ他

日再ヒ招集スルニ由テ今者ノ議會ヲ解散セシメテ願望セシカハ遂ニ
 其意ニ從ヒテ閉會セリ然ルニ教王マルテシノ其後數年ヲ經レテ敢テ
 契約ヲ履ム色ナク教王ヨシノ第四ノ時ニ至テ始メテ議會ヲハルニ
 招集セリ時ニ千四百卅一年ニシテ解散後十三年目ナリ然ルニ此議會
 ノ精神モ亦頗ル改革ノ傾嚮アリシカハ教王ハ深ク憂悶シ再度マテ解
 散ノ命令ヲ下シテ議會ニテ敢テ之ヲ用キザリシカハ教王ハ更ラ
 ニイタリヤノフニテラ、ニ於テ議會ヲ招集シ且ハルノ議會ニテ其後己
 ナ召喚シ舊惡ヲ訊問セシメテ憤リ悉ク其議員等ヲ放逐セシニ議員等
 ハ却テ教王ヲ以テ贅物トシ更ラニ新教王ヲ選立セリ却說此等ノ事ハ
 實ニ教王ノ基業ヲ傷害セシ者ト云フヘシ
 三、**教王及ヒ聖職者等ノ醜行** 此等ノ品行ハ其頃數世紀ノ間ニ於テ
 甚ク醜惡ナル者ト爲レリ今其顯著ナル者ヲ舉ゲシ第十五世紀ノ季

頃スルニノ貴族ボルサア家世山テ法統未嗣キタテ教王ヲ以テキ
 シテ第六ハ爲メ甚ク凶惡言シテ或ヒハ詐欺シ言行ヲ爲シ或ヒハ其
 親屬等ト姦通スル等實ニ名狀スベカラサル醜行アリ之カ爲メロマノ
 人民ハ此教王及ヒ此教王ノ子カイザルノ醜行ニ傲ヒ甚ク淫佚ナル者
 ト爲リテ故ニ此教王ノ事ニ就キテハ天主教ノ著述家ト雖モ之ヲ評シ
 テ大逆無道ノ怪物ナリト云ヘリ然レモ此教王ハ其後或教宰ヲ毒殺セ
 シト云或響應ノ日其宰府ニ命シ毒物ヲ調理セシメシカ其教宰カ疾ク
 之ヲ覺リ宰府ニ賄賂シ却テ教王ニ進供セシ故教王ハ迷ニ之カ爲メ落
 命セリ又教王ニヨリテ第三ハ天性甚ク闘争ヲ好ミ或ヒハ歐羅巴諸
 國ヲ煽動シテ干戈ヲ動カサシメ或ヒハ兵器ヲ執リテ親ラ軍陣ニ臨ミ
 シテ又嘗テ會堂ニ於テ拜禮式ヲ文ヲ捧讀セシ際會々教王ノ軍兵
 ニテテ試メテ爲メ新術ヲ授レシテテ散報達シテ以テ教王ハ忽チ其

文ヲ擲テ神名ヲ讀モリ是ヲ以テ彼ノエラスムスハ其著述セシ「愚痴ノ
 名譽中」ニ於テ深ク此教王ヲ譏刺セリ其他改革頃ノ教王リテ第十ハメ
 テテ家ヨリ起リテ法統ヲ嗣キ頗ル文學者ノ聲譽アリ且彼ノエラスム
 スハ交通シテレモ當時無神論者ノ風習ニ化セラレ信仰ノ志ナク四福
 指シテ耶穌基督ノ小説ナリト云ヒ又或ヒハ美術家ヲ保庇シ或ヒ
 ハ劇場ヲ鼓舞シテ廣大隆盛ナラシム等ノ事ヲ爲セリ故ニ彼ノエラス
 ムハモ始メハ此人ヲ重シ教會改良ノ望ヲ屬シタレモ此等ノ行狀ヲ知
 レバ及ヒ此教王ノ舉動ハ耶穌基督ヲ死人視スル者ナリト云ヒ又或者
 ハ此教王ヲ批評シ其舉動鄭重ナル人ナシハ倘又道ヲ知ルニ至レバ實
 ニ完全ナル人ナリト云ヘリ蓋シテ偶像教徒ノ如キ舉動ヲ爲シ却テ名
 譽ヲ如ク思惟セシハ其頃ロマ教廳一般ノ風習ヲ却テハルニシテ大
 學校級其頃無神論者ノ巢窟ナリシヲ或教諭ハ嘗テ一書ヲ著シテ靈魂

永遠ナル者ニテ、アラスカニ於テ論シテ之ヲ出板シ、又イノモヤニ政治家ニ
 キアツキリガ管ヲ「皇子」ト題スル書ヲ著シ、政治學ハ私慾ヲ以テ基礎ト
 スル者ニテ之ヲ行フニ方リテハ、虚談屠殺暗殺等ノ舉動ヲ爲スル敢テ
 惡事ニアラス、但基督教ノ主義ヲ執リテ實行セシムル欲シハ、到底國家ヲ
 統馭スヘカラスト述ヘタリ
 此頃、ロマノ 教廳ハ專ラ利欲破廉耻ヲ專トシ、聖職ヲ希望スル者ニハ許
 多ノ金額ヲ出サシメ、又公然ト聖職ヲ賣買スル惡弊アリ例ヘハ、或者ハ
 壹萬五千圓ヲ以テセルマニナルマヤノスノ大監督職ヲ買ヒシコアリ
 且教廳ニテ職員ヲ命スルニ唯其納金ノ多少ヲ觀テ、道德學問ノ奈何ヲ
 顧ミカサル形狀ナレハ、監督等ニ任スル者ハ多ク王族播紳ノ徒ナレハ、驕
 奢放肆ニシテ職務ヲ盡サ、ル耳ナラス、或ヒハ兵器ヲ執リテ陣頭ニ臨
 ヲ者アリ、特ニ其權下ノ教師等ニ至テハ皆無學識昧ニシテ博奕淫樂ノ

ミテ事ト爲セ、蓋惡派ノ修道者等ハ其品行稍ヤ、教師等ヨリ優リタ
 熟者アリ、且其人數モ甚ク多ク、然レモ其無知無學ナル者、殆ト教師等
 ト異ナラス、倘ヘブルギリヤノ語學ヲ研究スル者、アノハ之ヲ指シテ
 異端ヲ致スル者ナリ、云ヘリ蓋此惡弊ハ唯修道者ノ爲ナラズ、カ貴族播
 紳ノ間ニモ亦流行シ、オクスラホルドノ大學校ノ或教諭ハ國王ヘンリ
 第八カ其校ニ來リシ時、ギリヤ語ヲ研究スル者ハ異端家ニシテ之ヲ
 教授スル者ハ惡魔ナリト演說シ、又「ソルボ」ノ大學校ノ者等ハ其國々
 會ニ倚ヘブルギリヤノ語學ヲ研究スルヲ許可セハ、教法ハ忽チ地
 球ニ墜ルヘシト建議セリ、且此頃教師ノ講義ハ大概古聖人ノ事蹟ヲ演述
 スル等ノミニテ、聖經ノ教義ヲ述ベシコハ甚ク罕ナリ、蓋此頃
 四種々ノ兆候、變亂ノ機已ニ切迫スルニ及ヒ、其兆候ノ顯ハシキ
 一ニシテ足ヲサシナリ、例ヘハ、教法詰問、嚴刻ナル頃ハ人々皆畏怖ノ

念ヲ懷キ逮捕殺害等ノ禍難ハ到底免ル能ハル者ナリト思惟以テ
 此頃ヨリ之ヲ脱セシト希望スル者四方ニ起リ且火藥ノ發明以來ハ
 貴族等ノ威權地ニ墮テ社會ノ形狀一變セリ第十三世紀頃羅針盤ノ發
 明以來ハ貿易交通ノ道甚ク發達シ特ニ亞米利加發見後ハ歐羅巴ノ道
 書ト苦メル者多ク其國ニ逃亡セリ又ユール人(回教徒)此頃ヨリ
 遠近ノ地方ヲ驅逐セラレテ人ノ侵奪モ停止セシカ此等ハ實ニ兆
 候中ノ最モ重大ナル者ナリ

第三節 内部ノ準備

此頃許多ツ有力者カ教王等ニ向テ其妄ニ信主シテ威權ヲ揮ヒ信徒ヲ
 虐使スルコト及ヒ聖職者ノ力ヲ以テ信徒ノ罪ヲ救テ救ヲ爲ス教義ニ抵
 抗スルコト且其此等ツ有力者中ニハ自ラ其何等カ結果ヲ生ラルヲ知ラ
 チル者ナリ却テ其有力者ハ即チ其如キ事ヲ爲シテ

一 改革前ノ改革家

〔聖〕シヨシウイタリフ此人故稱テ改革ノ曉星云又其事ヲ論ス
 毎ニ能ク聖書ヲ引照セシ故ニ或ヒハ聖經博士ト喚バレテ初ニ此
 人ハ千三百廿四年頃オランダノ學生ニ若年ニシテオランダノ
 ノ天學校ニ入リ遂ニ其學校ノ或學部長ト爲ラレタリ未ダ之ニ満足セ
 ズ其近傍ナリ或教會ノ牧師ヲ兼務シ晚年ニ至リテ其牧師ノミナリ務
 安リ先是イソラランド人ハ其國王ヨシカ教王イソラノ第三
 軌條ヲ制禁ヲ受ケタリ爲テ深ク教王ヲ憤恚セシニ其後ヨシカ教王
 ノ命ニ從ヒ金錢ヲ寄附スル約束ヲ爲シテ其倍々深ク教王ヲ憤恚セ
 シ是ヲ以テ此人カ改革ヲ起圖スル爲メニハ實ニ好機會ヲ得タリ
 以テ其大概著述シカニ由テ其勢力ヲ占メシカ其實著述セシ「教會
 ノ最期」下題ナル書也此書或修道院長ヨシキムナル者其第十三世紀

ノ未頃著述セシ「無限の福音」ヲ讀ミ、然後起稿セル者ナリ故ニ其書ニ關
 連セル舊約聖書ニ又ナル神ニ關スル法度ニシテ其重要ナル者ハ能力
 ナリ新約聖書ハ子ナル神ニ關スル法度ニシテ其重要ナル者ハ智識ナ
 リ蓋此等ハ皆今日存在スレドモ後來ハ俱ニ聖靈ノ法度即チ相愛ナル者
 ニ譲リ此世ヲ去ルカ故ニ教會ハ必ズ滅亡スルトノ意ヲ基キ當時ノ教
 王ハ基督ノ代理者ニアラス却テ之ニ抵抗スル者ナリト記載セテ蓋此
 人ノ思想ハ年々開ルニ從ヒ漸次ニ開發セシナリ又其「福音」ノ語
 ニ翻譯セル聖書ハ此人カヘ「ブルギヤ」ノ語ニ通ヒサルカ故ニ「ウ
 グト」(ゼロム)ノ譯書(ニ基キ翻譯セル者ナレドモ其一代功績中ニテ最モ緊
 要ナル者ナリ却説「ウグランド」王ハ教王ニ從時ニシテ聖職者補任權ヲ
 爭ヒシカニ「ド」第三ノ時ニ至リ千三百七十四年教王ノ大使ニ會
 シ其事ヲ協議シ且茲處ニテ聖職ヲ賣買スルコトヲ停止セシムル爲メカ

イシリフ及ヒ其他六人ノ者ニ其委員ヲ命セリ因テウイシリフハ其他
ノ者ト共ニベルヂウムナルブルイデニ至リ大使及ヒ隨行員ニ會シ協
議ヲ爲セシカ此時大使等ノ惡意ニシテ利欲ナルヲ觀察シ深ク之ヲ厭
惡シテ其後議事整ハスシテ國ニ歸ルニ及ヒ教會ハ基督ノ外別ニ
頭首ヲ置クヘカラスト論セリ且天主教ヲ駁シ果シテ其教義ノ如ク教
王ハ設令惡逆ニシテ墮獄スヘキ者ナリト法統ヲ嗣キシ故ニ敬崇セサ
ルヘカラスト爲セハ我等ハ斯クノ如キ惡魔ヲ敬崇セサルヘカラスト
手ト又赦罪券ヲ駁シ果シテ天主教ノ説ノ如ク教王ハ古聖人ノ行フテ
ル餘徳ヲ以テ其恩惠ノ藏庫ト爲シ全世界人類ヲ救フ全カアリト爲セ
ハ一切罪人ヲ救拯セスノハ教王自ラ其責任ヲ受クルヘシト且比較論
法ヲ以テ天主教ノ「マス」ノ麵包葡萄酒ハ全ク變ジテ基督ノ血肉ト爲レ
ト唯形質ノミ舊ノ如シトノ説ヲ駁シ果シテ然ラハ教王及ヒ聖職者ノ

惡業罪過モ亦唯其形質ノミニシテ真正ノ惡業罪過ニテアラスト信セサ
 誠ニ分ラズ云ヘリウイニカ病ニ罹リ危篤ナル頃或神學者及ヒ
 巡歴派ノ修道者等カ凡ヘテノ總代トシテ之ヲ訪問シ此人ニ其當テ巡
 歴派ノ者ト激論セシコト懺悔スヘシト勸諭セシニ此人ハ始メ臥榻ノ
 上ニ平臥シテレニ之ヲ聞キ忽チ侍人等ニ授起セラレ其榻上ニ直坐シ
 否否我ハ死セヌ我ハ巡歴派ノ者等カ惡行ヲ世人ニ知ラシム爲メ回復
 スヘシト答ヘタリ且其著書ニ據ルニ此人ハ自ラ殺害ニ遇ラナイ覺悟
 シタレ能ク敢テ之ヲ恐レザリシナリ教主ハ此人ヲ惡ミイソクシラント
 官吏等ニ斤割セシコト請求セシ耳ナラス兩度マテ議會ニ召喚セリ然
 レ能ク初メノ議會ニテ監督等ハ此人カ異端ヲ爲メ召喚セラシタル者
 ナリト椅子ニ着カシムヘカラスト云ヒ此人ヲ保庇スル或勢力アル朋
 友ハ必ス此人ヲ椅子ニ着カシタリト主張シ議論沸騰シテ全會遂ニ之

カ爲メ解散ト爲リ且其後ノ議會モ亦會々地震ノ爲メ解散ト爲リタレ
 ハ此人ハ之ヲ嘲弄シテ地震議會ト云ヘリウイニシテ千三百八十四
 年死去セシカ其生前常ニ教主ニ抵抗セシニ由テ千四百十四年コニス
 シノ議會ニ於テ其說四十五條ヲ擯斥シ一切ノ著書ヲ焚棄シ其墳
 墓ヲ發キ骸骨ヲ遠シ聖地外ニ棄スヘシト決議シ其後十三年ニシテ教
 王マテ第五ノ命ニ由テ之ヲ實行シ且其焚燼セシ灰ヲ以テ此人カ
 布教地ノ中ヲ貫流スル「アウソ」川ニ棄シタリ却說此聖地トハ其頃教
 會ノ習慣ニテ特別式ヲ行ヒタル墓地ヲ斯ク稱號セシナリ抑モ彼ノ「ロ
 シ」ナル者ハウイニシラカ當時聖職者ノ怠惰ニシテ能ク勤メサル
 ヲ觀テ更ラ一派ヲ起サ、ルヘカラスト思ヒ之ヲ組織セシ者ニテ其
 徒ハ皆ウイニシラカ聖職者ナル者ハ清貧ニシテ且基督及ヒ使徒等ノ
 如ク諸勞ヲ巡歴シ貧民等ニ傳道ヲ敢テ一處ニ永住スルカヲ以テ

ノ教ニ從ヒ消貧ニシテ能ク諸方ニ奔走シ且能ク聖書ノ教ヲ守リ第十
 五世紀マテ連續セシカ其徒中ニハ殉教セシ者モ多カラサルナリ
 (二)ミリツ此人ハウイリフカイングランドニ出タル頃ホヒミア
 ウストリアノ西北ニ出テ教會ノ改良ヲ促セシ者ナリ抑モ此人ハ嘗テ
 ホヒミアノ京城ナルブレグノ大會堂長ニ選任セラレシカ其頃ブレグ
 ノ風俗甚ク廢壞セシテ觀テ深ク慨歎シ其放蕩ナルコト恰モ古昔ノソド
 マニ彷彿タレハ力ヲ盡シ道ヲ開カシメサルヘカラスト遂ニ大會堂長
 ノ職ヲ辭シ自ラ人民ニ就キ毎月一回或ヒハ數回ノ講義ヲ爲シ且大學
 校書生等ノ爲メニハラテノ語ヲ用キ市民等ノ爲メニハ普通ノ語ヲ用
 キテ講義セシ耳ナラス惡徒無賴ノ巢窟及ヒ青樓妓院等ニ至ルマテ親
 ラ至リテ懇切ニ教誨セシカ之ヲ聞キ感激シ道ニ入ル者甚ク多ク或青
 樓ノ主人ハ之カ爲メ其醜業ヲ廢シヌリ却說此ミリツノ深ク聖書ノ豫

言ヲ勉勵シ其頃廢敗セル教會ノ將サニ轉覆スルコト悟リ當時世ノ口
 碑ニハ基督ノ敵(壹約二二十八)ハユダヤ人ニテ三年半ノ間教會ノ政治ヲ
 覆ヒ自ラ統馭スヘシト傳ヘタルニ此人ノ說ニテハ基督ノ敵ハ既ニ今
 日ニ現出セリ然レモ遠カラズシテ滅亡スヘシト稱シ且教王ヲ勸戒ス
 ル爲メロマニ赴キシニ教法詰問者等ノ爲メ逮捕シテ暗室ノ中ニ繋レ
 タリ然レモ其後教王ウルフ第五ノ命ニ由テ放免セラレタリハ己ニ
 アレクニ歸ルニ及ヒ數百ノ少年ヲ集メ此等ニ讀書騰寫及ヒ貧民中ノ
 傳道ヲ爲サシマタルハ其教ハ大ニ世ニ傳播セリ然ルニ聖職者等ハ之
 ヲ緋號シテ大乞丐ト稱シタリ今其理由ハ明晰ナラサレモ恐クハ此者
 等ノ舉動古代大乞丐ト稱セシ異端者ト類似セシ爲メニアラサレハ其
 專ラ祈禱ヲ行ヒシ爲メナラシミリツハ異說ヲ唱道スルトノ告訴ニ由
 テアレクニミリツノ教廳ニ召喚セラレシカ其詰問中病ニ罹リ死去セリ

時ニ千三百七十四年ナリ
 (三) シヨシ、ホス。此人ハ千三百六十九年ホヒミアノ西部ナル一小村ニ
 生レ若年ノ時アレクノ大學校ニ入り後其教諭ト爲リ三十三歳ニシテ
 其總長ニ任セラレタリ此頃アレクニ兩人ノ豪族アリ共ニ協力シテ
 以テハト云ヘル宏大ナル會堂ヲ建築シホスニ俗語ヲ以テ其會堂ノ
 講義ヲ爲サントテ願望セリ因テホスハ其後屢々人民等ト集會セシメ
 由テ土地ノ情况及ヒ教師ノ怠惰ナルコトヲ窺知スルヲ得タリ抑モ此ホ
 ヒミアカ其王女カインクランド王リナヤルド第二ト結婚セシ等ノ爲
 兩國ノ交際甚々親シシ生徒等互ニ交通スル耳ナラヌ學校ニテモ互
 ニ兩國ノ教科書ヲ讀習スルコトヲ許可セシカ或者ノ嘗テウイックリフノ
 著書ヲイックラントヨリ携ヘ來リシ以來書生等之ヲ喜ニ實體論者ト
 爲ル者許多アリホスモ亦喜ニテ其書ヲ讀ミ遂ニ其主義ニ從ヒ演説

爲スニ至レリ然ルニ此學校ニテウイックリフノ著書ハカニ教會ノ説ヲ
 抵觸スル者ナレハ之ヲ校内ニ用キルニ就キテ否ヲ質問スル者アリ
 遂ニ投票ヲ以テ其可否ヲ決セシトセリ然ルニ此學校ニハ從來セル
 マニパウウリアサキリニホルラン等ノ書生許多集合セシカセルマニ
 書生等ハ自ラ其勢力ノ隆盛ナルヲ恃ミボヒミア人ニ三倍スル投票
 權ヲ得ルヘシト主張シ之ヲ實行シ且其投票ニ由テホスガ嘗テ或大會
 ニ於テ腐敗セル言行ヲ爲ス聖職者ハ基督ノ敵ナレハ忽チ滅亡スヘシ
 ト述ヘシ如キ過激ノ演説ヲ爲スコトヲ禁止セリ因テホスハ國王ウエ
 ンセラウスヲ懇親ナレハ國王ニ願望シ投票ノ方法ヲ改革シホヒミア
 人ニセルマニ人ヨリ三倍セル投票權ヲ與ヘ且之ヲ布告セシカハセル
 マニノ書生等ハ之ヲ聞キテ大ニ沸騰シ悉ク退校シテ或ヒハセルマニ
 學校ヲ移シ或ヒハライアツイグニ至リ更ラニ大學校ヲ建設セリ或

設此時書生ヲ退校セシ者凡ソ五千ナラントテ却説アレクノ大
 學校ハ此騷動ノ爲メ僅カニ千人許ノホビニアノ外ハ皆退校セシカ
 ハ校内ニテホスヲ欣慕スルコトハ敢テ昔日ニ異ナラシニ校外ニテハ
 其名望大ニ衰ヘ特ニ府下ノ市民等ハ此騷動ノ爲メ其生活ノ道ヲ喪フ
 タレバ大ニホス及ヒ此布告ヲ憤恚セリホスト教王ノ軋轢ハ年月ヲ經
 ルニ從ヒ漸次ニ增長シ教宰ビイタルハ此一家ヲ制禁セシ耳ナラス又
 其國民タル權利ヲ剝奪スヘシト恐赫スルニ至リタレハ遂ニ國王ノ請
 求ニ由リアレクヲ去リ其親友ナル或貴族ノ城寨ニ移リ此地ニテ彼ノ
 有名ナル「教會」ト題スル書ヲ著述セリ然ルニ此書ハ後年教法詰問ソ時
 仇讐等ガホスヲ詰問スル憑證ト爲レリホスハ其後教王ヨリ羅馬ニ召
 喚セラレタレドモ羅馬教會ニテハ既ニ其豫審ヲ定メシナラシ加之教王
 其基督ヲ敵ナリト思惟シタレハ敢テ其召喚ニ應ヒズ教王ガ教會ヲ管

轄スルコトハ羅馬スタンテソ大帝ノ勢力ニ由テ定メタレドモ眞正ニ教會
 ノ頭首多ク者ハ唯ニ少基督ヲ信スル者ニテ却説此ホスカ教王ト軋轢セ
 教王ニ就キ世人ハ多ク其「マ」ノ葡萄酒ヲ普通信徒ニ受ケシメサルヲ
 否シシ爲メナリト稱スルナラシ然レドモホスハ此例式ニ就キテハ殉教前
 口ヲ封シ獄舎ニ下サレシ頃マテ未ダ一定ノ見識ヲ建テシコアラサレハ
 其眞否ハ明白ナラサルナリ蓋此人ノ徒弟等カ其未ダホセミアニ在ル
 頃ニ既ニ晚餐ノ杯ヲ用キシコト甚ク明證アリホスハコンスタンス
 シ議會ヨリ召喚セラレシ時セルマニ帝シヤスマンドハ公平ナル裁判
 ナ爲メテ約束シ且護衛兵ヲ送ラント云ヒホスノ朋友等モ亦其議會ニ
 出ルコトヲ勸奨セシニ由テ議會ニ出席セシカ仇讐等ハ敢テ其約束ヲ守
 ラサル耳ナラズ頗ル不公平ナル裁判ヲ爲シ且教宰等ハ或者ノ讒訴ヲ
 受ケ此人ハ遁逃セント爲セリトテ開室ノ中ニ繫獄シ減食等種々ノ苦

李ヲ加入殆以遂生命ヲ傷害スルニ至リ又其詰問ノ際其於テ毫モ其
 スニ辨述ヲ爲カシメス又其談話ヲ爲カシトス以テ忽チ之ヲ禁止シ其
 折檻ノ甚シキコトヲ基督ニ上告スシテ聞者皆之ヲ嘲笑スル形狀ナレバ
 ホスハ或日シヤスルニ帝ニ向キ我ハ陛下ノ與ヘタル護衛兵ニ由テ
 此地ニ來リリト云ヒ且之ヲ嫉視セシニ帝ハ慙愧シテ其面色ヲ報ラメ
 シリ仇讐等ハ其スノ聖職ヲ視ヒ之ヲ殺害セシト欲シホスニ隨行セル
 其時アリ或武族カ深ク其裁判ノ不公平ナルコトヲ諫メタレド敢テ之
 ヲ用キテ遂ニホスニ向キ我儕ハ汝ノ靈魂ヲ惡魔ノ手ニ托スト云ヒ異
 端者ノ巨魁ト誌セル紙製ノ高帽ヲ冠ラシメ官吏ニ送付セシニ官吏ハ
 鐵鎖ヲ以テ其頸ヲ縛リ焚殺ヲ爲セシ後其灰ヲライシ河ニ棄テシカ
 事五年ナリ却説ホスガ斯ノ如ク迫害ヲ受ケシ理由ヲ釋スルニ是レ

聖唯教王等ノ嫉惡ヲ受ケシ爲メ耳ヲラヌ嚮ニアレクシテ大學校ヲ退校
 セシセルマニハ遺恨ヲ挾ミ又名目論者等ノ憤恚ヲ受ケシニ由テオ
 リ例ヘテ彼ノヨニススルノ議會ニ於テ或改革カホスハ實體論ヲ主
 張スル者ヲレハ聖體變化説ヲ信スル能ハサラン奈何トナシハ實體論
 ニ從ヒ論ズレハ麵包ノ全ク其元質ヲ喪ヒ基督ノ肉ニ變スルコトアラ
 カレハナリト述ヘシ如キ是レナリ抑モボヒミアニ在ルホスノ從弟等
 ハ大概其死後ニ至ルマテ常ニ聖書ヲ標準トシ教王ノ教主管轄ヲ否ミ
 其決議ニ從ハサル耳ナラス其普通信徒等ニモ晚餐ノ葡萄酒ヲ受ケシ
 タナリト云フ

(四) アレクシテ此ハゴヒミアノ貴族ニシテ天性物ニ驚カス若
 年ノ頃ヨリ武族ト爲リ諸國ヲ巡歴シオクニソノオールドノ大學校ニ入リ
 シイシリテ説ヲ喜ビ送ニ其著書ヲ新シテ國ニ歸リ或ヒハラテメキ

リシヤノ兩教會チ一致セシメシト希望セシヤア此ハ彼ノホスト
 常ニ親シ交際セシカホスカコソノ議會ニ召喚セラレ、ニ方
 リ之ニ向キ倚足下ノ爲メ輔佐スヘキヲアラハ我モ亦來リテ之ヲ周旋
 スヘシト云ヒ一旦コンスタンスニ至リシニ朋友等皆其迫害ヲ受ケン
 ヲ恐レ速カニ歸國スヘシト勸メタレハセロム之ニ從ヒ其翌日コン
 スタンスヲ去レリ然ルニ仇讐等此ハ歸路ヨリ近傍ノ村
 落ヲ過キシ時其裁判ノ公平ナラサルヲ譏刺セリト聞キ忽チ之ヲ追捕
 シ鐵鎖ヲ繫ケコンスタンスニ拘留シ既ニホストヲ殺害セシ後又此人ニ
 迫リ其持説ヲ更メシメシト爲セシニ此人ハ一旦其脅迫ニ承諾シタレ
 其翌日又之ヲ取消シ持説ヲ主張セシガハ遂ニ焚殺ノ刑ニ定メタリ然
 レハセロムハ焚殺セラレ、ニ臨ミテモ敢テ恐怖畏怯スルノ色ナク仇
 讐等刑架ノ後ニ於テ火ヲ焚クヲ願ヒ我前面ニ於テ之ヲ焚クヘシ我

倚火ヲ畏ルレハ此處ニ來ラザルヘシト云ヒ泰然トシテ死ニ就ケリ時
 ニ千四百十六年ナリ抑モ此人カ從容トシテ死ニ就キ敢テ恐懼畏懼セ
 サルト古昔ノソシラテスニモ超越セシ所アリ由是觀之ハ其一旦持説
 ヲ更メシト承知セシハ後日ニ至リ深ク後悔セシト固ヨリ論ヲ俟タサ
 ルナリ

〔五〕サウオナロラ 此人ハイタリヤノ北部ナルフエラ、ニ生レドミニカ
 ノ派ノ修道者ト爲リフロレンスナル聖マルクノ修道院ニ居リ講義ノ
 巧妙ナル爲メ甚タ有名ナリ此人ハ一歳講義ノ際聖職者及ヒ人民等ノ
 醜行ヲ諫誡シ又神ノ譴怒ニ由テ漸々刑罰ノ及フヲ及ヒ神力ニ由テ聖
 潔セラル、トチ主張シ又嘗テ或者ニ向キ詳細ニ外國帝王カイタリヤ
 ニ來ルトテ預言セシニ其後果シテフランス王チヤレヌ第八カ來リテ
 シハ人民等多ク其預言ノ應セリト思惟セリ然レトヤレヌハ其後幾

干モナツ國ニ歸リ且フロレンスモ一旦サウナラノ勢力ニ由テ、
 アナ家ノ王政ヲ轉覆シ共和政治類似ノ政體ヲ建テ紀綱ヲ更張シタレ
 其後暫クシテ政治衰微シ復タ昔日ノ如クナル能ハサレハ人民等是
 レヨリ始メテ其真正ナル預言者ニアラスト疑ヘリ抑モ「フランシスカ
 シ」派ノ修道者ハ古昔ヨリ常ニ「ドミニカン」派ノ修道者ヲ敵視セシカ今
 者サウナラニ抵抗シ且其教王ノ命ヲ受ケテモ敢テ譁義ヲ止メス又
 「ロマ」ニ赴カサルニ及ヒ之ニ乘シ酷ク迫害ヲ加ヘ且「フランシスカ」派
 ノ修道者ハ教王ニサウナラヲ焚燒シ其真正ナル預言者ナルヤ否ヲ
 試験スヘシト建議シ此人カ暫ク其試験ノ承諾ヲ遲疑セシニ忽チ之ヲ
 逮捕シ種々ノ苦辛ヲ與ヘ強ヒテ其要求ニ從ハシメタリ因テ此人ハ苦
 辛ニ耐ヘス一旦之ヲ承諾シタレ後日ニ深ク之ヲ後悔セシカ遂ニ焚
 燒ニ遇ラテ死セリ時ニ千四百九十八年ナリ抑モ此人ハ生涯國家及ヒ

教會ヲ改良セント希圖シタレ其較計ハ唯或部分ノ改良ニ止リ後年
 ル「テル」等ノ爲メニ起レル改革ノ如キハ嘗テ夢想セサリシナリ
 却說セルマニニテ教主管轄ヲ否ム者ハ彼ノ有名ナルカイセルベルグ
 ノ「カイレル」等尙ホ數人アリ抑モ此「カイレル」ハ有名ナル講義家ニテ凡
 シ三十年ノ間セルマニニ働キシカ大概新教ノ傳道者ノ如ク聖書ノ經
 文ニ由テ之ヲ爲シ又比喻ノ語ヲ以テ聖職者ヲ駁シ尙教王ノ說ノ如ク
 惡人ハ「マス」ヲ行フヘカラストセハ聖職者ハ凡ヘテ放逐セサルヘカラ
 スト云ヘリ
 其他「ロマ」教會ノ教義ニ抵抗シ福音主義ノ教義ニ主張セル者三人アリ
 即チ左ノ如シ

〔六〕「ゴック」ノ「ジョン」此人ハ「チテル」ランドスニ生レ兄弟共通派ノ修道院
 ニテ教育ヲ受ケ其後「キリン」(今日「ベルヂウム」ノ所領)ニ於テ新タニ修

道院ヲ建設セリ却説此メキリソハ繁華盛大ナル市街ニシテ宏壯華麗ナル大會堂アリ聖職者ノ數甚ク多ク教會ニテ勢力アル都府ナリシカ此人ハ數年間其建築セシ修道院ノ長ト爲リ千四百七十五年死去セリ抑モ此人ノ最モ緊要ナル教義ハ信仰ノ自由ナリ其説ニ此自由ハ神ノ恩惠ニ基ク者ニテ之ヲ受ケシ者ハ祭司或ヒハ禮式等ニ據ラズ直ニ神ニ接近スルヲ得ヘシ蓋此者ハ聖書ヲ以テ其啓導者ト爲サ、ルヘカラス奈何トナレハ教會ハ動モスレハ誤謬ニ陥ルト雖モ聖書ハ實ニ確實ナル者ナレハナリト且此説ニ基キ羅馬教會ニテ信徒ヲ束縛スルト「恰モ」パリサイ派ニ類似セルヲ否ニ又修道者ノ如ク誓約ヲ爲ストテ抵抗シ人ハ福音ニ由テ自由ヲ得ル福音ハ唯愛ニ由テ行ハル、者ナリト論シ又聖書解釋法ニ就キテハ彼ノオリゼンノ如ク種々ノ方式ニ據ルヲ否ニ聖書ハ唯本文ノ如ク直解セサルヘカラスト述ヘタリ却説此人

著書ハ大ニ當時ノ人心ヲ動搖シ例ヘハアソトウエルブノ印刷者ク
ラフウスノ如キハ深ク其著書ヲ喜ヒ此人カ翻譯セル國語ノ聖書ヲ出
版シ且我情々基督ヨリ受クヘキ自由ヲ喪ヒモ一セノ律法ニ束縛セラ
レ恰モ奴隸ノ形狀ト爲シ福音ノ爲メ受クヘキ自由ノ代リニ教王ノ決
議ヲ容レ基督ノ代リニアサテタルヲ容レサルヘカラサル形狀ト爲
シテレハ人民ニ廣ク聖書ヲ教ヘ普通信徒ニ自ラ教會ヲ事テ周旋
セシメサルヘカラスト勸メテ

〔七〕シヨシヨモル此人ハラオ河邊ナルウセル村ニ生レ村名ヲ以テ
其名トシエルフルハ大學校ニ入り遂ニ其校ヲ教諭ト爲リ後又
及テ或オルムス教會ヲ教師ニ任セラレ特ニウオルムスニ於テ七
年間勤メシカ其講義ノ時大概アウグスティンノ説ニ基キ人類ヲ救メ得
ルハ唯神ノ恩惠ニ由リ敢テ其功德ニ由ラザルコト及ヒ信徒ノ生活ハ愛

ト自由神に服従スルコトニ在ルヲ基督ハ我儕ヲ爲メ義ト爲ラレシメ
 教ヘシハ主ヨリ遣ハサレタル者ナリ等ノ説ヲ述ヘ又赦罪券及ヒロ
 教會ノ聖職者ニ赦罪ノ權アリトノ説ニ抵抗シ人ノ罪ヲ赦シ且聖職者
 以施行スル能力ハ獨神ノミニ存在スルヲ公言シ之カ爲メ遂ニ教王
 ト軋轢ヲ起シ教法詰問者ニ逮捕セラレタリ(千四百七十九年)然ルニ此
 人ハ此時已ニ老顔ナレハ笻杖ニ據リテ詰問所ニ出テシカ其詰問ノ殘
 酷ナルニ耐ヘス遂ニ持説ヲ更ムルヲ述ヘ其身ハ獄舎ニ下サレ著書
 ヲ焚棄テ命セラレシカ其後二年ニシテ獄中ニ死去セリ抑モ此人ハ始
 メ過激ナル言論ヲ以テ教王等ニ抵抗セサリシナラハ恐クハ此迫害ヲ
 免レシナラン

〔八〕ジヨシ、ウエツセル此人名ヲガシヌウルト云ヒ其副稱ヲ「世ノ
 光」ト喚ハシテ初メ此人ハ、カウラントナルグロニゲンニ生レ兄弟共

通派ノ學校ニ入り其教育ヲ受ケテレハ當時修道者等カ種々ノ謬信及
 ヒ惡黨アルヲ觀テ之ヲ厭惡セシ故敢テ其修道院ニ入ラサリシナリ蓋
 此人ハ後年マテ常ニ其派ノ法衣ヲ穿テタリ却説此人ハ此學校ヲ出テ
 シ後彼ノアルベルトス、マクヌス及ヒトマス、アシワイナズノ營ヲ在職
 セシヨロノノ大學校ニ入り又其頃巡歴者ノ風習ニ從ヒ其他三ヶ所
 ノ學校ニ入り遂ニパリノ大學校ノ教諭ニ任セラレ學問該博ニシテ教
 授ニ老練ナル爲メ甚ク名望ヲ得シカ其後十六年ニシテセルマニニ至
 リ其地ニ於テ死去シタリ抑モ此人ハ嘗テツナルニ居住セシ頃彼ノ有
 名ナル修道者トマス、アケ、ヒスノ家ト接近セシニ由テ親ク之ト交通
 シ且其著述ナル「耶穌ノ模倣」ト題スル書ヲ早ク披見スルヲ得タリ故
 ニ此人ハ後年ニ至テ其書ニ就キ是レハ實ニ我ヲシテ神ニ從ヒ生活ス
 ルノ念慮ヲ起サシメシ耳ナラズ我カ凡ヘテノ神學ノ基礎ト爲レリト

云々此人の神學ハ彼のフヨフカ神學ニ神ノ恩惠ヲ以テ其基礎ニシテ其信仰ヲ自由ニ以テ其基礎トセルカ如シ人々信仰ニ由リ義ヲ得ラルルノ教義ヲ以テ其基礎トセル是ヲ以テ後年ニ至テ彼ノルルテハ此人ノ著書ヲ讀ミ其自說ニ暗合スルヲ觀テ大ニ感賞シ我尙當初ニ此書ヲ讀マハ世人我ヲ以テウエセルノ說ヲ承傳セリト評スルヲラント云ヘリ却說此人ハロカ教會ノ功德ニ由テ救ヲ得ルトノ教義ニ抵抗シ救ハ唯基督ノ贖罪ニ由テ満足スル者至レハ功德等ハ決シテ無益ナリト論セシ爲メ諸人ノ憎惡ヲ受ケシ耳ナラテ特ニ實體論者ノ爲メ甚ダシク嫉惡セラレタレハ遂ニ其迫害ヲ免レシハ僥倖云云

二 改革前ノ改革派 此派ハ二種アリ即ち左列如ク

(一) 奧派 我儂ハ玄學ト重ナル教法ヲ差異スル所ヲ別テ其明亮ナル

ルヲ論スヘシ夫レ玄奧派ノ者ハ殆ント萬有神教ノ如ク靈魂ハ無限ニシテ且不可測ナル神ニ吸收セラレ其本質ト一致スルナリト稱スレハ靈ナル教法即チ真正ナル基督教ノ說ニテハ人間ニハ其本位及ヒ其本位ノ爲メ起レル神ニ對スル義務アリ是等ハ決シテ永久絶滅スル者ニアラス蓋人類ノ交通スル神トハ啓示ニ由テ測知スヘキ者コト不可測ナル者ニアラス又真正ナル基督信徒ハ神ヲ愛シ且神ノ子ト稱スレハ人類ニハ凡ヘテ獨立不滅ノ性質アルカ故ニ決シテ神ニ吸收セラレ之ト一致スル者ニアラスト教ユルナリ

神友派ハ第十四世紀頃歐羅巴ニ惡疫ノ流行セシニ方テ神ヲ畏ル者等其傳染ヲ恐レ之ヲ預防スル爲メ結合セシ者ニテ固ヨリ教會ヲ離レ獨立セシ者ニアラザリシカ其後修道者及ヒ普通信徒等相加ハリ漸々弘衍スルニ及ヒセルマニ地方ハ更ナリテラシム中マテ波及シ

頗世ニ顯カレタル此派以緊要ナル教義ハ神ト交通スルヲニテ教徒
 ノ品行ハ甚ク謹直ナリ又其派ノ神學者モ勤カクテ特ニ彼ノ博士ヲヨ
 シテウレル如キハ甚ク高名ナル講義家ナリ抑モ此人ハ「福音ニカシ」
 派ノ修道者ニテ初メバリ「於テ神學ヲ修メ其後スダラスブルグノ教」
 師ト爲リシカ其辨舌至リテ雄快ナルニ由テ之ヲ聞キ感激スル者許多
 アリ然ルニ其後智識ヲ發達スルニ及ヒ玄奧類似ノ説ヲ主張セシカハ
 之レカ爲メ其名譽大ニ顯ハレタレド「マ教會ノ者等ハ大ニ抵抗シ既」
 「ニ迫害ヲ加ヘント謀リシカ此人カ嘗テ神ト交通スルニハ必ス教會ノ」
 「禮式ニ由ラサルヘガラサルカ故ニ教會ニ必要ナル者ナリト論セシ」
 「アルカ爲メ僅カニ其難ヲ免レタリ抑モ後年ルレタルハ大ニ此人ノ著」
 「書ヲ感賞シ是レハ或者ノ評ヲ如ク萬有神教ノ意ヲ含蓄スル者ニアラ」
 「ズト稱シ深ク貴重シタリ」

其頃又彼ノ有名ナル「ユシハルト」ナル者アリ此人モ亦「ドミニカン」派ノ
 修道者ニシテサキゾニ「總監牧師」ヨリホビミアフ「大總監牧師」ト任セ
 ラレシカ有名ナル萬有神教ノ論者ニシテ人ハ自ラ無限ナル神ノ暗裡
 ニ投入セサルヘカラズ即チ人ハ神ノ肖像ヲ所持セズ一切ノ禮式ヲ行
 ハス意識ニ由テ事物ヲ識別スル「トナク意志ヲ以テ事物ヲ決斷スル」
 「アラザレハ神ト一致スル者ナリト主張セリ因テ彼ノ博士クウレルハ」
 「大ニ其萬有神教ヲ行フ抗撃シ之ヲ制抑セント謀リタレド其頃エツ」
 「ハルトノ説ヲ信スル者許多アリ其徒ハ自ラ靈魂上ノ兄弟或ヒハ乞巧」
 「者ト稱シタリ其頃又セルマニニ或修道者アリセルマニノ神學ト題ス」
 「ル書ヲ著シ萬有神教類似ノ玄奧説ヲ主張セリ此修道者ハ何等ノ人ナ」
 「ルヤ明晰チラサレ能ク恐クハ神友派ノ者ナラザラ然ルニ後年ニ至テ彼ノ」
 「ル書ヲ此書ノ寫本ヲ得テ甚ク感賞シ遂ニ印刷ヲ付シテ出版セシ」

カ教王ハ此書及ヒ三ツハルトシテ厭惡シ之ヲ排斥セリ
彼ノトマス、ア、ケンピスモ亦此立奥家中ニ加入スヘキ者ナリ抑モ此人
ハ或職工ノ子ニテ始メ兄弟共通派ノ學校ニ入り其教育ヲ受クシカ後
ヅナルナル聖アグチスノ修道院ニ入り院長ニ選立セラレ彼ノ有名ナ
ル「基督ノ模倣」ト云フ書ヲ著述シ九十二歳ノ高齡ヲ保テ千四百七十
一年ニ死去セリ却説此書ハ基督信徒ノ爲メ著述セシ者ニテ其大意ハ聖
書ニ從ヒ靈ナル教ニ服従スルコトヲ以テ當時ノ教法ニ代用セントスル
者ナレト人ハ信仰ニ由テ義ト爲ラル、ト云フ信徒ノ神ニ服従スル根
本ノ教義ヲ特別ニ記載セカリシハ實ニ惜ムヘキ欠典ナリ
此立奥派ヲ以テ改革ノ準備中ニ加入スル所以ハ世人カ此派ノ起レル
爲メ天主教ノ不完全ナルコト及ヒ基督ニ接近スルコト聖書ヲ啓導者ト爲
ス等種々ノ事ヲ覺知シ間接ニ其準備ト爲リタレハナリ

(三)兄弟共通派

此派は開祖の遺言に於てハルド、カロト、オットル者ハ彼以テソシテ
ソドナル以テソシテ同世紀ニ於テオットルヲシテスニ生シ若年以頃
パリノ大學校ニ入り學問ヲ修メテ以テ爲人驕奢ニシテ甚ク豪華ヲ盡
シセシカニ時「カルテウシアソ」派ノ修道者ヨリ忠告セラレシ以來深ク
前非ヲ悔ヒ其品行ヲ更メ質素ナル衣服ヲ被テ其所藏セシ魔術ノ方書
ヲ焚棄シ「カルテウシアソ」派ノ修道院ニ入り敢テ舊友等ノ嘲弄スルヲ
顧ミテ甚ク謹慎ナル者ト爲リ其後三年ニシテ監督ヨリ講義免許狀ヲ
受ケユウテソト地方ニ至リ普ク聖書ヲ講義セシカ聽衆ノ之ヲ聞キ
テ感激シ其生命ヲ改ムル者甚ク多ク例ヘハ或盜賊ハ此講義ヲ聞キ深
ク其罪ヲ悔ヒ贖物ヲ以テ其本主ニ返戻セシゴアリ然ルニ其後ユウテ
ソトノ監督ハ此人ヨリ嚴酷ナル忠告ヲ受ケシ聖職者等ノ告訴ヲ受
テ此人ノ免許狀ヲ沒收シ講義ヲ爲スコトヲ禁止セリ蓋此免許狀沒收ス

却其幸福ヲ爲リ此人ハ是以ヨリ人民ノ拜禮會ヲ開キ能ク其勸奨ヲ爲シ又ハ聖書ヲ播布セシメ或ヒハ人民ノ了解ヲ易ク比喩又ハ俚言ヲ以テ聖書ノ講義ヲ説キ基督ト一致スルコト私慾ヲ制抑スルコト俗務ヲ擺脫スルコト等ヲ教ヘ靈ナル教法ヲ弘術スル事ト學校ヲ起シ種々ノ學問ヲ振興スル事トノ兩目的ヲ以テ許多ノ生徒ヲ集メ平生ハ聖書其他ノ書類ヲ謄寫セシメ其謄寫ノ代價ハ規則又ハ誓約ニ由ラス生徒等互ニ共通セシメシメニホルラシム及ヒサキソニ地方ニテ此體裁ニ倣ヒ結合スル者許多アリ是レ兄弟共通派ナル名稱ヲ起ル所以ナリ却說此人ハ千三百八十四年ニ死去セシカ聞ク者皆愁歎セサルナク特ニセルマニホルラシムノ人民ハ後年ニ至ルマテ其遺徳ヲ景慕セリ且トマス、ア、ケ、ム、ビ、ス、ハ此人ノ傳記ヲ著シ此人ハ生涯常ニ神ノ膝下ニ在ル如ク思惟セリト記載セリ抑モ此人ノ勢力ニ由テ起レル諸學校ハ皆此人カ營テ

汝儕カ研究スル學問ハ凡ヘテ福音ヲ以テ基礎ト爲スヘシト云ヒシ主義ニ從ヒ聖書ヲ以テ一切學科ノ基礎ト爲シ且人ノ貧富ニ關ハラス皆之ヲ教育セシカ其效驗大ニ顯ハシ彼ノ有名ナルデウエンテルノ學校ノ如キハ此派ノ中心ニ在ルカ故ニ一時其盛大ナル頃ハ千余人ノ書生寄宿シタリ且此等ノ學校ハ其後有名ナル學者ノ多ク輩出セシ耳ナラス其影響ハ一般人民ニ波及シアマメルスフォルトノ如キハ買人商估等ニ至ルマテギリシヤ文ヲ讀ミラテン語ヲ使用スル者許多アリ又此等學校ノ勢力ニ由テ古昔ノ煩瑣哲學者等カ著述セル疎漏ナルラテン語ノ文典及ヒ之ヲ使用セルラテン語ヲ廢シ純全ナルギリシヤラテンノ語ヲ用キシメ其世ニ裨益アルコト實ニ枚擧スヘカラス是ヲ以テ彼ノ有名ナルア、シ、ソ、サ、ル、シ、ハ營テ之ヲ評シセルニ文學ヲ起ル爲最初ノ養樹園ナリト云ヘリ然レ爾此派以者其後年印刷術ヲ發明スルシ以來其生

第一節 ゼルマニ

一 改革ノ近因

(一) 赦罪券ノ理由 此券發賣ノ起ル理由ヲ釋スルニ凡ソ第四世紀ヨリ教會ニ墜跌スル者アレハ監督ユリ之ニ懺悔ヲ命スレトモ倘其者カ真正ニ改悔シテ苦行修善ノ契約ヲ建ツレハ監督ハ其權力ヲ以テ其懺悔ヲ爲メ命セシ苦行ノ時間ヲ減縮スルヲ起レリ是レ即チ赦罪券ノ起ル本源ナリ又ローマ教會ノ教義ニ據レハ信徒カ「マアテス」受領以前ニ犯シタル本罪及ヒ原罪ハ其聖禮典ノ爲メ洗滌セラル、ト雖モ受領以後ニ犯セシ罪惡ハ其聖禮典ノ爲メ消滅スル者ニアラサレハ之ヲ赦免セラレシ爲メ又一ラ禮典アラサルヘカヲス是ヲ以テ告解即チ信徒カ教師ニ就キ其罪ヲ白狀シ且苦行修善ヲ爲スヘキ禮典ヲ起セシニ古昔聖人

等カ此告解ヲ爲メ行ラタル善行ハ其罪ヲ贖フニ甚タ餘リアル者アリ因チ此等善行ノ有餘ハ皆教會ノ貯蓄ニ屬セシメタリ蓋此等ノ人々ハ基督ノ跡即チ教會ノ所屬ナレハナリ且基督ノ此世ニ於テ受ケタル艱辛ハ人類ノ罪ヲ贖フニ餘リアリ即チ或者ノ説フ如ク神前ニ義ト爲ラレ、爲メニハ基督一滴ノ寶血ヲ以テモ満足スル者ナレハ其餘ハ皆教會ノ貯蓄ニ歸セリ故ニ教王ハ此基督ノ寶血及ヒ古聖人等ノ餘德ヲ以テ人ノ罪ヲ赦免スルヲ得ルナリト又金錢ヲ義捐スルコトハ人類善行中ノ一ニシテ悔改ニ代用セララル者ナレハ人ハ此功德ノ爲メニハ已往ノ重罪ヲ赦免サル、耳ナラス將來犯サントスル罪惡ヲモ預赦セラレ完全ノ者ト爲ルナリト此赦罪券ハ發行後漸々輕易ニ流レ遂ニ普通賣買品ノ如ク爲レリ改革頃ノ赦罪券ニハ即チ予ハ使徒ノ權力ニ由テ爾カ犯セシ凡ヘテノ過度ナル作動及ヒ罪惡過愆ヲ赦シ爾ノ脆弱ナル一

切ノ汚點及ヒ羞耻ナル一切ノ痕跡ヲ消シ煉獄ノ苦患ヲ滅シ耐カ爲メ
地獄ノ門ヲ鎖シ「パラダイス」ノ門ヲ開クヘシト記載セリ

〔三〕赦罪發賣券方法

レルニアラサレニ其宏大壯麗ナル儀式ヲ行ヒ最モ熾ニ之ヲ發賣セシ
ヨハ第十六世紀ノ初頃ロマナル其聖ペテロノ大會堂營繕ノ費用ヲ募
集セシ時ナリ却説其頃發賣法ノ概略ヲ述ヘンニ發賣委員カ或地方ニ
至ラントスル時ハ先ツ先驅者ヲ遣ハシ其事ヲ報告セシメ然ル後壯麗
ナル行列ヲ整ヘ其地ニ至リシカ其地ノ牧師及ヒ修道者等ハ皆之ヲ出
迎シ既ニ大會堂ニ至リ之ヲ發賣スルニ及ヒ或者ナシテ教王ノ論文ヲ
其祭壇ノ前ニ高掲セシメ又高大ナル十字架ヲ建テ炷香ヲ焚キ祈禱文
ヲ朗讀スル等種々嚴肅ナル儀式ヲ行ヘリ抑モセルマニハ「ドミニカ
ン」派ノ修道者「モンテッセル」ナル者其委員ト爲リ千五百十七年サキソ

ニノ國境ニ來リシニ其選侯ハ之ヲ拒ミ敢テサキソニ入ルコトハ許サ
レハテッセルハ止ムヲ得スウイッテンベルグヨリ凡ソ二三里隔リタル
或村落ニ至リテ之ヲ發賣セリ此ウイッテンベルグトハ則チ彼ノル一テ
ルカ其頃大學校及ヒ教會ニ勤務セシ地ナリ却説テッセルハ爲人甚タ無
道ナル者ニテ此券發賣ノ時自ラ會堂ノ講壇ニ登リ大聲ニテ其功德ヲ
頌贊シ抑モ此赦罪券ハ醜褻言語ニ絶ヘタル罪惡ヲ犯セシ者ト雖モ凡
ヘテ救拯ヲ得セシムル非常ノ效驗アル者ナレハ莫大ノ金錢ヲ擲キ之
ヲ購求スル者ニハ生存者ト死者トニ關ハラス其力ニ由テ赦罪セラル
ヘシ且予ハ設令此券ヲ賣捌セサルニ審判ノ日ニ於テ我靈魂ニ不足ア
ラサレニ汝儕尙此廣大ナル救拯ヲ輕忽ニセハ決シテ刑罰ヲ遭カル、
能ハス今日ハ實ニ慈惠ノ秋ナリト演述セリ

〔三〕赦罪券ノ不服 千五百十七年ルイテルハウイッテンベルグノ大會堂

ニ至リ其信徒ニ懺悔ヲ爲スヘキヲ命セシニ信徒等ハ多ク之ニ答ヘ我儕ハ赦罪券ヲ買ヒ既ニ罪ノ赦ヲ受ケレハ今又懺悔ヲ爲スヘキ理由ナシト云ヒ敢テ承諾セサレハルルハ或講義ノ時大ニ赦罪券ノ條、理ニ契合セサルコトヲ論辨シ且其十一月一日ハ大祭日トテ諸方人民カ許多此大會堂ニ賽ミ古器遺物等ヲ展覽スル日ナレハルルハ其前日ニ於テ自ラ認メタル九十五條ノ論題ヲ其會堂ノ門扉ニ掲帖セリ其概略ニ教主ハ唯其自ラ制定セル刑罰ノミヲ赦ス權力アレト神ニ對シテ犯セル罪ヲ赦ス能ハサルナリ信徒ハ真正ニ其罪ヲ悔ヒテ神ニ白狀スレハ必ス其赦免ヲ受クルコトハ疑フニ足ラサレハ其他ノモノニ就キ赦免ヲ受クルハ無益ナリ教會ノ真正ナル寶ハ耶穌基督ノ救拯ナリ蓋之ヲ與ユルハ神ノ自由ニ屬スルコトナレハ人類カ金錢ヲ以テ需メ得ヘキ者ニアラサルナリト却說此九十五條ノ論題ヲ掲帖セシコトハ實ニル

トテルカ改革ヲ謀ルノ端緒ト爲レリ

二 マルラン、ルーテルノ傳記

此人ハセルマニ人ニシテ其國人種ノ

氣象ヲ具有セシ故ニ其勢力ニ由テ起レル新教ニハ實ニセルマニ人ノ如キ氣象アリ抑モ此人ハアイスレベンナル鐵夫ノ子ニシテ千四百八十二年其地ニ生レシカ其父ハ才智アリ學問ヲ好ミ且屢々聖職者ヲ招キ其家ニ招待セシニ由テ此人モ幼稚ノ頃ヨリ智識大ニ發達セリ却說此人ハ少年ノ頃マクデベルグ及ヒアイセナクノ兩學校ニ入りタルニ其家甚ク貧困ニシテ其學資ヲ給スル能ハサレハ學課ノ余暇毎ニ自ラ市街ニ至リ門戸ニ沿フテ唱歌ヲ謳ヒ諸人ノ施金ヲ受ケ生計ヲ輔ケシニ其唱歌ノ巧ミナルカ爲メクノ夫人ウルスラナル者ノ爲メ寵愛セラレ暫ク其家ニ於テ修學セシカ十八歳ノ時ヨリ遂ニエルフルトシテ大學校ニ入レリ然ルニ此學校ノ教諭等ハルルーテルノ爲人ヲ觀テ

其後來偉人ヲラソテ察シ世人モ亦其熱心ニ祈禱チ爲スチ怪訝セリ
 此頃ル―テルハ僅ノ餘暇アレハ常ニ學校附属ノ書庫ニ至リ群書ヲ涉
 臘セシカ廿歳ノ頃聖書ヲ發見シ始メテ之ヲ讀ムコトヲ得タリ却說此人
 ハ千五百〇五年此學校ヲ卒業シ爾來ハ法律學ヲ修メント欲セリ
 然ルニル―テルハ此頃其朋友中ニ暗殺ニ遇ヒシ者アリ又其嘗テ或森
 林ヲ通行セシニ驟カニ暴雨アリ其近傍ニ落雷アリシカハ是レニ由テ
 自ラ神ノ審判既ニ近ケリト思ヒ深ク恐怖チ生シ此危難ヲ脱スルコトヲ
 得レハ神ニ服従スヘシト誓ヘリ然ルニ其頃ロマ教會ニ卓越ナル生活
 チ爲スニハ修道院ニ入ルノ外他ニ方法ナシト云ヘル説行ハレタレハ
 ル―テルハ遂ニ決心シテ一日友人等ト訣別ノ宴ヲ爲シ其翌日直チニ
 「アウグスチン」派ノ修道院ニ入レリ因テ修道院ノ者等ハ深ク其俊秀才
 子ヲ得タルヲ喜ヒタレシ其朋友等ハ甚ク之ヲ愛惜セシ耳ナラス其父

モ亦甚ク之ヲ憤恚セリ且其修道院ノ者等モ竊カニル―テルカ學問ヲ
 自負スル意アラソコトヲ疑ヒ其心ヲ挫折セントテ乞丐ヲ爲スコトヲ命セ
 リ然ルニ大學校ナルル―テルノ舊友等ハ日々ル―テルカ市街ニ出テ
 賤業ヲ爲スチ觀テ深ク之ヲ哀憐シ爲メニ修道院ノ者ニ説キ其乞丐ヲ
 爲スコトヲ止メシメシカハル―テルハ是レヨリ漸ク勉強等ニ従事スル
 時間ヲ得テ或ヒハ學問ヲ修メ或ヒハ心思ヲ訓練シ大ニ其識力ヲ培養
 セシカ是レハ實ニ後年改革ヲ起圖スル時ニ至テ甚ク大ナル益ヲ得タ
 リ却說此人ハ其後ギリシヤラテンノ語學ヲ勉強セシカ此修道院附属
 ノ書庫ニ於テモ亦聖書及ヒアウグステンノ著述書ヲ發見シタレハ深
 シ此等ノ書籍ヲ研究シ且常ニ人類ハ何等ノ事ヲ爲カハ以テ神前ニ義
 ト爲ラル、ヤ我ハ我罪ヲ記載シ盡ク懺悔スルヲ得ルヤ我カ悔改ハ何
 等ノ点ニ及フカト思考シ甚ク其心ヲ苦シメ或時ハ斷食等ヲ行ヒ之カ

爲メ殆ント生命ヲ傷害スルニ至レリ蓋是レハ羅馬教會ニテ人類カ罪ノ赦免ヲ得テ神ト親和スルニ三個ノ要点アリ即チ第一ニハ必ス一切ノ罪惡ヲ懺悔セサルヘカラス第二ニハ必ス其罪ヲ全ク悔改セサルヘカラス第三ニハ教師ニ依テ其懺悔セシ所ノ罪ヲ許サルヘシト教ユルニ由テナリ然ルニ其頃總監牧師スタウピツナル者アリ此人モ亦嘗テルーテルノ如キ經驗アル者ナルカ一日此修道院ニ來リルーテルノ形狀ヲ觀テ甚ク懸察シ懇切ナル勸諭ヲ加ヘ且聖書ヲ研究スヘシトテ之ヲ贈與セリルーテルハ嘗テ院內或老人カ我ハ罪ノ赦ヲ信スルノト云フ語ヲ再度連言スルヲ聞キ心ニ感スルヲアリ是レヨリ暫ク其心ヲ安シタレハ爾來又々憂悶ニ沈ミ些少モ安心スル能ハサリシカ其後豁然トシテ眞正ナル赦罪ノ基礎ハ信仰ニ由テ義ト爲ラル(羅五ノ一)即チ人ノ神前ニ義ト爲ラルハ唯其基督ニ由テ満足スルトノ意ヲ開悟スル

ニ至リシガハ是レヨリ堅ク其教義ヲ信シ生涯改易スルヲアサリシカ其後年ニ及ヒ前事ヲ回顧シ修道者ハ誓約ニ由テ天ノ嗣子ト爲ルヲ得ハ我ハ其嗣子ト爲リシナラント云ヘリ
 ルーテルハ修道院ニ入院セシ後二年ニシテ接手禮ヲ受ケシカ其後廿五歳ノ時スタウピツノ薦舉ニ由テサキソニノ選侯フレデリク第三ノ建設セルウイッテンベルグ大學校ノ教諭ト爲リ敏辨法ヲ教授シタリ然レハ此人ハ天性煩瑣哲學ヲ厭惡シ又アリストテルヲ評シ尙人類ニアラサレハ必ス惡魔ナラント云ヒシ如キナレハ之ヲ教授スルヲ屑トセズ翌年自ラ請フテ神學教諭ト爲リ專ラ聖書ニ基キ教授ヲ爲シ且新約ノ各書ヲ順叙ニ講義セシカハ聽衆皆感服シ之カ爲メ從來ヒール、ロムバルドノ著書ヲ教授セシ一科ハ殆ト廢絶スルニ至レリ却說ルーテルハ唯神教研究ノ方法ヲ一變ヒシ耳ナラス諸學科ノ教授法ヲ改良セ

シカハ其名聲甚々高ク四方ヨリ來リテ其教ヲ請フ者殆ど市街ニ充滿セリ且此人ハ其後大會堂ノ講師ヲ囑托セラレシカ亦其講義ヲ聞ク者常ニ會堂ニ充滿セリ

ルテアルハ初メロマ教會ヲ以テ實ニ此世ニ在ル神ノ邦國ナリト信シテ毫モ疑ハサリシカ千五百年他ノ修道者ト共ニ使命ヲ奉シロマニ至ルニ及ヒ聖職者等カ酷ク輕薄醜躰ナル形狀ヲ觀テ大ニ厭惡ノ心ヲ起シ是レヨリ機會ヲ察シテ教會ヲ脱セント欲シタリ抑モ此人ハ改革以前ヨリ屢々彼ノ有名ナル文學者エラスムス及ヒロイソリン等ト文書ヲ往復セリ

三 改革ノ創造

〔一〕ルイテルト教王ノ軋轢ルイテルトノ認メタル九十五條ノ論題ハ或者カ之ヲ印刷シテ四方ニ配布セシ以來忽チ諸國ニ傳播シセルマニ聯

邦ハ更ナリ歐羅巴諸國ニテモ之ヲ翻譯シテ出版スル者アリ其批評甚々激々タリシカハ當時監督及ヒ教師等ニテ之ヲ駁撃スル者ハ一人モアラサル耳ナラス教王リオ第十モ或者カ之ヲ示セシ時ルイテルトモ才幹アル修道者哉ト云ヒ却テ之ヲ愛玩シ敢テ意トスル色ナカリシナリ蓋彼ノテッセルハ其後尙ホ赦罪券ヲ發賣スル耳ナラス公然此論題ヲ焚棄シテラフオルトニ於テハルイテルトモ焚殺スヘシト主張セシ

ニ「ドミニカン」派ノ修道者ハ皆之ニ同意シ酷クルイテルトヲ駁撃シ其死ニ至ラフヲ欲シ又「アウグステン」派ノ修道者ハルイテルトニ同意シ之ヲ贊成セシカハゼルマニ聯邦ハ恰モ鼎ノ沸クカ如ク動搖セリ特ニインゴルスダトノ大學校ノ總長ニテ博士エックト云フ者ハ原トルイテルトノ朋友ナレトモ此論題ノ出ルニ及ヒ一小冊子ヲ著シ巧ニ其說ヲ駁撃セシニルイテルトハ天性至テ粗豪ナレハ亦激烈ナル書類ヲ著シ之ヲ反

駁シ遂ニ其交誼ヲ絶ツニ至レリ却説教王リオ第十ハセルマニ教會ノ當時斯ク動搖スルヲ聞キタレト從來二三ノ修道者カ爲セシ小事ノ如ク思ヒ敢テ其意ニ介シカリシカセルマニ帝マキシミアン第一ヨリ今者ノ動搖ハ決シテ輕忽ニスヘキヲニアラサルヲ勸戒スルニ及ヒ始メテ喫驚シルテルネロマニ召喚セリ蓋是レハルテルヲ禁殺セントノ較計ナリシナラン然レトモサキクニ選侯フレデリク第三カ其國法ニテセルマニ人タル者ハ凡ヘテ國內ニ於テ裁判スヘキ法權アルヲ述ヘ且之ヲ勸解セシニ由テ教王ハ止ムヲ得ス其説ニ從ヘリ抑モ此頃セルマニノ政體ハ若干ノ小國聯合シテ一大帝國ヲ爲セシ者ニテ各邦内ノ政治ハ其侯伯ノ專制ニ屬スレトモ全國ノ大政ハ聯合諸國ノ侯伯會議セシ後皇帝ノ認可ヲ得テ之ヲ施行セリ蓋皇帝ハ七大諸侯ノ特權ニテ選立セリ是ヲ以テ皇帝及ヒ諸侯ノ間ハ常ニ嫉妬ノ念ヲ挿ミ且

常ニ其權力ヲ平均スルヲニ汲々セシカ是レハ實ニ改革ノ爲メ甚ク裨益ト爲レリ却説教王リオ第十ハサキクニ選侯フレデリクノ説ニ從ヒルテ爾ヲ訊問スル爲メ教宰カエトナル者ヲ大使ニ任セシカ此人ハ「ドミニカン」派ノ修道者ニシテ天性甚ク專横ナル者ナレトモ實ニ博學多識ナレハ千五百十八年十月已ニアウグスブルグニ至リルテルト會議ヲ開キタリ然ルニ此人ハ始終教會ノ條例ヲ公準トスレトモテ爾ハ徹頭徹尾聖書ヲ憑據トスル故議論三次ニ及フマテ敢テ一決セサレハ甚ク憤怒シ遂ニルテ爾ニ持説ヲ更メ且懺悔ヲ爲スヘシト命セシニルテ爾ハ之ヲ承諾セス斯クノ如キ不通ナル教王ニ上告セシヨリハ通達セル教王ニ上告スヘシト放言シ此大使ハ教王ノ爲メ却テ大ナル傷害トナレリ因テ教王ハ更ニ又布告ヲ出シ世人ヲシテ教王ニ赦罪ノ權力アルヲ知ラシメント謀リシニルテ爾ハ尙ホ更ラニ承

諾セス我ハ將來ノ議會ニ上告スヘシト云ヘリ
 教王ハ其後又サキソニノ武族ヲヤロス、ウオン、ミルテツチ大使ト爲シル
 一テルノ處ニ派遣セリ此人ハ世務ニ通達セルコカエトソノ類ニアラ
 サレハ能シル一テルヲ待遇シ鄭重ニ商議セシニル一テルモ亦能ク其
 説ヲ容レ反對者ヨリ我ヲ抗撃スルコナクソハ我モ亦噤黙シテ言ハサ
 ルヘシ且我ヨリ教王ニ書簡ヲ贈リ前日言論ノ過激ナリシコト懺悔ス
 ヘシト云ヒ其契約ヲ建テタレハ從來ノ軋轢モ殆ト平和ニ歸セントス
 ル形狀ト爲レリ然ルニル一テルハ其後教王ニ書簡ヲ贈リタレモ教王
 ハ遂ニ之カ返書ヲ送ラス又或記録ニ據レハ此時ウオン、ミルテツハ教王
 ノ内旨ヲ受ケ竊カニル一テルヲ捕縛シテロマニ送ラント欲セシト明
 亮ナル證據アリ然レモ遂ニ之ヲ捕縛セサリシハ恐ラクハ國法ヲ憚リ
 シナラソ故ニ或者ハ此回ノ商議ヲ評シ新舊兩教最後ノ禮讓ナリト云

ヘリ抑モ此軋轢ハ設令之ヲ調停セント欲スルモ其頃ル一テルノ新説
 ハ印刷器ノ力ニ由テセルマニ聯邦ハ更ナリ其他歐羅巴諸國ニ傳播シ
 四方ノ書生ハウイッテンベルグノ大學校ニ輻輳シ軋轢ノ風説ハ人民中
 ニ嗽々タレハ已ニ其時機ヲ喪キタル形狀アリ且此頃其平和ヲ障礙ス
 ル一大事起レリ即チル一テルハ其同僚ナルカルスダトカ彼ノ博士エッ
 シト自由自治ノ説ニ就キ其見解ヲ異ニセシ爲メニッソノ招キニ由テ數
 日間ライプツイクニ依テ鬪論ヲ爲セシキ其同僚ノ者ト共ニ其地ニ至
 リシカ此人モ亦遂ニエックト教王ノ特權ニ就キ鬪論ヲ始メタリ然ルニ
 其周圍ニ群集セル聽衆等ハ敢テ其論ノ勝敗ヲ詳ニスル能ハサリシカ
 モエックハ是レヨリ深シル一テルヲ憾ミ必ス之ヲ倒サント欲シ自ラ
 マニ至リガエトソ及ヒ其他「ドミニカン」派ノ修道者等ト共ニ教王ニ謁
 見シル一テルヲ讒訴セシカハ教王ハ之ヲ受ケ遂ニ布告ヲ以テ彼ノ九

十五條ノ論題中ヨリ四十二條ヲ擯斥シ其全篇ヲ焚棄シルルテ六
 十日間ノ懺悔ヲ爲シ教王ノ恩惠ヲ願ハシメ倘之ヲ承諾セサレハ放逐
 スヘシ等ノ事ヲ達シタリ時ニ千五百廿年六月十五日ニシテ是レ所謂
 エックノ布告ナル者ナリ因テルルハ此布告ヲ觀テ今者教王ニ上告
 スルニ其效ナキヲ洞察シ始メハ將來ノ議會ニ上告スヘシト云ヒタ
 レ其後事ノ切迫ナルヲ知リ其歲十二月十日許多ノ書生及ヒ人民ヲ
 ウイツテンベルグノ郭外ニ集メ其群集中ニ於テ自ラ教王ノ布告及ヒ教
 會ノ條例ヲ燒棄セリ蓋ルルカスクノ如ク布告等ヲ燒棄セシ理山
 ハ其必ス放逐ヲ受ケルヲ察セシニ由テ之ヲ遁ル、爲メ先ツ其自ラ脱
 會セシヲ世人ニ示ス意ナリシナラシ然レハ此人ハ其意固ヨリ教會
 ナ脱スルヲ欲セサルニ由テ自ラ我ハ公共ノ教會ヲ出ルニアラス唯ロ
 ム教會ヲ脱スル耳ト云ヘリ然ルニ其翌歲一月四日ニ至リ果シテ教王

ノ放逐狀來レリ

〔三〕新教ノ建基

ルルカ生涯中ニ於テ最モ緊要ナル事業ハロマ教
 會ヲ離レ新教ヲ起シ福音主義ノ信仰個條ヲ定メシト是レナリ抑モ此
 人ハ新教ヲ設立スル爲メ神ヨリ此世ニ派遣サレシ者ナルニ由テ爲人
 英敏果斷ニシテ深ク教法上ノ經驗ニ富ミ聖書ノ奧妙ナル教義ヲ悟リ
 且人ニ接スルハ甚ダ誠實ナルカ故ニ遇者皆悦服セサルナシ蓋或時ハ
 其言語過激ニ流ル、トナキニアラサレハ是レハ其時代及ヒ事業ノ爲
 メニハ却テ適當セシナラシ然レハ其改革ノ偉業ヲ成就セシモノハ全
 ク許多ノ學者カ協力補翼セシ功績ニ由ル者ニテ此人一個ノ能力ニア
 ラサルナリ却説其協力者中ニテ最モ有名ナル彼ノフヒリア、メランクト
 ンハゼルマニ人ニシテ千四百九十七年バードンノベレットンニ生レ始
 メ其名ヲスウアルスエルト即チ黒土ト稱セシカ其呼聲ノ甚ダ硬澁ナ

ルニ由テ其後ギリシヤ語ニ譯シ今ノ名ニ更メタリ此人ハ十二歳ノ時
 ヨリハイデルベルグノ大學校ニ入りエラスムス及ヒロイックリオン等ノ
 教育ヲ受ケ十五歳ニシテギリシヤ文典ヲ著ハシ且ギリシヤ語ヲ以テ
 エラスムスヲ領賛セシ詩ヲ作り十八歳ノ時ツピンゲン學校ノ文學教
 論ト爲リ其後ウイッテンベルグ大學校ノ教諭ニ轉任シギリシヤ語ヲ教
 授セシカ其名聲歐羅巴諸國ニ轟キタリ時ニ歳二十ナリ此人ハウイッテ
 ンベルグニ來リシ後ハ常ニルイテルト往來セシカ其事ニ臨ミテ果斷
 ナルコハルイテルニ及ハサル所ヲ輔翼シ巧ニニ新教ヲ組織シ又其頗ル文
 學者ナリシヲ以テ新教中ニ文學哲學等ヲ流行セシメ其功績ノ大ナル
 コ實ニルイテルニ亞ケリ故ニ或者ノ評ニ新教ハ倘此人アラスノハ恐
 シハ組織スル能ハサルヘシト云ヒ又此人ノ父ハ武器ヲ製造セシニ由

テセルマニ人ノ鄙諺ニ鐵夫ノ子カ鐵金ヲ鑿リ武器師ノ子カ之ヲ鑄造
 セリト云ヘリ其他學者教諭等ニテ有名ナル改革家ハ彼ノカルスタト
 ナ首メ後年デンマルクニテ改革ニ盡力セシブクンハゲン及ヒツピン
 ゲン學校ノ教諭マルテン、ブッセル等ナリ侯伯ニテ改革ヲ輔翼セシハ彼
 ノサキソニノ選侯フレデリック第三ナリ此人ハ原ト天主教ノ熱心家ナ
 レ能シルイテルノ一身ヲ保庇シ改革ノ起ルニ及ヒ敢テ新舊兩教ニ
 干涉スルコトナシ頗ル改革ノ裨益ト爲レリ且其嗣侯シモン恒心(副稱)モ
 亦能シ改革ヲ輔ケ深シ新教ヲ信シタリ
 ルイテルハ千五百廿年頃ヨリ三部ノ書ヲ著シ新教ノ原理ヲ述ベシカ
 是レハ實ニ新教ニテ緊要ナル基礎ト爲レリ其書ハ即チ左ノ如シ
 (一)セルマニ諸侯ニ呈スル歎願書 此書ハルイテルカ其頃或武族及ヒ
 文學者等ヨリ文學德操ノ改良自由自治ノ擴張ニ協力スヘキコトヲ希望

セテレシ時著述セシ者ニテ重ニ基督信徒ノ行フヘキ行狀ヲ述ヘ且卷首ニセルマニ帝及ヒ諸侯伯ニ呈スルト記載セリ其概略ハ即チ我儕ハ唯今教法ノ腐敗ヲ洗滌シ真正ナル福音ノ光ヲ顯サント欲スレドモ教王カ其周圍ニ三重ノ屏障ヲ設ケ他ノ言論ヲ拒絕スルニ由テ真正ナル基督信徒ニテ國家ノ樞機ニ干ル者ニ就キ其救助ヲ仰カサレハ他ニ爲スヘキノ道ナキカ如シ即チロマ教會ニテハ第一ニ教王ヲ以テ諸國ノ君長ヨリモ尊貴ナリトスル故ニ諸國ノ君長モ之ニ對抗スル能ハス第二ニ教王ヲ以テ聖書ノ意義ヲ確定スル權力アリトスル故ニ聖書ノ憑據モ之ニ克ツ能ハス第三ニ教王ヲ以テ議會ヲ召集シ且其決議ヲ左右スル權力アリトスル故ニ議會ノ權力モ之ニ敵スル能ハサルナリ是ヲ以テ此腐敗ハ諸國ノ君長及ヒ官吏カ自ラ奮フテ之ヲ洗滌スルニアラサレハ到底回復スヘカラスト又教會ノ形狀ニ就キ教會ハ聖職者ニ

アラスシテ信徒ナリ此信徒ハ王ナル祭司(前彼二ノ九)ト喚ビ基督ノ權下ニ屬シ其身ノ爲メ聖職者ヲ選フ權力アリトス基督教國ノ形狀ニ就キ是レ亦基督ノ權下ニ屬スル者ニテ其官吏ハ聖職者ト共ニ其爲スヘキ職分ノ爲メ盡力セサルヘカラサル必要ナル者ナリト其他信徒ハ怠惰ナル聖職者ヲ放逐スル權力アリ基督教國ニテハ聖書ヲ以テ學校教科書中ノ重要ナル者ト爲スヘシ信徒ハ深ク聖書ヲ研究シ特ニ聖書ノ感導ニ由テ教ヲ悟ル者ナレハ自ラ信仰ノ道ヲ決定スル權力アリ但一切ノ事ヲ決定スルニハ神言ヲ以テ證據ト爲スヘシ等ノ事ヲ記載セリ

(二) バビロンノ繫囚 此書ハルuterカロマ教會ノ七禮典ヲ以テ其信徒ヲ囚虜ノ如ク待遇スルヲ攻撃セシ者ナリ其概略ハ即チ教會ノ聖禮典ハ唯「バプテスマ」ト「晩餐」ノ二個ニ止ルナリ但信徒カ聖職者ニ就キテ罪ヲ白狀シ其赦ヲ受クルヲハ其神ノ恩惠ヲ受クル方法ナレハ亦聖禮

典ニ亞シ者ト爲スヘシ「バアテスマ」ハ「ロマ」教會ノ教義ノ如ク唯其受領以前ノ罪ヲ洗滌スル耳ナラス新クナル生命ヲ受クル根本ニシテ生涯效驗アル者ナリ晚餐ハ「マテス」ノ教義ノ如ク其身ヲ神ニ捧クル印證又ハ基督ノ體ヲ捧クル事ニアラス神ヨリ信徒ノ罪ヲ赦ス爲メ與ユル所ノ基督ナル賜物ナリ但是レハ唯其信仰ノミニ由テ受クルナリ其他告解結婚等ノ禮典ハ聖書ニ所見ナケレハ行フニ足ラスト記載セリ

(三)基督信徒ノ自由 此書ハ天主教ニテ斷食誓約等ヲ以テ信徒ヲ束縛スルコト及ヒ玄奧學者カ默示ニ據ラス神ト一致スルトノ説ニ對シ著述セシ者ニテ信徒ハ神言ヲ信仰スルニ由テ自由ヲ得ルコトヲ記載セリ其概略ハ即チ神ノ示顯ハ人類ノ力ヲ以テ測知スヘキ者ニアラサレヒ人類タル者ハ能ク其示顯ヲ信仰セサルヘカラス基督ハ聖書ニ記載スル如ク我儕人類ニ代リテ神ニ服從シタレハ我儕ハ信仰ニ由テ其利益ヲ

受ケ神ノ律法及ヒ刑罰ノ下ヲ離レ自由ナル者ト爲ルヘシト且問答ヲ設ケ倘人類ハ斯ク律法ノ權下ヲ離レ自由ヲ得ルニ至ラハ何等ノ方法ヲ以テ神ニ服從スルヘキカト云ハ、神ノ默示ニ在ル如ク基督ヲ信仰セサルヘカラス蓋真正ナル服從ハ基督ヲ愛スル心ヨリ起ルナリト其他自由ナル人ノ神ニ服從スルハ未來ノ應報ヲ需ムル爲メニアラス唯其全ク救拯セラレタルヲ感謝スル爲メナリト記載セリ

四 ルーテルノ訊問及ヒ潛居 千五百十九年「ヤレンス」第五其祖父マシシミアンノ後ヲ受ケセルマニ帝ニ選立セラレシカ此人ハ固ヨリ天主教ノ熱心家ナルニ由テ教王ハルーテルヲ放逐セシ後此人ニルルーテルヲ罰センコトヲ勸奨セリ然ルニサキソニノ選侯フレデリク第三カ帝ニ向キセルマニノ人民ハ古昔ヨリ皆其國ノ裁判所ニテ訊問ヲ受クル慣例アレハ之ヲ破ルコト勿レト忠告セシニ由テ千五百廿一年「ヤレン

大帝ハ自ラゼルマニノ西部ナルウオルムスニ至リルテニ旅行券
 ナ與ヘ其會議ニ召喚シタリ然ルニルテハ此時大學校及ヒ改革ノ
 準備等ノ爲メ甚タ繁忙ナル耳ナラス其朋友等モ此行ノ危険ナルヲ危
 ミ深ク之ヲ諫メタレモ毫モ之ヲ用キス直チニ召喚ニ從ヒウオルムス
 ニ赴キシカ其途中ニモ訪問スル者少カラス且或者ハ之ニ問キ汝尙ウ
 オルムスニ至ラハ亦往年ノシユン、ホスノ如ク敵ノ毒手ニ罹リ焚殺セ
 ラルヘシト忠諫シ或者ハルテニ逃亡ヲ勸メ且其時機ヲ得セシメ
 ウオルムスニ在ル或友人ハルテニカ既ニ其市街ニ達セントスル頃
 使者ヲ送り其來ルヲ止メシカハルテハ之ニ答ヘ汝ノ主人ニ告
 シヘシウオルムスニハ設令惡魔カ屋瓦ノ如ク彙集スルモ我ハ必ス往
 シヘシト云ヒ遂ニ其市街ニ入レリ抑モ其會議ハチヤレス大帝自ラ其
 議長ト爲リ選侯六人侯伯若干人大監督凡ソ三十人及ヒ諸國ヨリ來レ

ル特命公使七人其他彼ノ後年ヲテラドスノ爭亂ニテ驍名ヲ博セ
 シアルウ侯等許多ノ官吏及ヒ聖職者等陪廣シ總數凡ソ二百餘人アリ
 其嚴肅壯觀ナルヲ實ニ前古未曾有ノ形狀ナリ却説ルテハ此茲四
 月十七日將ニ其會議ニ赴カントセシカ此時此人ヲ保庇スル或侯ハ之
 ニ向キ身ヲ殺ス者ヲ懼ル、勿レ(太十ノ廿八)ト云ヒ或侯ハ汝ヲ執柄者
 ノ前ニ搖曳スルモ毅然トシテ答ヲ爲スヘシ(太十二ノ十一)ト云ヒヘッセ
 侯ハ汝尙眞理ナラハ之ヲ枉ル勿レト云ヒ其他此人ノ朋友故舊等カ之
 ニ向キ畏怖或ヒハ持説ヲ更ムルヲ勿レト懲忍スル者許多アリシカ又
 或者ハ此人カ其頃熱心ニ祈禱ヲ爲ス聲ヲ聞ケリルテハ已ニ會議
 ニ至リ其形狀ノ嚴肅ニシテ且威勢アルヲ觀テ一旦大ニ喫驚シタレモ
 其後毫モ躊躇スルコトナク訊問者カ之ニ向キ其從來主張セル持説ヲ更
 ムルヤ否ヤト訊問セシカハルテハ一日ノ猶豫ヲ得テ能ク思考セ

ソノテ請ヒ其席ヲ退キタリ蓋是レハ衆人ニ其妄リニ答辨セサルヲ示サノ爲メナリ因テル^ルタルハ翌日又其會議ニ至リ詳カニ其持説ヲ述ヘ且其心ニ背キ説ヲ爲スハ基督信徒ノ爲スヘキ所業ニアラサレハ聖書或ヒハ正當ナル條理ヲ以テ論破セラル、ニアラサレハ我ハ毫モ持説ヲ更ムル能ハス我ハ茲ニ止ル復他事ヲ爲ス能ハス神ニ我ヲ保護シ給ヘアーメント云ヒシカハ天主教徒ハ之ヲ聞キ直チニヤレニス大帝ニ迫リ斯ル異端者ニハ信義ヲ守リ約ヲ履ムニ及ハサレハ速ニ逮捕シテ焚棄スヘシト云ヘリ然レヒチヤレニス大帝ハ自己ノ名望ヲ墮カンヲ畏レ我ハシヤスムンド帝ノ如ク顔ヲ赧ムル能ハスト云ヒル^ルニ平穩ニ歸國スルヲ許セリ然レヒ其後又直ニル^ルニ禁接ノ令ヲ下セシカハ此人ハ是レヨリ已ニ法律外ノ者ト爲リシカ一日馬車ニテ或叢林ノ傍ヲ通行セシニ忽チ覆面ノ者五六人其中ヨリ突出シル

ル^ルニ平穩ニ歸國スルヲ許セリ然レヒ其後又直ニル^ルニ禁接ノ令ヲ下セシカハ此人ハ是レヨリ已ニ法律外ノ者ト爲リシカ一日馬車ニテ或叢林ノ傍ヲ通行セシニ忽チ覆面ノ者五六人其中ヨリ突出シル
 一テルヲ携ヘワルトベルグノ古城堡中ニ走レリ蓋是レハサキソニノ選侯カ公ケニル^ル一テルヲ保護シ其領内ニ置ク能ハサルニ由テ竊カニ此人ト謀合シ斯クノ如キ舉ニ及ヒシナラシル^ルハ其後凡ソ十月餘武族ノ姿ニ打扮シ其名ヲツヨルヤト偽稱シワルトベルグノ中ニ在テ聖書ノ翻譯等ニ從事セシカ其頃屢々惡魔ト戰ヒシトアリト云ヘリ例ヘハ其或日病ヲ冒シ翻譯ヲ爲セシニ惡魔カ其面前ニ顯レ障妨ヲ爲ス如クナレハ墨壺ヲ以テ之ニ投タリト云フカ如キ是レナリル^ル一テルハ此地ヲバトモスト喚ヘリ

五 改革ノ障妨

ル^ル一テルカワルトベルグノ城堡中ニ潜居セシ頃或

數人ノ者ウイッテンベルグニ來リ人民ヲ蠱惑シ我儕ハ聖靈ノ感導ニ由テ直接ニ神ノ默示ヲ受ケシ預言者ナレハ我儕ノ教ユル所ハ天啓ト信スヘシト唱道セシニ之ヲ信仰スル者許多アリ特ニカルスタトハ多シ

ノ同志ヲ率キ其會堂ニ闖入シ偶像等ヲ破壊シ甚ク暴惡ヲ極メタレドモ
 メラント思ヒ敢テ之ヲ制抑セス又ルノ同志者ハ「ソルボン」大學
 校ノ者等カ公ケニルノ説ヲ擯斥セシ爲メ甚ク失望セシ形狀アリ
 リ因テルノ事ヲ憂悶シ千五百二十二年三月ワルト
 ベルグヨリウイッテンベルグニ歸リカルスタト等ニ向キ眞正ナル改革
 ハ外面ノ競争ニアラスシテ内心ニ在ルヲ教誨シ其妄信ヲ止メシメ
 又彼ノ預言者等ニ向キ眞正ニ神ヨリ遣ハサレタル預言者ナラハ古昔
 ノ預言者ノ如ク憑證ヲ顯ハスヘシト追リシニ彼ノ預言者等遂ニ其憑
 證ヲ顯ハス能ハサレハ之ヲ嘲笑セリ却説此僞預言者等ハ其後相尋キ
 テ其教ヲ宣布シタルニ其教徒漸々散亡シ遂ニ靖定ニ至リタレハル
 タルハ是レヨリ改革ノ進歩ヲ謀リ同志ノ學者等ニ聖書ヲ翻譯セシメ

漸々之ヲ世ニ公布セリ其頃改革ノ障妨ト爲ル者種々起リシカ其最モ
 著明ナル者ハ即チ左ノ如シ

〔一〕ベッセ侯フヒリブノ重婚 此人ハ其夫人ノ爲人不善ニシテ且一種ノ惡
 疾アルニ由テ未ダ離別スルニ至ラサレハ甚ク之ヲ厭惡シルノテメ
 ラント等ニ向キ我ハ更ラニ一婦人ヲ娶ルニアラサレハ必ス淫奔
 ニ陥ラサルヲ得スト述ヘシニルノ及ヒブッセルメラント等ハ
 之ヲ聞キ果シテ然ラハ重婚ヲ爲スハ敢テ罪ニアラス蓋此事ハ深ク秘
 スヘシト答ヘタリ然ルニ其重婚ハ本夫人ノ嫉妬ニ由テ忽チ世ニ顯ハ
 レシカハ世人ノルノ及ヒメラント等ヲ詬罵スルノ最モ甚クシ
 メラント等ハ痛ク憂悶シ之カ爲メ殆ト生命ヲ喪ハントセリ但ブッセル
 ルハ敢テ屈スル色ナク前説ヲ支持スル爲メ更ニ一書ヲ著ハシ新約聖
 書中ニ重婚ヲ禁スル明文ヲ示ト述ヘタリ

〔二〕ルーテルエラスムスノ確執 ルーテルハ初メ彼ノエラスムスニ深ク属望セシカ其後此人カ著述セル傍註新約聖書ヲ讀ミ其書中ニ「ビレヂアソ」ノ説ヲ含有セシヲ發見スルニ及ヒ浮薄ナル文學者ニテ神ヲ信仰スル意ナキヲ知リ甚タ失望シ遂ニ自由自治ノ論題ニ就キ非常ノ爭論ヲ爲スニ至レリ其理由ヲ繹ヌルニ初メルーテルハインングランド王ヘンリ第八カ教王ノ權利ヲ保護スル爲メ著述セシ書類ヲ觀テ之ヲ不可トシ其帝王ナルヲモ願ミス一書ヲ著シ駁撃ヲ試ミタリ然ルニエラスムスハ其頃王ニ需ムルヲアリ之カ爲メ一書ヲ著ハシ王ノ説ヲ輔翼シルーテルヲ攻撃セシカハルーテルハ又極メテ激烈ナル書ヲ著ハシ此人ヲ反駁セリ是レヨリニラスムスノ徒弟等ハ皆ルーテルト分離セシ耳ナラス世人モ亦多ク之カ爲メ其信仰ヲ蹉跌シ實ニ改革ノ大障妨ト爲レリ

〔三〕一揆 セルマニ聯邦ハ古昔ヨリ屢々一揆ノ蜂起セシヲアレヒ實ニ千五百廿四年ニ起レル一揆ノ如ク盛大ニシテ且整頓セシ者ハアラサルナリ抑モ此一揆ハ久シク其以前ヨリ蜂起スル徵候アリ且最初ハ全ク其貴族等ノ專横ヲ憤患スル政治上ノ不平ヨリ起リタル者ナレヒ其後トマス、ムンツエルカ之ニ加入シ其首領ト爲ルニ及ヒ教法上ノ惑亂ト爲リタリ因テ教王等ハ此一揆ヲ以テルーテルカ教唆セシ者ト云ヘリ然レヒルーテルハ敢テ教唆セサル耳ナラス其蜂起スル頃深ク之ヲ拒ミ且貴族平民等ニ書簡ヲ贈リ懇切ニ其利害得失ヲ述ヘ平和ニ歸セシヲ希望セリ却説此トマス、ムンツエルノ説ハ玄奧學及ヒ萬有神教ヲ折衷シ即チ人ハ凡ヘテ神ヲ直覺スル者ナリ現在ノ邦國轉覆シテ神ノ邦國新タニ建ツヘシ等ノ説ナリシカ此一揆ハ其後凡ソ一年ニシテ靖定セリ蓋此一揆ノ爲メ荒廢セル都邑ハ甚タ多ク人民ノ死亡セシ

ハ十萬乃至十五萬ニ及ヘリ

六 新教ノ組織 千五百廿五年サキソニノ選侯フレテリク第三死去シ其弟ジョン其侯位ニ登リシカ此人ハ專ラ新教ノ組織ニ盡力シルテルメラノクトンニ命シ其憲法ヲ編纂セシメ且諸方ニ代理公使ヲ遣ハシ改革主義ノ者ヲ以テ不才醜躰ナル教師等ニ交代セシメ又學校ヲ起シ學問ヲ獎勵セリル^ルテハ聯邦中ノ諸侯伯ニ書簡ヲ贈リ其人民ノ爲メ學校ヲ起スヲ勸奨シ且人民ニハ安息日學校ヲ起シ問答書ヲ學ハシメ又其著作ノ聖歌ヲ以テ廣ク世ニ流布セシメシカ是レハ大ニ改革ノ輔翼ト爲レリメラノクトンハ固ヨリ文學者ナレハ高等ナル學校ヲ起サント希望セリ其他聯邦諸國ニテハ或ヒハサキソニニ倣ヒ漸々改革セント欲スル者アリ或ヒハ之ヲ厭惡シ撲滅セント欲スル者アリ互ニ其意見ヲ固守シ遂ニ相仇視スルニ至レリ

因ニ云ク世ニ多クナヤレス大帝ノ如キ威力アル人ニシテ何故ニ新教ヲ撲滅スル能ハサルヤト疑フ者アリ然レニ一言ヲ以テ之ヲ決スレハ唯神ノ攝理ニ由ルト云フニ過クヘカラス蓋我儕人類ノ力ヲ以テ測知スル耳ノ事ヲ詳述スレハ此頃此人ハフランス及ヒ^ルキト戰端ヲ開キ且地中海近傍ノ海賊ヲ盪平セント欲セシ故尙セルマニ人ノ激怒ヲ受クル時ハ忽チ其輔佐ヲ喪ハント恐レシニ由テナリ抑モ新教ノ弘衍スルヤチテラノドスノ如キ蕞爾タル小國ト雖モチヤレス父子ノ力ヲ以テ前後五十餘年ノ星霜ヲ費シタレヒ遂ニ之ヲ障妨スル能ハス況ヤセルマニノ如キ堂々タル大國ニ於テ何ソ其志ヲ達スルヲ得ヘケゾヤ

千五百廿九年^ロマ教會ノ者等ス^{パイル}ノ會議ニ於テ從來議會ニテ定メタル一切ノ禮典等ヲ守ラサル者ハ背法者ト定ムルト決議セシカハ

サキソニノ選侯及ヒベッセ侯其他ノ者ハ之ヲ抗辨スル爲メ一書ヲ認メ其歲四月十九日ヤレス第五ニ呈シタリ因テ世人ハ是レヨリ新教徒ヲ指シプロテスタント即チ抗辨者ト稱セリ其後サキソニノ選侯ハル₁テ₁ル₁メ₁ラ₁ン₁ク₁ト₁ン₁等ニ命シ信仰個條ヲ編纂セシメシニメラ₁ン₁ク₁ト₁ソ₁重ニ之ヲ編纂シ已ニ竣功セシカハサキソニノ選侯及ヒル₁テ₁ル₁ハ₁之ヲ善トシベッセ侯以下ノ諸侯伯ニ示シ途ニアウグスブルグノ會議ニ於テヤレス第五ニ呈セリ時ニ千五百卅年ナリ然ルニ大帝ハ是レマテ聖職者等ノ讒誣ヲ信シ甚タル₁テ₁ル₁等ノ改革ヲ拒ミタレヒ今此信仰個條ヲ觀ルニ及ヒ始メテ其想像ト異レル₁ヲ₁驚覺シ是レヨリ憎惡ノ念稍ヤ減少セリ却說此アウグスブルグノ信仰個條ハ從來ノ信仰個條ト大ニ差異セシ者ニテ其要畧ハ即チ次ノ如シ(一)「バアテスマ」ハ神ニ從ヒテ生活スル爲メ必要ナル者ナレハ必ス受領セサルヘカラサル₁

(二)晚餐ノ麵包及ヒ葡萄酒ノ内部及ヒ下ニハ基督ノ體及ヒ血ノ存在スル₁(三)信徒ハ聖職者ニ就キ其罪ヲ懺悔シ赦免ヲ受クル₁但是レハ神ノ恩惠ヲ受クル方法ニシテ敢テ禮典ニアラス(四)信徒ハ教會ニテ定メタル拜禮式及ヒ節會ヲ守ルヘキ₁但是レハ唯其順叙ヲ整頓スル爲メニシテ神ニ義ト爲ラル、爲メニアラス等ナリ却說ル₁テ₁ル₁ハ₁ア₁ウ₁グ₁ス₁テ₁ン₁ノ₁說₁ヲ₁信仰セシ₁ハ₁其₁著₁書₁中₁ニ₁人₁ノ₁意₁思₁ハ₁罪₁ノ₁爲₁メ₁束₁縛₁セラ₁ル₁耳₁ナ₁ラス₁全₁ク₁善₁ヲ₁爲₁ス₁ノ₁力₁ヲ₁喪₁ヒ₁シ₁者₁ナ₁リ₁ト₁記₁載₁セ₁シ₁ニ₁由₁テ₁甚₁タ₁明亮₁ナ₁レ₁ヒ₁此₁信仰₁個₁條₁ニ₁毫₁モ₁預₁定₁ノ₁ヲ₁記₁載₁セ₁サ₁リ₁シ₁ハ₁蓋₁其₁唯₁神₁ニ₁義₁ト₁セ₁ラル、教義及ヒ天主教ノ謬誤ヲ改革スルニ汲々セシ爲ナラシ₁ル₁テ₁ル₁ハ₁千₁五₁百₁卅₁四₁年₁ニ₁至₁リ₁テ₁全₁ク₁兩₁約₁聖₁書₁翻₁譯₁ノ₁業₁ヲ₁了₁リ₁其₁他₁又₁種₁々₁ノ₁書₁類₁ヲ₁著₁述₁シ₁其₁翌₁歲₁或₁貴₁族₁ノ₁女₁ヲ₁娶₁リ₁タ₁リ₁蓋₁是₁レ₁ハ₁嘗₁テ₁女子₁修₁道₁院₁ニ₁在₁リ₁シ₁者₁ナ₁リ₁セル₁マ₁ニ₁聯₁邦₁ノ₁教₁會₁ハ₁多₁ク₁ル₁テ₁ル₁ノ₁制

定セシ新式ニ據リ拜禮及ヒ講義等ヲ爲セシカ其後新教ノ漸々興隆スルニ從ヒ文學者ノ説及ヒ武族等ノ專横ハ殆ト地ヲ拂フニ至レリ

七 改革ノ完全 天主教徒ハ千五百四十五年イクリヤノ北部ナルテ
 レントニ於テ議會ヲ開キシカ此議會ハ有名ナル者ニテ凡ソ十八年連
 續セリ)チヤレス大帝ハ新教徒ニ此議會ノ決議ヲ守ラシメントセシニ
 新教ノ重要ナル者ハ之ニ抵抗セントテ互ニ盟約ヲ結ヒシカハ大帝ハ
 千五百四十六年此者等ニ叛謀人ノ名稱ヲ附セリ因テ新教徒ハ皆武器
 ヲ執リ戰爭ノ準備ヲ爲シベツセ侯ノ如キハ之ヲ厭ヒ新教徒ハ宜ク神言
 ヲ服膺スヘキ者ナレハ濫リニ武器ヲ動スヘカラスト誠告シタレヒ此
 戰爭ハ唯教法上ノ爲メ耳ナラス皇帝ノ壓制ヲ脱セントスル政治上ノ
 不平モ抄カラサレハ遂ニ戰端ヲ開クニ至レリ却説新教徒ノ軍兵ハ始
 メ甚ク強大ナリシヲ以テ尙直クニ戰闘ヲ起サハ或ヒハ捷利ヲ得シヤ

モ未ダ知ルヘカヲサリシニ其後暫ク躊躇セシ爲メ種々ノ紛議起リ且
 サキソニ侯マウリスカ竊カニチヤレス大帝ト契約シシヨモン、フレデリ
 シノ所領ヲ襲ヒ之ヲ奪略セシカハ軍兵等大概失望シテ解散セリ加之
 シヨモン、フレデリシハチヤレス大帝ノ俘虜ト爲リシカハ或者ヘツセ侯ヲ
 勸奨シ之ヲ救ハシメシメテ爲メ大帝ノ陣營ニ往カシメシニ亦其俘虜ト爲
 リ兩侯共ニ數年間其獄舎ニ下サレタリ却説大帝ハ此等ノ困難ニ乘シ
 漸々セルマニ地方ヲ服従スルニ至リタレヒ尙ホ其人民ノ頑硬ナルヲ
 恐レ強テ新教ノ拜禮式ヲ廢セシムル能ハス今者ノ事ハ凡ヘテテレン
 トノ議會ニ於テ議決スヘシト云ヘリ然レヒ議會ハ其頃疫病流行ノ爲
 メ解散シタレハ止ムヲ得ス中間即チ「インテリム」ナル者ヲ制定シ新舊
 兩教共ニ議會ノ再開マテハ之ヲ以テ信仰個條及ヒ拜禮式ト爲サシメ
 尙從ハサル者ハ之ヲ強迫シ且許多ノ新教ノ教師ヲ其布教地ヨリ放逐

シ必ス兩教ヲ一致セシメント謀レリ然ルニ新教徒ハライアツイグニ於テ亦新タニ「インテリム」ヲ制定シ大帝ノ制定セル「インテリム」中ノ教義ハ凡ヘテ之ヲ放棄シ唯其拜禮式ノミヲ採用スルコト決定セリ但此「インテリム」モ亦聖書ノ教ニ契合セサル拜禮式ハ從來任從セル者ノ中ニ加ヘテ之ヲ守ルモ敢テ無害ナルヤ敵者ノ手ニ制定セル拜禮式ハ之ヲ守ルモ敢テ道理ニ背カサル手トノ疑問起リ遂ニ之ヲ用ヰルニ至ラス「インテリム」ハ兩種共ニ新舊兩教ノ間ニ捨ラレタリ

反復者マウリスハ已ニサキツニノ選侯ト爲リシカ此頃セルマニニテ將ニスペイント戰ヲ開カントスル形狀アレハ之ヲ觀テ是レ實ニ我カ名望ヲ回復スヘキ時機ナリト思惟シ竊カニ聯邦諸國ノ侯伯及ヒツラノス王等ト同盟シ且名ヲマングアベルグノ新教徒撲滅ニ托シ許多ノ軍兵ヲ徵集セリ蓋此地方ニハ許多ノ新教徒居住セシニ由テナリ却說此

人ハ嘗テ其舅ペツセ侯ノ爲メ屢々チヤレス大帝ニ就キ放免セラレノコトヲ歎願シタレト大帝敢テ之ヲ承諾セサリシカハ深ク之ヲ憤恚シ大帝ノインスブルクニ陣セシ時竊カニ其備ナキヲ窺ヒ之ヲ襲撃シ殆ト大帝ヲ擒ニセントセリ因テ大帝ハ是レヨリ新教ノ到底撲滅スヘカラサルコト悟リ遂ニ千五百五十二年ハツツニ於テ彼ノ有名ナル解和ノ會議ヲ開キ且其國內ノ平和ヲ永續スル爲メ重テ會議ヲ召集スルコトヲ約シ其後千五百五十五年其約ヲ守リアウグスブルクニ於テ會議ヲ開キセルマニ人民ニ信仰ノ自由ヲ得セシメタリ是レ實ニルイテルカ彼ノ九十五條ヲ揭帖セシ以後三十八年目ナリ

ルイテルハ此アウグスブルクノ會議以前即チ千五百四十六年其故郷ナルアイスレベンニ於テ悠然トシテ眠ニ就キメラントンハ其後千五百六十年ニ至テ死去セシカハ此兩人ノ死骸ヲサキツニノ選侯フレ

デリクノ死骸ト共ニウイッテソブルグナル城塞會堂ノ中ニ葬レリ
 因ニ云ク「ルイテル」教會ノ憲法ハ既ニ改革頃ヨリ行ハレシニ天主教徒等之ヲ嘲弄シテ「ルイテル」教徒ト喚ヒシカハ新教徒ハ直チニ其稱號ヲ用キ「ルイテル」ノ福音主義ノ教會ト公稱セリ却說此「ルイテル」教會ハゼルマニ及ヒデソマルクスウイデソニ弘衍セシカゼルマニニテハ「エラスデアソ」政治ト唱ヘ教會ノ攝理者ハ聖職者及ヒ平人ヲ政府ニテ撰任スレモ(教會政治ヲ參觀スヘシ)他ノ兩國ニテハ監督ヲ置キテ之ニ攝理セシムルナリ此教會ノ拜禮式ハ甚ク自由ナル者ナレモ多クハ成式ニ據テ之ヲ行フナリ此教會ノ神學ハ改革頃ヨリ尙クメラソソトソカ羅馬書ノ順叙ニ從ヒテ著述セシ神學書ヲ用キタリ又其綱領ハアウグスブルグノ信仰箇條及ヒ問答書二種並ニスマルカルドノ條款ナリ此問答書ハ二種共ニルイテルカ無學ナル人民ノ

爲メ著述セシ者ニテ條款ハ又其激烈ナル語ヲ以テ天主教ノ教義ヲ駁撃セシ者ナリ此教會ハ意向ノ自由及ヒ預定ノ教義ニ就キ最初三十年許リハ甚シキ議論起リタレモ其後千五百七十七年ニ至リテ此紛議ヲ靖定スル爲メ數人ノ神學者相集リ或書類ヲ著ハシ教師等モ亦多ク其紙尾ニ署名シ教會ノ定説ト爲セリ此教會ノ預定及ヒ晚餐ニ就キテノ教義ハカルウソノ教義ト同シカラサルナリ

第二節 スウイツルランド

此國ニ起レル改革ノ歴史ヲ緊要トスル所以ハ二箇アリ即チ(一)歐羅巴諸國ノ人民カロマ教會ノ迫害ヲ避ケ多ク此國ニ移住セシ爲メ(二)此國ニ起レル改革教會ノ教義ハルイテル教會ノ教義ト特別ナル差等アリ實ニゼルマニノ改革ニテ及ハサル所ヲ補足セシ爲メナリ即チ此兩國ノ改革家カ唯聖書ノミヲ默示ト爲スヲ及ヒ信仰ニ由テ義ト爲ラル、

教義ヲ以テ改革ノ基礎ト爲ス。ハ與ニ同一ナレニ其神學ノ傾嚮スル所ニ至リテ大ニ差異スル者アリ。即チセルマニ教會ニテハ之ヲ以テ我本心ニ顯ハル、主觀上ノ事ト爲レヒスウイツルランド教會ニテハ恰モ普通學ノ如ク客觀上ノ事ト爲スナリ。却説或者ハズウヰングリ等ノ教ヲ以テ唯智識ノミニ由テ組織セリト評スレヒズウヰングリノ説ニテハ我儕ハ聖靈ノ感導ニ由テ聖書ヲ了解スルカ故ニ聖書ノ眞理ハ我儕ノ心ヲ赫輝シ救ノ道ヲ知り安心ヲ得セシムル者ナレニ是レハ聖書ノ力ニ由ラス聖靈ノ感導ニ由テナリト云ヘリ。蓋此人ハ實ニ聖書ヲ以テ恰モ外物ノ如ク思惟セリ。ルイテル教會ノ或學者ハズウヰングリ等ノ教ヲ以テ合理論ニ傾嚮セリト評スレヒ合理論ハ却テルイテル教會ノ中ヨリ起リ且ズウヰングリノ教ヲ熟考スルニ此人ハ信仰又ハ聖靈ニ就キテノ教義ノ合理論ニ傾嚮スルヲ戒メシ耳。ナラス聖書ハ實ニ神

言ニシテ自證スルモノナレハ之ニ超越セル證據アラサルナリ。但信徒ガ各自其本心ニ知覺スルコトモ一ノ證據ニシテ古今ノ歴史モ亦其眞理ヲ證據スル者ナリト云ヒ且ルイテルハ大概人ノ罪及ヒ其罪ノ爲メ神ノ律法ニ束縛セラル、形狀ヨリ救ハル、コトヲ説ケヒ此人ハ重ニ信徒ノ生活ト神ノ榮光トヲ説ケリ抑モズウヰツルランド人ハ自ラ我國ノ改革ハセルマニノ改革ニ先ツコト數年ニシテ全ク之ト關係ナキ者ナリト稱セシカ實ニズウヰングリハ未タルイテルノ教義ヲ聞カサル數年以前ヨリ既ニ福音主義ノ講義ヲ爲セリ。

一 形勢 此國ハ第十六世紀頃ニ各々獨立セル共和國十三州アリ互ニ聯合シテ會議ヲ開キ其政治ヲ決定セシカ北部諸州ハセルマニ語ヲ用キ南部諸州ハフランス語ヲ用キナリ人民ハ凡ヘテ天性自由ヲ好ミ改革以前ヨリ天主教ノ壓制ヲ厭ヒ或州ニテハ之ニ抵抗セント決議セ

リ蓋此國ニハ壯年ノ者ヲ以テ他國ノ雇兵ニ出タス一惡習アリ此國ノ聖職者ハ人民ノ無學ニシテ執迷心ノ深キニ乘シ甚タ權力ヲ占メタル此等モ亦甚タ無學ニシテ品行正シカラス例ヘハ或監督會議ノ時能ク聖書ヲ讀ム者ハ僅三人ニシテ其他ハ聖書ノ何事ヲ記載セシヤモ知ラサル形狀ナレトモ敢テ之ヲ耻辱ト爲サリシナリ

二 ズウヰングリ及ヒズリクノ改革 スウヰツルテンドニテ改革ヲ

主唱セシ者ハズウヰングリナリ抑モ此人ハ千四百八十四年ワイルドハウスト云ヘル此國ノ北部ナルズリク湖畔ノ小村ニ生レ其父ハ牧羊者ニシテ且村ノ小吏ト爲リ天性溫柔ナルカ爲メ大ニ里人ニ愛セラレ其家宅ハ今尙ホ存在セリ却説ズウヰングリハ始メベルンノ大學校ニ入り學問ヲ修メ其後バルニ至リ神學ヲ研究シラテンギリシヤヘブルノ語ニ通達シ且哲學ヲ好ミ文學者ノ氣象アリ千五百〇六年グラルス

ノ牧師ト爲リ其地ニ至ルニ及ヒ始メテウイクリフノ著書ヲ讀ミ又エラスムスノ著書ヲ觀テ深ク感服シ此等文學者ノ説ニ從ヒ古昔ラテンギリシヤノ哲學者等ハ天ノ嗣子ト爲レリト主張セリ蓋此人ハ此頃ニ於テモ聖書ヲ研究シ真理ノ光ニ逢ヘリ茲ニ我儕ノ記憶スヘキ一事アリ即チ教會ニ腐敗ノ生セシ時ハ此人及ヒルニナルノミナラス常ニ聖書ヲ研究シ真理ヲ悟ル者アリテ之ヲ挽回スルナリズウヰングリハグラルスニ在ルコト十年許リニシテアインセテルンノ講師ト爲リシカ此地ニ古昔ヨリ有名ナルマリアノ像及ヒ其他ノ古跡寶物等アリ行賽者常ニ雜沓セシカズウヰングリハ此地ノ修道院長カ其修道院ノ門戸ニ赦罪券發賣ノ招牌ヲ掲帖スルヲ觀テ之ニ説キ其招牌ヲ撤セシメ又其講義ニ於テ唯基督ノミ購罪ノ力アルヲ述ヘ且其他種々天主教ノ謬説ヲ攻撃セリ蓋此頃マテ未タロマ教會ヲ離ル、志ハ無カリシナリズ

ウヰングリハ千五百十八年ズリノ大會堂ニ招聘セラレ此時經解法
 ナ以テ聖書ヲ講義スルヲ許サハ其招聘ニ應スヘシト云ヒ其契約ヲ爲
 セシカ既ニズリシニ來ルニ及ヒ古聖人ノ遺跡ニ行賽スルヲ修道者ノ
 誓約ヲ爲スヲ及ヒ「マス」ノ禮典等種々ノ謬説ヲ攻撃セリ蓋此人ハ此頃
 マテ未タルイテルノ著書ヲ讀マサリシカ其後千五百十九年「フランシ
 スカン」派ノ修道者サムソンナル者カ赦罪券ヲ發賣スル爲メ「ミラン」ヨ
 リ此地ニ來ル頃ハルイテルノ著書既ニ此國ニ入レリ因テズウヰング
 リハ此著書ヲ傳播セシメサムソンヲ其市街ヨリ驅逐セリズウヰング
 リハ千五百廿三年或者等ヨリ異端ノ説ヲ信仰スルトノ告訴ヲ受ケタ
 レハ自ラ國會ニ至リ此原告等ト闘論セソフヲ請願シ此者等ハ闘論ヲ
 爲スヲ欲望セサレト遂ニ自ラ六十五條ノ論題ヲ設ケ專ラ聖書ヲ憑據
 トシテ之ヲ論辨セシカ此者等ハ教王及ヒ議會ノ決議ニ據リ其答辨ヲ

爲セリ是時議員等ノ傍聽スル者ハ凡ソ二百人許リアリシカ此結果ハ
 遂ニ國會ニ於テ唯聖書ニ契合スル教義ノミヲ講義セシムルトノ決議
 ナ爲スニ至レリ且其後州内ノ會堂ハ皆其偶像ヲ撤去セシメ又人民ノ
 行賽祭典等ヲ爲スヲ禁シ千四百廿五年四月始メテ改革ノ晚餐ヲ守レ
 リ因テ世人ハ之ヲ此州改革ノ成就ナリト稱セリ或説ニ此頃彼ノ博士
 エックハ其改革ヲ止メントテ「パーテン」ニ來リ改革家等ト闘論ヲ開キ之
 ナ論破セリトアリ然レヒズウヰングリハ敢テ其闘論會ニ出テサル耳
 ナラスエックノ爲メ改革ヲ障妨セラレシ「アサナル」ナリ

三 北部諸州ノ改革

〔一〕ベルン 此州ハ國ノ西北ニアリ其改革ヲ首唱セシ者ハ「ヘルン」ナリ
 此人ハ初メセルマニニ生レ彼ノルイテル等ト交通セシカ千五百十三
 年此州ノ學校教諭ニ聘セラレ其後二三年ニシテ或教會ノ牧師ト爲リ

千五百二十一年始メテズウキングリト交テ結ヒタリ蓋此人ハ為人温和ニシテ敢テ天主教ニ抵抗スル志ハアラサレヒ遠シ此以前ヨリ福音主義ノ講義ヲ爲セシカ其後遂ニ改革ニ從事シ之カ爲メ或ヒハ獄舎ニ下サレ或ヒハ殺害ニ遇ハントセリ然レヒ人民等カ深ク其德望ヲ景慕セシニ由テ之ヲ保庇シ能ク其艱難ヲ救フタリ此州ノ人民等ハ或歲祭典ノ時聖職者等カ福音主義ヲ厭惡スル形狀及ヒ其貪欲無耻ニシテ金錢ヲ貪ル形狀等ヲ粧飾セル種々ノ肖像ヲ製造シ行賽者等ニ示セシカ世人ハ一時之カ爲メ覺醒セラレ甚ク聖職者ヲ迫害セリ人民等ハ又嘗テ國內ノ有名ナル改革家ヲ集メ天主教徒ト闘論セシメタリ其後國會ハ改革ヲ善トシ之ヲ公許シタリ

(二) バル 此州ハズリクトベルンノ中間ニアリ千五百二十九年始メテ改革ヲ起セシカ其諸國新教徒カ天主教ノ迫害ヲ避ケテ來奔セル地ナ

ルニ由テ甚ク緊要ナル事蹟アリ抑モ此州ニハ有名ナル文學者ニラムムスカ改革後凡ソ七年許リ居住シタレヒ毫モ其改革ニ關係セシヲ聞カサルナリ然レヒ其徒弟エコラムペデウスナル者ハ此州改革家ノ開祖ト爲レリ却説此エコラムペデウスハ原トセルマニニ生レハイデルベルグノ學校ニ勉強シ其後修道者ト爲リシカ嘗テ一書ヲ著ハシ告解ノ非理ナルヲ攻撃セシヲ以テ有名ナル學者ナレヒ痛ク修道者等ノ憤恚ヲ受ケタリ千五百二十二年此州ナル聖マルテンノ會堂ノ講師ニ招聘セラレバルニ來リシカ能ク俗語ヲ用キテ講義ヲ爲シ又「バプテスマ」ヲ行ヒタリ此人モ爲人温和ナルヲ恰モ「ヘレ」ルノ如ク亦「ロマ」教會ト軋轢スルヲ欲セカリシカヒ遂ニ止ムヲ得ス改革ヲ謀リシカ其功績ノ大ナルヲズウキングリニ亞キタリ且此人ハ彼ノ博士エツシカハ「デ」ンニ於テ闘論ヲ爲セシ時ハ其重要ナル辨者中ニ加ヘラレタリ此州

ノ人民等ハ其國會カ改革ヲ公許スルニ及ヒ教會ニ屬スル凡ヘテノ十字架ノ聖像及ヒ偶像等ヲ燒棄セリ

〔三〕種々ノ結果 此頃ルセルン等五州ノ人民ハ尙ホ天主教ヲ信仰スル志深ク遂ニ其教法ヲ維持スル爲メ盟約ヲ結ヒタリ或説ニ此盟約ハルセルンヨリ首唱セシ者トアリ却説此同盟諸州ハ各々其州内教法ノ體裁ヲ修正シ聖職者ノ涉黜ヲ行ヒ千五百卅一年ズリシト戰端ヲ開キタリ此時ズリクニハ彼ノズウキングリ其國ノ習慣ニ從ヒ自ラ軍兵ニ交リ同盟軍ト戰鬪セシカ遂ニ生命ヲ喪ヘリ因テ同盟軍ノ者ハ酷ク其死骸ヲ侮辱セシ後之ヲ火ニ投シテ焚棄セリ時ニ歲四十七ナリ抑モ此人ハ頗ル果斷ナレヘルテルノ如キ激烈ニ至ラス且音樂ニ達シ音聲微妙ナレハ其名望甚タ隆ナリシニ不幸ニシテ戰死シ其後エコラムベデウスモ亦其死ヲ聞キ甚タ悲傷シ遂ニ之カ爲メ相嗣キテ死去セシカハ

新教徒ノ悲歎實ニ名狀スルニ堪ヘタリ且此エコラムベデウスハ其性質甚タ善良ナレハ讐敵等ト雖モ皆之ヲ哀惜セリ却説此戰爭ニ就キテハ種々ノ説アリ或ヒハズウキングリノ發意ト云ヒ或ヒハ新教徒ヨリ排發セル者ナリト云ヘモ其真否ハ明白ナラサルナリ

四 南部諸州

スウイツルランド各州ノ者ハ教法ノ爲メ起レル騷亂

ヲ鎮定セントテ千五百卅一年十一月十六日其會議ヲ開キ盟約ヲ結ヒタリ然ルニ既ニ新教ヲ公許セント決議セシ諸州ハ後年相嗣キテ之ヲ許容シタレモ其他ノ諸州ハ聖職者ノ權勢甚タ強ク尙新教ニ傾ク者アレハ強キテ之ヲ挽回セシメ且既ニ之ヲ公許セル諸州モ其後種々ノ事情ニ由テ紛議ヲ惹起シタリ却説此國ノ新教ノ「エラストア」政治ヲ用井ル理由ヲ釋スルニ教會ハ固ヨリ獨立ヲ希望セシト雖モ此頃彼ノ「復パンテスト」派ノ者等現政府ヲ滅ホシ神ノ邦國ト稱スル奇異ナル政治

ヲ建テント欲シ種々ノ暴横ヲ爲セシニ由テ勢ヒ政府ノ干涉ヲ受ケカ
 ルヘカラサル形狀ト爲リ政府モ亦止ムヲ得ス之ニ干涉セシナリ
 ズリクニテハズウヰングリノ死後プリングルナル者之ニ代リ其首領
 ト爲レリ此人ハ學問該博ニシテ辨舌雄快ナル爲メ其名聲甚ク高ク特
 ニ彼ノ高名ナルヘルウエテシノ信仰個條ヲ兩度マテ編纂シ凡ソ四十年
 ノ間其教會ノ牧師ト爲リ千五百七十五年死去セリ却說其著述セシ書
 類ハ頗ル世ニ敬重セラレ特ニ其講義全書ノ如キハ外國ノ語ヲ以テ翻
 譯スル者アリイソグランドニ至ルマテ其勢力ヲ景慕セリ
 〔一〕ゼニウ^ア 此州ノ改革ハ千五百三十五年ニ至テ整頓セリ却說此州ハ
 國ノ南部ニ在リ其市街ハ人口一萬三千アリ此地ノ議員二百人許リト
 其監督及ヒサウ^カヘ侯ハ古昔ヨリ各自互ニ其權力ヲ爭ヒ特ニサウ^カヘ侯
 ハ常ニ此州ヲ橫領スル志望アリシカハ人民等ハ深ク之ヲ歎キ久シク

其壓制ヲ救フヘキ人ヲ希望セシニ千五百三十二年フ^アノルナル者始メ
 テ此地ニ來リ新教ヲ傳ヘタリ抑モ此人ハフ^ラノス人ニテ未ク其國及
 ヒベル^ンニ住セシ頃天主教徒ト闘論ヲ爲シ又「^ワルデンセ」派ノ者ヲ訪
 問シ此州ニ來ルニ及ヒ或民舍ヲ僦リ講義ヲ爲セシカ人民ノ四方ヨリ
 來集シテ之ヲ聽聞スル者甚ク夥シ因テロマノ總監牧師ハ此人ヲロマ
 ニ召喚シ又此地ノ修道者等ニ之ヲ縛リ其市街ヲ繫扯セシメ且之ヲ鞭
 撻或ヒハ銃射セシ後ゼニウ^アヨリ驅逐セシカハ此人ハ暫クベル^ンニ至
 リ潜伏セリ然ルニ此州ノ人民等ハ一歲四旬齋ノ時其監督カ或女子ヲ
 誘拐セリトテ大ニ沸騰セシカハ此人ハ其紛議ニ乘シ再ヒ此州ニ來リ
 新教ヲ弘衍シ千五百三十四年公ケニ天主教徒ト闘論ヲ爲シテ之ヲ論
 破シ其翌歲府會ノ開場頃自ラ其府會ニ至リ教法改革ヲ歎願シ且祈禱
 ヲ爲セシカ議員等ハ多ク之ニ感激シ其後直ニ決議シ「^マス」ノ禮典

ヲ禁シ修道院ヲ閉テ此人ニ神言ヲ説明スルヲ命セリ却説彼ノ有名ナルカルウヰンハ千五百三十六年此州ニ來リ其教會ノ首領ト爲レリ(本卷第四章ヲ參觀スベシ)

スイツルランドノ改革ハ全ク人民ノ力ニ由テ成就セシ者ニテ敢テ君長等ノ權力ニ由ラサリシナリ

第三節 スウイデン及ヒデンマルク

此兩國ノ改革ハ全ク君主ノ勢力ニ由テ行ハレタリ

一 スウイデン 此國ノ監督ハ古昔ヨリ甚ク權力アリ會堂及ヒ修道院ハ更ナリ其國ニ屬スヘキ租稅財產等ニ至ルマテ之ヲ橫領セシカ國王グスタウス、ウァサノ時ニ至リ大ニ改革ヲ行ヒタリ却説此人ハ嘗テセルマニニ瓢寓セシ頃ルーテルノ教ヲ聞キシカ千五百廿三年歳三十八ニシテ國ニ歸リ王位ヲ踐ムニ及ヒルーテルノ勸奨ニ從ヒ最初ニ新教

ノ教師ヲセルマニヨリ招聘シ其後國人ヲウイッテンベルグノ大學校ニ遊學セシメ又聖書ヲ翻譯シテ國內ニ流布セシメ千五百廿四年ストクホルムノ北廿里ヲ距タルウプサラニ於テ新舊兩教ノ圓論會ヲ爲サジメ後又三年ニシテグスタウス、ウァサハ斷然改革ヲ舉行セント欲シ人民ノ代理者ヲ集メ自ラ之ニ向テ汝儕儔監督ノ權下ヲ脱スル能ハスンハ我ハ此王位ヲ辭スヘシト斷言セシニ監督カ其會ニ在リテ之ニ抵抗セシカハ此人ハ其志ノ達セサルヲ歎キ涙ヲ揮フテ其會ヲ退ケリ然レモ人民ハ固ニ愛國心ニ富ム者ナレハ其後之ヲ聞キ大概王ノ意ニ從ヒ監督ノ權下ヲ離レ從來監督カ橫領セル財產等ハ盡ク政府ニ歸シ國內平和ニ新教ト爲レリ實ニ此グスタウス、ウァサハ巧ニ新教ヲ建テタリト評スヘシ蓋此國ハ爾來尙シテ聖書ノミヲ所持シ信仰個條ナル者アラサリシカ千五百九十三年ニ至リ始メテアウグスブルグノ信仰個條

ヲ以テ其信仰スヘキモノト定メタリ

二 デンマルク 此國モ亦スウイデンノ如ク古昔ヨリ其國ノ富饒權
 力等ヲ監督ニ横領セラレシカ國王キリステアン第二ノ時ニ至リ權力
 ナ以テ之ヲ挽回セント欲セリ然レニ此人ハ其志ヲ達スルニ及ハス千
 五百二十三年其國ヨリ驅逐セラレシカハ嗣王フレデリク第一ハ其政
 略ニ反シ溫和ニ之ヲ改革セント欲シ最初ニ新教ノ教師ヲセルマニユ
 リ招聘シ千五百廿七年國會ニ於テ人民ニ信仰ノ自由ヲ許ス^一監督ヲ
 選立スルニ教王ノ干涉ヲ受ケサルヲ決議シ其後キリステアン第三
 ノ時ニ至リ其時機已ニ熟セリト思ヒ千五百卅六年遂ニ監督等ノ所領
 ナ沒收シ力ノ及フ限ハ其舊主ニ返與シ千五百卅七年國會ニ勅奨シテ
 改革ヲ公認セシメ彼ノルーラルノ朋友ナルシヨン、ブゲン、ハゲンナセ
 ルマニユリ招聘シ改革ノ事ヲ整頓セシメタリ

第四節 フランス

此國改革ノ歴史ハ迫害及ヒ特異ナル神學ノ流行スル爲メ甚ク緊要ナ
 リ抑モ此國ノ天主教徒カ新教徒ヲ迫害セシ^一ノ殘酷ニシテ且長遠ナ
 リシ^一ハ第二三世紀ニ起レル迫害ノ外ハ多ク其比類ヲ觀サル實ニ悲
 哀歎息スヘキ者ナリ又此國ニ行ハル、新學派神學ナル者ハカルウ^二
 トアルミニウスノ兩教系ノ中間ニ屬スル者ナリ(本卷第四章ヲ參觀ス
 ヘシ)却說此國ノ歴史ハ自ラ三期ニ分レ即チ(一)改革ノ起原ヨリ千五百
 九十八年「ナソツ」ノ勅書ヲ頒行セシ迄(二)同勅書ノ頒行ヨリ千六百八十
 五年之ヲ廢止セシ迄(三)同勅書廢止ヨリ現今ニ至ルナリ

一 第一期 古昔ヨリ此國ニ起レル種々ノ事蹟ハ實ニ改革ノ準備ト
 爲レリ即チ此國ノ教會規則ハ往昔ヨリ多少ノ自由アリ南部ノ諸州ニ
 ハ文學熾ンニ流行シ改革頃ノ國王フランシス第一ハ文學ヲ嗜ミ彼ノ

ニラヌスノ如ク文學徳操ノ改革ヲ希望セリ又彼ノ「アルビゼンセ」及
 ヒ「ワルドンセ」派ノ説ハ頗ル人民中ニ行ハレ且古昔ヨリ屢々聖書ノ翻
 譯ニ着手セシ者アリシカ此後千五百三十五年ニ至リテ遂ニ之ヲ成就
 セシ等ノ事はレナリ抑モ此國ノ改革ハ端緒ナル「テル」著書ヨリ發
 セシカ初メ此著書ノ「フランス」ニ來ルヤ或監督及ヒ貴族官吏等ヲ始メ
 國內人民等ノ之ヲ愛玩スル者實ニ尠カラス此國ノ南ナル「ナウル」王ノ
 妃ニシテ「フランス」第一ノ妹ナル「マルガレト」ナル者ハ甚ク改革ヲ好
 ミ新教徒ヲ庇保シ且「フランス」第一ハ徳操主義ノ改革ヲ行ハントテ
 「セルマ」ニヨリメ「フランス」ニテ招聘セントセリ蓋是レ「ハル」
 「テル」カ疑
 念ヲ起シ必ス政治ニ關係セシ「ナラン」特ニ「フランス」ニテハ其頃「ワ
 ル」
 「デ」
 「ン」セ「派」ノ者ヲ迫害シタルハ其意實ニ測ルヘカラスト「テ」メ「ラ」
 「ン」シト
 「ン」テ諫メシ故遂ニ招聘ニ應セサリシナリ却説此國ノ監督等ハ其後新

教ノ諸方ニ弘術スルヲ觀テ深ク恐怖ヲ生シ種々ノ迫害ニ由テ之ヲ殺
 害セシカ「フランス」第一モ亦新教徒ヲ厭忌シ其教師等ヲ獄舎ニ繫囚
 シ且其妹「マルガレト」ニ勸メ新教徒ヲ庇保スル「ナカ」ラシメ又「ワ
 ル」
 「デ」
 「ン」セ「派」ノ「ボロウ」
 「ン」スニ住スル者ヲ迫害シ其他ノ諸州ニ散在スル者ヲ
 殺戮シ其死骸ヲ焚燒スル等ノ「ナ」ヲ爲シ天主教徒ハ千五百卅五年列
 組ミテ「パリ」ノ市街ヲ巡行セシ際新教徒三十六人ヲ捕ヘ六ヶ處ノ熱關
 ナル馬場ニ於テ之ヲ焚殺セリ此等ノ迫害ハ長ク繼續シ其間些少ノ消
 長ナキニアラサレ「實」ニ數年間ニ亘リタリシカ新教徒ハ能ク之ヲ耐
 忍セリ蓋新教徒ハ此頃マテ未タ教會ナル者ヲ建テス唯「ヒウケ」
 「ノット」
 「」或
 説ニ繫連ノ意トアリト稱セシカ其後「カルウ」
 「ン」
 「ビ」
 「ザ」カ此國ニ來ルニ
 及ヒ其説ニ從ヒ始メテ教會ヲ建設セリ却説「ヘン」リ第二ハ千五百四十
 七年即「ナル」
 「」
 「テ」ルカ「眠」ニ就キシ翌歲「フランス」第一カ死スルニ及ヒ

其王位ニ登リシカ嚴酷ナル布告ヲ出シテ新教ノ書ヲ所藏スル者ハ凡
 ヘテ禁獄セシ後死刑ニ處スヘシ新教徒ノ難ヲ避ケテ他國ニ移住スル
 者ハ凡ヘテ其財産ヲ沒收スヘシ裁判官ハ教法詰問者ト一致シテ異端
 ヲ変除スヘシト定メ且此裁判ニ關スル控訴ハ凡ヘテ受理スルコトヲ禁
 セシカハ國會ニテハ此法ノ殘刻ナルヲ觀テ之ヲ廢止セシコトヲ諫爭セ
 リ新教徒ハ此頃頻リニ或ヒハ獄舎ニ繋囚セラレ或ヒハ死刑ニ處置セ
 ラル等非常ノ迫害ヲ蒙リタルニ其勢力倍ス熾ンニシテ遂ニナウル王
 及ヒコンダ侯等多クノ貴族之ニ轉教セリ此頃ケレノト、マレノナル
 者アリ翻譯ノダビデ詩篇ヲ改正シ當時ノ譜ヲ付ケテ之ヲ公布セシカ
 大ニ國內ニ流行シ遂ニ之ヲ以テ帝王ノ前ニ奏スルニ至リ改革ノ爲メ
 非常ノ裨益ト爲リシニ天主教ノ祭司等ハ妬心ヲ起シ古昔有名ナルラ
 テンソ詩人ホラスノ詩ヲ翻譯シ之ニ當時ノ譜ヲ付シ以テマレノ詩

ヲ壓倒セシト謀リシカ却テ世ノ嘲笑ヲ受ケ大ナル汚辱ヲ執レリ
 新教徒ハ千五百五十九年パロニ於テ僅カノ議員ヲ集メ大會ヲ開キテ
 カルウソノ信仰個條及ヒ憲法ヲ受ケ其教義ニ從ヒ長老政治ヲ爲ス
 ニ決議セリ又其頃新教ノ貴族等ハ迫害ノ些少衰ヘタルニ乘シパリノ
 郊外ニ至リ日中ニ於テ公然タル集會ヲ爲セリ
 フランソス第三ハ彼ノ後年有名ナルスコットランドノ女王マリヤト結
 婚シ其後千五百五十九年フランソス王ノ位ニ登リシカ此時未ダ十六ニ
 シテ身心共ニ弱シ自ラ政權ヲ執ル能ハサレハ其母カタリンド、メデ
 並ニゾウイリス侯ト云ヘル二人ノ熱心ナル天主教徒之ヲ輔佐シ其政
 ナ爲セリ然ルニ新教徒ハ千五百六十一年ヒトザカ此王家ニ於テ新教
 ノ善良ナルコトヲ説キ大ニ聽衆ヲ感動セシ爲メ其翌歲ヨリ布告ニ由テ
 大都會ノ外ノ各地ニ於テ集會ヲ爲スコトヲ許シレシカハ天主教徒カ之

ナ妬ニ大ニ迫害ヲ爲セシニ新教徒モ亦之ニ抵抗セシトテ種々ノ較計
 ナ爲シ遂ニ政治ト教法ノ區域ヲ忘レ竊カニカタリシ大后及ヒグワイ
 ース侯ヲ黜ケントノ起圖ヲ爲セリ蓋是レハ實ニ新教徒ノ大ナル過愆
 ナリ然ルニ其密計遂ニ露顯セシカハグワイース侯自ラ天主教徒ヲ帥
 キテコンダ侯以下ノ新教徒ヲ攻メ新教徒モ亦之ニ應シ前後八年ノ間
 國內甚ク騷擾セリ因テ國王ナヤレンス第九ハ深ク之ヲ憂ヒ千五百七十
 年兩教和議ノ仲裁ヲ爲シ人民ニ信仰ノ自由ヲ許シ且此和議ヲ固スル
 爲メ其妹ヲ以テナウアル王ニ嫁スルヲ許セリ却說新教ノ者ハ其翌歲
 ナウアルノ女王及ヒコンダ侯陸軍大臣コレンエ等多クロシヘルニ集リ
 ビーザヲ議長ト爲シ此國ニテ古來未曾有ノ大會ヲ開キテ此頃新教
 ハ其教會ノ數大ニ増加シ二千有餘ニ至リ特ニ其中ニハ數千ノ信徒ア
 リ最モ勢力アル教會モチキニアラナルナリ

ナヤレンス第九ノ妹ハ千五百七十二年八月廿四日聖バルトロミユノ祭
 日ニ於テナウアル王ヘンリト結婚スルニ由テ新教ノ貴族ヲパリニ招キ
 嬰應ヲ爲セシカ其夜天主教徒ハ聖ゼエルマンノ會堂ノ鐘聲ヲ相圖ト
 定メ諸方ヨリ起リ陸軍大臣コレンエ等ヲ首メパリ近傍ニ居ル新教徒
 ナ貴賤上下ノ別ナシ婦人女子ニ至ルマテ眼ニ靨ルニ從ヒ之ヲ屠戮セ
 シカ凡ソ四日間ニ死セシ者ハ貴族五百人平民貳萬人許リナリ却說此
 屠戮ノ起原ニ就キテハ種々ノ說アリ或ヒハスペイン王フヒリアノ發意
 ニテ歐羅巴諸國ノ新教徒ヲ芟盡スル目的ナリト云ヒ或ヒハ此頃新教
 徒カ非望ヲ起圖セシニ由テナヤレンス第九カ早ク察知シテ此舉ニ及ヒ
 シ者ナリト云ヘリ然レモスペイン王及ヒロマ教應ニテ新教徒ヲ芟盡
 スル較計ハ固ヨリナキニアラサレモ今者ノ屠戮ハ全クカタリシノ妬
 心ヨリ生セシ者ナランナヤレンス第九ハ其後急ニ使者ヲ遣ハシ諸方ニ

命令シテ新教徒ヲ迫害セシメシカ此時各州ニテ殺害セラレシ信徒ノ員ハ實ニ莫大ナル者ニテ或者ノ臆測ニテハ凡ソ三萬乃至十萬ナラント云ヘリ教王グレゴリ第十三ハ此迫害ノ報ヲ聞キシ時直チニ羅馬府内ノ諸會堂ノ鐘ヲ鳴ラシ信徒ヲ召集シ聖歌ヲ謠ヒ又其勳章ヲ鑄造スルコト命セリ蓋天主教ノ或者ハ此事ヲ以テ全ク虚説ナリト稱スルモ其勳章ハ現今マテ所藏スル者アリ且其他ノ書簡等種々ノ證據モナキニアラサレハ決シテ虚説ニアラサルヘシナヤレス第九ハ其後二年ニシテ大病ニ罹リシカ其死ニ垂ントスル頃ヒウケノット等カ慘憺トシテ迫害ニ苦ミ號哭悲叫スル形狀顯ハレ目ヲ閉テ排忘セントスレト倍ス甚シク遂ニ之カ爲メ全身ヨリ血汗ヲ流シ酷ク苦ミテ死セリ此頃迫害ノ爲メ殉教セシ凡ソ十萬許リノ者ハ大概暗殺ニ遇フテ死シタレト其中公然殉教セシ者モ亦尠カラズ且後來新舊兩教徒カ内亂ノ

爲メ死亡セシ者モ亦殆ント百萬ニ超過スヘシ却說天主教徒ハ新教徒ヲ芟盡セントテ千五百七十六年神聖會盟ナル者ヲ設立シスベイン王フヒリアチ推シ盟主ト爲シ共ニ契約ヲ結ヒシカ其舉動多ク暴横ナリシカハフランスノ神聖會盟員長グウイス侯ハ其國王ヘンリ第三ノ刺客ノ爲メ殺害セラレタリ蓋此ヘンリ第三モ亦其後幾干モアラスシテ暗殺セラレタリ茲ニナウル王ヘンリハヘンリ第三ノ死後フランスノ王位ヲ兼テヘンリ第四ト稱セシカ此人ハ此國帝王中ニテ最モ老練ナル政治家ナレハ此國ノ平和ヲ保ツニハ先ツ天主教徒ヲ慰撫セサルヘカラサルヲ察シ自ラ其教會ニ入り人心ヲ繫維シ然後彼ノ有名ナル「ナソ」ノ勅書ヲ發シ新教徒ニ信仰ノ自由ヲ許セリ時ニ千五百九十八年ナリ却說此勅書ハ新教徒ニ天主教徒同等ノ政權ヲ得セシムルニアラサレト其定例ニ從ヒテ事ヲ行ヒ又其拜禮式ヲ守リ同教ノ裁判官ニ由

テ裁判ヲ受クルコト及ヒ其教師等ニ政府ヨリ支給ヲ爲スコトヲ許シ且之ヲ鞏固ニスル爲メ數ヶ所ノ城堡ヲ新教徒ニ讓與セリ

二 第二期 新教徒ハ此勅書ノ頒行後暫ク迫害ヲ免レタレハ教會ヲ整頓シ大學校四ヶ所神學校二ヶ所ヲ建設セリ然レモ其後地方ノ官吏中ニハ此勅書ヲ輕侮シ或ヒハ之ヲ違犯スル者モナキニアラサレハ新教ノ前途ハ尙ホ未ク平穩ナラス且或者カ思考セシ如クヘンリ第四カ尙久マシ王位ニアラハ教法上ノ紛議モ或ヒハ鎮定セシモ測ラレサレモ此人モ亦千六百十〇年ニ暗殺セラレタレハ其後嗣タルルル第十三ハ固ヨリ天主教徒ニテ且教宰レシユノ籠絡ヲ受ケシニ由テ即位ノ後其勸奨ニ從ヒフランス全國ヲ以テ聖マリアニ奉供シ又其教唆ヲ受ケ新教徒カ尙城堡ヲ所有セハ他國ト戰端ヲ開クニ方リ必ス敵國ニ通シ我國ノ大禍ヲ惹起スヘシト思ヒ不意ニ軍兵ヲ起シ新教徒所屬ノ

諸城堡ヲ襲撃セリ時ニ勅書頒行後廿三年目ナリ是ニ於テ或城堡ノ者ハ後來重テテ迫害ヲ受ケストノ契約ヲ結ビ(此契約ハ無効ニ屬セリ)其城堡ヲ退去シタレモロシヘルノ城堡ニテハ能ク王軍ヲ拒キ籠城セシカ壹年二ヶ月ニシテ遂ニ力盡キ其城堡ヲ陷ラレ凡ソ壹萬餘人戰死セリ抑モ此レシユリユナル者ハ甚ク狡黠ナル者ニテ新教ノ貴族ヲ説キ我教會ニ轉教スレハ必ス高官ヲ授クヘシト云ヒ且賄賂ヲ以テ之ヲ欺キシカハ利欲ナル貴族等ハ轉教スル者モ尠カラス特ニ此頃五十餘年間ノ迫害障妨ハ實ニ殘忍刻薄ナル者ナレモ新教徒ハ敢テ屈スルコトナク其勢ヒ依然トシテ舊日ニ變ラサルナリフランス王ハ千六百八十五年「マニエシユイト」派ノ者ニ勸奨セラレ遂ニ「ナンツ」ノ勅書ヲ廢セリ

三 第三期 新教徒ハ此勅書廢止後ハ法律外ノ者ト爲サレ又烈ク迫害ヲ受ケシカハ世人之ヲ綽號シテ沙漠教會ト云ヘリ却說政府ハ其後

又新教徒ハ天主教ニ復歸スヘシトノ命令ヲ下シ且憲兵ヲ諸方ニ遣ハシ其教會ヲ滅シ會堂ヲ毀テ教師等ヲ驅逐シ信徒ヲ捕ヘ之ヲ十字桁ノ上ニ綁リ鐵棍ヲ以テ其臂及ヒ膝ヲ搥撃シ尙ホ死ニ至ラサレハ又其胸ヲ撃テテ之ヲ殺ス等種々殘刻ナル刑罰ヲ用ヰシカハ新教徒ハ其國ニ住スル能ハス多クホルランドセルマニイングランドスウヰルランド及ヒ亞米利加等ノ諸國ニ遁走セシカ或説ニ此時逃亡者ノ數ハ五萬乃至八萬ナラントアリ加之スウヰルランドハ此國新教徒ノ郷里ト接近セシ故多ク其國ニ逃亡セシカ其單身歩行シテ敢テ物貨財品等ヲ提携スルコトナク悄々トシテ移住スル形狀實ニ直視スルニ忍ビサレハ觀者多ク之カ爲メ流涕セリ却説政府ハ新教撲滅ノ事ヲ以テ殆シト憲兵ニ委託シ此等カ其權力ヲ恃ミ地方ノ官吏ト聯合シ甚ク無辜ノ人民ヲ苛責虐待スルト云ヘヒ敢テ之ヲ禁セサル耳ナラス却テ之ヲ喜ブ形

狀アノハ歐羅巴諸國ノ新教ヲ奉スル諸君長ハ之ヲ聞キテ深ク憐ミフ
 ラノス政府ニ向キ同教徒ノ禁獄或ヒハ「ガレリ」船ノ擡手ト爲レル者ヲ滅
 刑セラシメテ請願セリ此頃迫害ノ熾シナル爲メ商人職工等ハ多ク
 他國ニ逃亡シ此國ノ貿易製造ハ殆ト廢頓スルニ至レリ故ニ聖ギヨ
 ン侯ハ天主教ノ者ヲシテ其著書ニ「フランスハ」ナソツ」勅書ヲ廢止セシ
 爲メ人口凡ソ四分ノ一ヲ減セリト記載セリ然レモ或説ニ當時國內ニ
 尙ホ貳百萬ノ新教徒住メリト云ヘリ蓋此等ハ大概貧困ナル小民ノミ
 ナリ此國ノ南部ニ居住スル「カミサルド」(織工)ト稱スル新教徒ハ久シク
 天主教徒ト戰ヒシカ其後多ク殉教シ已ニ力盡ルニ及ビ千七百〇四年
 其遺存者ニハ他國ニ移住スルコトヲ許サレタリバリニ駐紮セルイソグ
 ラシドノ公使ハ千八百廿〇年頃此國政府ニ請ヒ新教ノ拜禮所ヲバリ
 ニ設ケラシメテ其式ヲ行ヒシニ此國民ノ其式ニ預ル者數千

人アリ第十八世紀頃此國ノラングトシニ新教徒凡ソ八百戸アリ國禁
 ナ憚リ土曜日ノ夜毎竊カニ集會ヲ爲セシカ亦屢々來會スル者數千人
 アリ蓋此等ハ多ク憲兵ニ捕縛或ヒハ殺害セラレタリルキ第十五ハ久
 シシ王位ヲ踐ミシカ新法ヲ設ケ人民カ天主教ノ式ニ從ヒ結婚ヲ爲シ
 且其夫妻間ニ生レタル子女ニ天主教ノ教育ヲ授クル契約ヲ爲サ、レ
 ハ法律上正當ノ結婚ト認メス且其子女ハ父母ノ遺產ヲ相續スル能ハ
 スト定メ且諸處ニ於テ迫害ヲ起シタレハ新教徒ハ此法律ニ從ハス尙
 ホ竊カニ新教式ノ結婚ヲ爲シ又或ヒハ天主教徒ノ障妨ヲ防ク爲メ郊
 野ニ於テ之ヲ行フタリ然ルニ其後ルキ第十六ハ千七百八十七年即チ
 大革命前ニ於テ平和ナル布告ヲ出シ始メテ新教式ノ結婚モ正當ト認
 ムルコトヲ命セシカ俄カニ結婚届ヲ爲ス者百萬人ニ超ヘタリ蓋此布告
 モ既ニ其時機ニ後レ其後幾千モナク無神論ノ流行スルニ及ヒ新舊兩

教共ニ之カ爲メ蹂躪セラレタリ
 然レモオノ第ニ帝位ニ登ルニ及ヒ教法ノ必要ナルコトヲ主張
 テ之ヲ再興ス天主教徒ニハ自家ノ政略ヲ輔翼セシムル爲メ其俸給ヲ
 與ヘ新教徒ニモ亦充分ニ自由ヲ受ケシメ且天主教同一ノ任官權ヲ與
 ヘタレハ新教徒ハ是ニ於テ會堂及ビ牧師神學校ヲ起シ又オノ
 帝ノ命ニ由テ古昔議會ノ或決議ニ基キ其教會ノ憲法ヲ編纂セリ然レ
 此頃ヨリ合理論熾ニ流行シ教會ノ傷害ヲ爲スコト王家ノ迫害ニ起
 過シタレハ教會ハ之カ爲メ殆ト衰頽スルニ至リ且千八百十五年オノ
 リオノ帝滅亡シブルボン家再興スルニ及ヒ南方諸州ニ於テ迫害又起
 リタリノ市街ニテハ唯一日中ニ新教徒六十八人及ヒ其牧師廿八人ヲ驅逐
 シ又其信徒五十人ヲ殺害シ家屋二千戸ヲ焚燒セシカ天主教徒尙ホ
 彼ノ聖堂ヲモテニ屠戮再施ヲ希望セリ蓋迫害ハ茲ニ至テ全ク跡

ヲ收メ其後國王ルキ、ラヒリアハ千八百卅〇年布告ヲ出シテ天主教ヲ國
 教ト爲ス、テ廢シ新舊兩教共ニ之ヲ保護シ其會堂建築、牧師俸給等ヲ
 補助スルコトヲ定メタリ然レモ其後合理論ノ尙ホ盛ニ流行セシ爲メ或
 地方ニテハ信徒カ會堂ニ集會スルニモ官吏ヲ承諾ヲ受ケサルヘカラ
 サル等種々ノ障妨アリ大ニ弘行スル能ハサリシナリ抑モ此國新教ノ
 形狀ハ凡ソ十年前以前ノ調査ニ據レバ教會ノ數五百信徒ノ數六十萬ニ
 及フト雖モ此等ハ大概貧困ナル小民ニシテ且諸々ニ散在スレハ決シ
 テ盛大ナリト云フベカラズ蓋ニ三年以來稍ヤ振興セシ形狀アリ

第五節 子テラランドス

一 形勢 此國ハ現在ノホルランド、ベルギー、兩國ニシテ古昔羅馬
 帝國ノ盛ナル頃ハ許多ノ州郡ニ分レラリスラノ、ハテウア兩州ノ如
 キハ其最モ重要ナル地ナリシカシヤレマン大帝カ此國ヲ征服スルニ

及ヒ更ニ之ヲ分チフランデルス等十七州ト爲シ又之ヲ總稱シテチテ
 ルランドス即チ北土ト號セシカ基督教ハ其以前第六世紀頃ヨリ既ニ
 國內ニ弘行セリ却說此フランデルス州ハ全國第一等ノ大州ニシテ其
 侯伯ハ常ニ他ノ諸侯ヲ雄視セシカ嘗テ此侯ニ其位ヲ讓ルヘキ男子ア
 ラサリシカハ其女婿ベルグンデ侯ニ之ヲ讓與セシニ其後又女子ノ緣
 故ニ由テアウストリア王ノ管轄ト爲リ千四百九十六年重テテ女子ノ
 緣故ニ由テスペイン王ニ屬シ彼ノナヤレス大帝ハ其王位ヲ以テ此侯
 位ヲ兼テタリ蓋此國ハ古昔シヤレマン大帝カ來リシ時人民等ト契約
 シ爲シ其侯伯ハ皇帝ヨリ任命スレモ法律ハ此國從來ノ古法ニ遵フヘ
 シ就中フリランド州ノ人民ハ風ノ吹カン限リ其自由ヲ保有スヘシ
 ト定メシ故此州ノ人民ハ其頃マテ之ヲ自負シ且此國ニテハ古昔羅馬
 人ノ未ダ侵入セサル頃ヨリ投票ヲ以テ首領ヲ定ムルノ習慣アリ故

ニヤレズ大帝ト雖モ此國ヲ專制スルノ權ナクシテ然レモ此國
 人ハ其君長ヲ敬愛スル志モ亦甚ク厚カクシテ其國ノ
 改革頃此國ノ人口ハ殆ク三千萬アリ且其歐羅巴中屈指ノ貿易場ナル
 ニ由テ貿易製造ノ業甚ク熾シニシテ巨商豪賈ニ至リテハ富饒王侯ニ
 モ超過スル者甚ク多シ特ニアントウエルブルスセルスス
 等ノ市街ハ商賈輻輳家屋雅麗ニシテ殿舎會堂等ノ宏壯ナルコト
 三ス(イタリヤノ東北)ヲ除ク外ハ多ク其類ヲ觀ネ且其人民ハ多ク特
 權ヲ占有シ甚ク勢力アリ學問ハ古昔ヨリ流行シ特ニ兄弟共通派ノ學
 校設置以來ハ職工傭人等ニ至ル迄之ヲ務メ處々於テ修辭協會ヲ設
 テ文學ヲ研究セ且此協會ハ漸々興隆シ貴族搢紳モ亦之ニ加入スル
 ニ至リ人民ハ智識發達シテ他ノ諸國ノ類異ナク其改革頃ニ及
 ビ博識多才ナル學者ハ頗ル輩出シテ雖モ彼ノルニテハズウキソク

如ク高名ヲ博スル能ハシナリ蓋彼ノフランス、ソニユス
 如キハ第十六世紀頃フランスヨリ迫害ヲ避ケ此國ニ移住シシカラ
 テ言語ヲ以テ舊約聖書ヲ翻譯シ其名聲頗ル世ニ顯ハレタリ
 三 改革及ヒ迫害 此國ノ改革ハ何國ヨリ傳來モシヤ甚ク明亮ナラ
 サレモ恐クハフランスヨリ傳來セシナラシク却說此國ノ改革ハ嘗テ或
 者カ翻譯セシルコトヲ著書ノ廣ク國內ニ流布セシメ其頃國民カ拜
 禮式或ヒハ教法上ノ商議ヲ爲サシトテ集會セシメ及ヒ或者カ嘗テ彼
 ノケレメントマレリノ改正セルマヒテ詩篇ヲ重譯セシニ其詩篇ノ急
 ニ流行スルコト恰モ其フランスニ流行セシ形狀ニ異ナラザリシ等ノ爲
 メ大ニ裨益ヲ得タリ然ルニヤレズ大帝ハウオルムスノ會議ノ決議
 ニ從ヒ改革家ヲ滅サントテ千五百廿二年監督詰問ナル者ヲ開ケリ蓋
 是レハ從來此國民カ特權ヲ所有スルニ由テ尋常ノ教法詰問ヲ爲スニ

忍ヒス特別ニ斯クノ如キ者ヲ設置セシナレハ其實外面ノ鄭重ヲ示セ
 シ耳ナレハ又竊カニ壓制ナル布告ヲ發シ拜禮ノ爲メ集リ又ハ信仰及
 ヒ教法ニ關スル演說ヲ爲シ或ヒハ聖書ヲ讀ム者ハ死刑ニ處シ且之ヲ
 刑スルニ焚殺絞首活埋等ノ方法ヲ用ユルヲ定メ其翌歲始メテフル
 スセルスニ於テ「アウグステノ派」ノ修道者二人ヲ焚殺セリ是レ實ニ此
 國迫害ノ嚆矢ニシテ爾來此火ハ凡ソ五十許リ焰々トシテ消滅セカリ
 シカ改革ハ其間ニ於テ漸々進歩セリ
 フヒリアハ千五百五十六年其父「ヤレス」第五ニ代リ王位ニ登リシカ其
 後大ニ新教ノ鎮壓ヲ企テ此地監督ヲ十四人ニ増加シ以テ其準備ニ充
 テ又其父ノ布告ニ追加シ(一)改革ヲ贊成スル思想ヲ有ツヘカラス(二)尙
 此思想ヲ有スル者ヲ發見セハ之ヲ上告スヘシ但上告者ニハ犯者所有
 品ノ半額ヲ給スヘシ(三)監督詰問ヲ受ケシ者ハ他ノ裁判所ニ上告或ヒ

ハ歎願スルヲ許スヘカラスト命シ天主教徒等カ其布告ノ殘刻ナル
 ナ觀テ慨歎ニ堪ヘス或ヒハ新教徒ト共ニ之ヲ表明シ或ヒハ其廢止ヲ
 歎願セシニフヒリアハ敢テ之ヲ願ニス且竊カニ官吏等ニ論シ異端者ハ
 其首ヲ以テ其兩股間ニ挿入セシメ之ヲ綁リテ桶水中ニ投シテ殺害ス
 ルモ敢テ不可ナルヲナシト云ヘリ然レモ其頃迫害ノ甚タ殘刻ナルニ
 由テ人心大ニ激動シ將ニ暴舉セントスル勢アリケレハフヒリアモ之ヲ
 憂ヒ又書簡ヲ發シ官吏等ニ異端者ヲ殺スルハ夜中竊カニ閤室ニ於テ
 スヘシト命セリ却說此國ノ少年等ハ千五百六十六年處々一時ニ蜂起
 シ會堂ノ窓戶ヲ破壊シ其偶像ヲ蹂躪スル等ノヲ爲セシカ其後忽チ
 靖定シタルモフヒリアハ之ヲ以テ恰モ全國舉テ謀叛セシ如ク想ヒ新舊
 教徒ニ關ハラス凡ヘテ此國人ヲ鎮壓スル爲メアルウア侯ヲ都督トシ許
 多ノ軍兵ヲ派遣シタリ此アルウア侯ハ有名ノ暴惡家ニシテ且其軍兵モ

頗ル精練猛惡ノ者ナレバ此國ニ來ルニ及ヒ直ニ重要ナル改革家ヲ
 殺害シ又稍ヤ小民等ヲ害メ且彼ノ世人カ流血裁判ト綽號セシ紛紜詰
 問ナル者ヲ開キ殘忍猛惡ナル裁判ヲ爲セシカハ國人皆失望シ自暴自
 棄ノ形狀ト爲リ遂ニ十字架教會ノ副號ヲ得タリ是ニ於テ彼ノ有名ナ
 ルオランデ侯ウイリアムハ此迫害ヲ除キ國人ノ艱辛ヲ救ハントテ千
 五百六十八年ヨリ凡ソ兩度マテ軍兵ヲ募リ其壓制ニ抵抗セシカ此軍
 兵等ハ多シ他方ヨリ迫害ヲ避ケ其頃此國ニ來奔セシ者等ナレハ固ヨ
 リスペインノ精練剛勇ナル軍兵ニ折衝スル能ハス屢々敗戦シ遂ニ大
 敗ニ至リシカハウイリアムハ其國人等ニ勸メ海邊ヲ堤防ヲ決シ國內
 ヲ沈没セシメ他國ニ逃亡セシ謀リシニ人民モ亦之ヲ承諾シタレハ
 神ノ恩惠ニ由テ幸ヒニ此策ヲ成就セサリシナリ茲ニ彼ノライオン大
 學校ヲ起リシ所以ヲ釋スルニ初メ此ライオンノ地ハ國難ノ時ニ方リ

久シクスペイン人ノ攻圍ヲ受ケカハニ盡キ且糧食欠乏シ疫病大ニ流
 行セシ爲メ遂ニ守ル能ハス殆ント落陷スルニ至リシニ援兵等俄カニ
 來リ此地ノ海堤ヲ決シ潮水ヲ敵陣中ニ浸溢セシメ且舟軍ヲ以テ之ヲ
 破リ其重圍ヲ解キシカハ其後國家靖定スルニ及ヒ國會議員等此偉勳
 ヲ後世ニ傳ヘシトテ其舊墟ニ貿易場或ヒハ大學校ヲ建設セシヲ人
 民ニ謀リ其意見ニ從ヒ大學校ヲ起セシカ是レ即チ彼ノ有名ナル者ヲ
 リ抑モ此國人民ハスペイン人ノ迫害及ヒ戰爭ヲ爲メ凡ソ五萬人許
 殺害セラレ一時云殆ント滅亡セントシタレハ遂ニ之ヲ逐フテ其國境
 ヲ出セリ此國ノ歴史家クロシウスノ說ニ凡ソ十萬人許リノ殉教者
 ハ大概彼ノアルデ侯在留中(千五百六十七年乃至千五百七十三年)ニ殺
 害セラレタリト云ヘリ

南部諸州即チ現今ノカタルニアリ且新教ニ傾キタリシカハ侯ア

レキサンブルノ盡力ニ由テ又天主教ト爲リシカ北部諸州即チ現今ノ
 ホルランドハスウヰツルランド及ヒフランスノ如キ教會ヲ建テカ
 ウヰツノ教義ニ從ヒ長老政治ヲ用キ且千五百七十三年ウヰリアムヲ推
 シ此國ノ総護使ト爲シ其後六年ニシテ共和政治ヲ建テタリ抑モ此ウ
 イリアムハ初メ天主教ノ教育ヲ受ケシ者ナレモルリタルノ著書ヲ讀
 ミ之ヲ感服シ其後又カルウヰツノ著書ヲ讀ミ其經驗ニ由テ此說ノ善良
 ナルコトヲ知リ改革教會ニ入りシカ人民ハ深ク此人ヲ敬ヒウヰリアム
 爺云ヒ且後世或者ハ此人カ信仰自由ノ法律ヲ設ケシ故ニ之ヲ評シ
 第十九世紀中ノ人物ナリト云ヘリ然ルニスペイン王フエリツハ褒賞ヲ
 贈テ此人ノ首ヲ求メシ爲メ千五百八十四年或者カ此人ノ家ニ伴事シ
 一日其隙ヲ窺ヒ之ヲ銃殺シテレハ國人等之ヲ聞キ其埋葬ノ際ニ方リ
 皆悲歎哀慟セサルナリ却說此人ハ一歲嘗テ或者ト共ニパリノ人質ト

爲リシカフランス王偶々此人ニ向キ新教徒ヲ殺サント欲スル計畫ア
 ルコトヲ語リシニ此人ハ敢テ一言モ發セズ顔色自若タリシカハ後來之
 チ聞ク者皆其宏度ナルヲ感服シ沈黙ウヰリアムト副稱セリ且此人ハ
 老練卓絶ノ政治家ニテ其認メシ公書ハ後世政治家ノ模範ト爲リ愛國
 ノ情甚ク深ク國難ヲ救フニ方リテハ悉ク自己ノ財產ヲ擲ナテ之ヲ顧
 ミス信仰ノ誠實ナルコトハ小兒ノ如ク謹嚴ニシテ果斷ナルコトハワシ
 トンニ似タリト云ヘリ却說此人カ新教ヲ奉スル歐羅巴諸國ニ勢力ア
 ルコトヲ觀レハ實ニ神意ニ由テ降生セル者ニ似タリ且此頃歐羅巴ニ於
 テ自由ヲ希望スル思想ハ一般ニ起リタルモ亦實ニ此人ノ首唱セシ者
 ニ係ルハ此人ハ自由ノ開祖トモ云フヘキナリ

三 改革ノ成就
 ホルランドハ獨立以來漸々隆盛ニ赴クニ至ルモ
 人ハ其後久シク之ヲ認許セカリシカ千六百〇九年ニ至リテ始メテ之

承認許セリ却說此國人民ハ至リテ愛情深ク他ノ信仰ヲ容許スルコトハ世人ノ欣稱スル所ナルカ是レハ蓋其受ケタル迫害ノ殘忍ナルニ懲リ且偽妄ハ凡ヘテ真理ニ克ツ能ハズト信セシ爲ナラン又此國人民ハ久シク高尚ナル氣象ヲ保テ許多ノ老衰疾病者ヲ養フ爲メニ貧院施療院ヲ設ケ又賑恤所ヲ建テ他國ヨリ迫害ヲ避ケテ來奔セシ者ヲ保護スル等一種特異ナル仁愛アリ特ニ其獄舎ニテ罪人ヲ待遇スルコトノ優渥ナルハ歐羅巴諸國ニテ模範トスル所ナリ蓋此頃他ノ歐羅巴諸國ニテ罪人ヲ待遇スルコトノ苛刻ナルハ實ニ文明國ノ爲スニ忍ヒサル者アリ因ニ云ク此國ノ人民ハ共和政治ヲ維持スル耐忍力ニ乏シク且諸黨派ノ軋轢及ヒ貿易場ノ他國ニ移轉セシ等ヲ爲メ漸々衰微スルニ至リ

四 教會ノ綱領 此國教會ハ「ベルギー」ノ信仰個條及ヒ「イギリス」

クノ問答書ヲ以テ其綱領ト爲セリ抑モ此「ベルギー」ノ信仰個條ヲ著述セシグウイド、ダ、ブレナル者ハ原トヘルヂウム人ニシテ聖書ヲ讀ミ深ク感スル所アリ改革主義ノ說ヲ信仰セシカ種々ノ迫害ヲ受ケ之カ爲メ暫クイソングランドニ逃亡シタレモ再ヒ國ニ歸ルニ及ヒ仇讐等ノ爲メ遂ニ絞首セラレタリ(千五百六十七年)却說此信仰個條ハ始メ此人カ唯其身一人ノ爲メ著述セシ者ナレモ或人カフランス語ヲ以テ之ニ増補訂正ヲ加ヘ完全ナル書ト爲シ後又セルマニホルランド兩國ノ語ニ翻譯シ凡ソ千五百六十三年頃之ヲ出版セシカ此書ハカルウヰノ教義ニ契合シ甚々精核ナルニ由テ俄カニ諸方ニ傳播シ千五百六十六年アソトウエルズノ中會カ公然之ヲ受ケタル後チテルランドスノ諸中會ニテ相尋キテ之ヲ受ケ千六百十九年「ドール」ノ議會モ公然之ヲ受ケ牧師等ハ皆其紙尾ニ署名セリ

此問答書ハ同地大學校ノ教頭ウルサイヌスカバラテ
 テレ侯フレデリク第三ノ命ヲ受ケ其同僚等ト共ニ編纂セシ者ナリ却
 説此人ハ千五百三十四年セルマニニ生レ十六歳ノ時ヨリ凡ソ七年間
 ウツメンベルグ外大學校ニ入道メランクトンニ就キテ其教育ヲ受ケ
 然ル天性温和シテ爭鬪ヲ好ミサルコトヲ見テ似タリ其後歐
 羅巴諸國ニ遊京バリ及ヒテ其勉強シラテンギリシヤ及ヒヘン
 語ヲ學ビ神學哲學ニ通シ又詩歌ニ達シ其名聲俄カニ世ニ顯ルレ廿
 八歳ニシテ南セルマニニナルバテテテ侯フレデリク第三ノ招聘ニ由
 テハセルベルグノ大學校ノ教頭ト爲リ後幾干モナシ其教頭ヲ舉ク
 テシタリ然ルニ其頃セルマニニハ晚餐ニ就キテ議論熾クニ起リ聖體
 合藏説ヲ否ム者ハ皆ルコトナル教會ヨリ放逐セラレタリ因テウルサ
 スハ廿歳尙ホ三十未滿ニシテハラテテ侯ノ命ヲ受ケ同僚オレウア

等共ニ此問答書ヲ編纂シ千五百七十六年フレデリク第三死ス
 ル迄及ヒ其嗣侯ニ驅逐セラレシコトヲ命子某等所領ニ至リ久シ
 シ神學ヲ教授セシ後遂ニ其地ニ死セリ時年歳四十九千五百八十三
 年(大凡ハ千五百三十四年ニ其頃セルマニニハ晚餐ニ就キテ議論熾クニ起リ聖體
 此問答書凡ソ千五百六十三三年即セルマニニハ晚餐ニ就キテ議論熾クニ起リ聖體
 合藏説ヲ否ム者ハ皆ルコトナル教會ヨリ放逐セラレタリ因テウルサ
 スハ廿歳尙ホ三十未滿ニシテハラテテ侯ノ命ヲ受ケ同僚オレウア
 テテシギリシヤ及ヒ改革教會ヲ行ハル、歐羅巴諸國ノ語ニ翻譯セラ
 レタリ耳ヲス其頃ホルランドニ所屬セル亞細亞諸國ノ語ニ翻譯セ
 テシタリ當時ルコトナル教會ノ者カカテ盡シ之ヲ抗撃シ此書ヲ感服ス
 ル者亦多ク追害シタレト改革教會ノ者ハ之ヲ以テ怡モ飢者ノ飲食ニ違
 背ルカ如ク満足シ教師牧師等ハ之ヲ研究スルコト甚ク深ク中會大會モ
 之ヲ受理シ千六百十九年トルドノ議會ニ公然之ヲ受ケ特ニテテテテ

シドスノ教會ノ如キハ此書ヲ以テ其故郷ノ如ク思惟セリ却説此問答
 書ハ羅馬書ノ順叙ニ從ヒ信徒ノ經驗ノ如ク人類ノ罪ノ爲メ艱難スル
 形狀耶穌基督ノ救拯信徒ノ感謝ニ就キ記載セシ者ニテ其間古今ノ問
 答書ヲ參考拔萃セシ所モホキニアラサレモ他ノ問答書ノ妄リニ許多
 ノ教義ヲ排列スル者ト同カラサレハ廣ク世ニ行ハル、古來斯クノ
 如キ者アラサルナリ抑モ此問答書中ニフレテリク第三カ増加セシ天
 主教ノ「マテ」ハ偶像ヲ拜スル詛フヘキコ(第八十條)トノ語ハ實ニ過激ニ
 流レタル者ナレモ或者カ此書ヲ評シテ凡ヘテカルウシノ教義ト合ハ
 サル耳ナラス第三十七條基督ノ贖罪ハ一般ノ爲メニ行ヘリト記載ス
 ルニ至リテハ最モ甚シキ過ナリト稱スルハ未タ其當ヲ得サル者ニテ
 今此人ノ自註セル問答書ヲ觀ルニ能クカルウシノ教義ト符合スレハ
 本文モ亦固ヨリ之ト一致スヘキナリ

第六節 イシグラシド

改革頃此國人民ノ注意セシハ教會ノ教義ヲ改テ重ニ其會例
 事ヲ屬シテ特ニ其最モ敬マセシ「マテ」處信禮晚餐及ヒ
 拜禮ノ方式等並ニ使徒繼續論ヲ論ジ又此國ニ行ハシタル文學者ノ説
 及ヒ「マテ」等ノ翻譯セシ聖書並ニ其著書「コラルド」ノ勢力「ウルテシ
 ン」派ヲ移住ル「マテ」著書傳播セシ「マテ」等ハ皆改革ノ準備ト爲レリ
 一 改革ノ發端 此國ノ國王「マテ」第八ノ初メセル「マテ」ニ改革ノ起
 シ「マテ」頃ハ教主ヲ助テ書類ヲ著スル「マテ」ヲ排撃セシ爲メ教主
 「マテ」信仰ヲ保護主「マテ」云々「マテ」尊稱ヲ與ヘラセシ如キ形狀ヲシテ其後王后
 「マテ」離縁スルニ方テ教主「マテ」軋機シ千五百三十三年遂ニ天主教ヨリ分離
 地ヲ却説其理由ヲ釋ス「マテ」此「マテ」第八ノ王位ニ登リシ頃其兄ナル
 前王「マテ」タル「マテ」未亡人「マテ」ヲ納シ其後「マテ」爲セシカ此後ハ原

王フルアオノバ及ヒイザベラ夫婦の子ニシテハ其後數年ニテハ
 叔母當リシカ當初ハ夫婦之情甚ク密ナリシカ其後數年ニテハ
 シ第八ハ之ヲ厭ヒ教王クレノメテ第七ニ願ヒ嫂ヲ以テ妻トスル
 大信我カ真心ヲ苦タル所ナリト云ヘリ却説此離婚ヲ就キ或者實ニ
 其真心ヲ惱セシ由テナリト稱スレト實ハ此頃ハシテ第八カ其宮女
 アンヌアルカ其婦ナク者ヲ眷戀セシ爲メナラシ然ルニ教王ハ
 人及ヒ其妻レノ太帝ノ意ヲ逆シテコトヲ憚リ又此人ヲ手惱スルヲ欲セ
 渡レバ久シク遂巡シテ其事ヲ決定セサリシニハ第八カカナル
 不學ノ大監督カランカ其婦ヲ勸メテ從ヒ國內ノ學者ヲ集メ離婚シ
 問ヒ學者等カ多ク其結婚ノ不正ナルコトヲ述ベシヲ聞キ遂ニ決必
 之ヲ離縁シアルカ其婦ヲ立シ后ト爲シ其後教王カ不可ナルコト
 述ベテ酷シ之ヲ寵愛シテシテ輕蔑シテ取テ之ヲ用サレ耳ナラス遂ニ

布告ヲ以テ其國教會ハ凡ヘテ教王ヨリ分離セシメ且國會ノ決議ニ從
 ヒ自ラ其教會ノ頭首ト爲リ國內ノ修道院ヲ閉テ修道者ヲ驅逐シ悉ク
 其財産ヲ沒收シテ臣下等ニ分與セシカ此時修道院内ニ貯藏セシ古今
 以典籍ハ大概散逸シテ却説此國カ改革ハ彼ノカシタルベリカ大監督
 カランカ深クスウイッラノドニ行ハレタル改革ノ形狀ヲ愛セ
 シニ由テ此國モ亦之ニ倣ハシテ希望シテノズルノ翻譯セシ聖書及ヒ
 諸改革家ノ書類等ヲ出版セシカ其他種々心ヲ盡シ計畫シテレト尙ホ
 未タ完全ナルニ至ラズ聖體變化説及ヒ死者ヲ爲メ「マ」ヲ守ルコト聖職
 者ノ結婚ヲ禁ズル等天主教ノ認説ヲ殘留スルモノ抄カテサレナリ又
 其ノリ第八カ其後教王カ之ヲ和議ヲ爲サシト謀リシレ再ヒ教王ニ
 服從スル志アラサレハ遂ニ之レニ從ハサカシナリ然レトモ此カ天性
 甚ク專横シテ毫モ教法止ニ心ヲ用サレコトナシ苟モ其意ヲ適シテ

者ハ新教徒ト雖ニ敢テ寛容スルコトナカリシカ或時ハ新教徒ヲ舊教徒
 共ニ絞罪ニ處セシメテ新教ノ者トモ亦稱シ難キナリ蓋此國人ハ
 此人ヲ爲メ教王ノ權下ヲ脱セシメ實ニ緊要ナル進歩ト云フヘシ
 二 改革ノ進歩
 エドワルド第六ハ千五百四十七年其王位ニ登リシ
 カ此人ハ年尙ホ幼稚ニシテ未タ政權ヲ全ク掌握スル能ハサシモ天性
 聰明ニシテ神ヲ敬フ志深ク且其頃ノ大臣等ハ善良ニシテ改革ヲ希望
 セシ者ナリ却説此人ハ大監督カラシトルノ請ヒニ從ヒ彼ノマルテン
 ブセルヒイテル、マルテル、ウエルミ、リベルナルド、オキ、ソ等歐羅巴大
 陸ニテ有名ナル學者數人ヲ招キ其國大學校ノ教諭ト爲セリ此マルテ
 シ、ブセル、其頃有名ノ大學者ニシテ或教宰ハ嘗テ此人ヲ評シ其學識
 ノ淵博ナルヲ我教會凡クテ學者ニ此敵スルニ云々又此頃此國
 在リテ盡力セシユシ、ナリテナル者ハ後年ヌコトナリテ於テ

改革ヲ謀リ大ニ名聲ヲ博シタリエドワルド第六ハ嘗テ其教會ニ殘留
 セル天主教ノ習慣ナレヘテ撤除シ又國內諸會堂ノ講壇ニハ必ク聖書
 一冊宛テ備ユルコトヲ命シ且監督リドリ等ヲ命シラテシ語ノ祈禱文ニ
 基キ其國語ニテ祈禱文ヲ編纂セシメ千五百四十九年ヨリ之ヲ用ヰシ
 カ又千五百五十二年ニ至リテ四十二條ノ信仰個條ヲ編纂セシメタリ
 此信仰個條ハ實ニカルウソノ教義ニ適ヒタル者ニテ彼ノ後年編纂セ
 シ三十九條ノ粉本ト爲レリ却説此人ノ在位六年歳僅カ十六ニシテ死
 セシカ此頃改革ハ大ニ進歩セリ
 三 迫害及ビ退歩
 マリアハ千五百五十三年其王位ニ登リシカ此人
 ハベシリ第八ノ前後カタリソノ女ニシテ即位ノ初年ハ教法ニ就キ特
 異ナル政治モナカリシト雖モ其後スペイン王フエリプトト結婚スルニ及
 ビ天主教ヲ挽回シ新教ヲ撲滅セシト欲シ許多ノ新教徒ヲ捕ヘ獄舎ニ

下ニ新教教師數千人ノ聖職ヲ剝奪シ又ウヰヰンチニスレルノ監督ガ
 アテル及ヒロンドンノ監督ボソテルニ命シ彼ノ有名ナルカラノメル
 以下二百八十八人ノ新教徒ヲ捕ヘ焚殺ノ刑ニ處セシメシカ此頃學者
 教諭等ノ迫害ヲ避ケ大陸諸國ニ逃亡スル者及ヒ信徒ノ獄舎ニ死亡セ
 シ者甚ク多シ却説彼ノカラノメルハ始メ詰問ヲ受クルニ方リ一旦其
 持説ヲ更ムルコトヲ述ヘ且其罪狀ニ署名セシカ後日ニ至リ深ク此事ヲ
 後悔シ再ヒ前説ヲ主張シ其焚殺セラル、頃ハ刑架ノ上ヨリ先ツ其右
 手ヲ伸シ火中ニ入レ其悉ク燒落スルニ及ヒ其身モ亦燒死セリ蓋是レ
 此手ヲ以テ署名ヲ爲セシ故斯クノ如ク最初ニ自燒セシナラン又彼
 ノカラノメルハ焚殺セラル、時ニ方リ監督リドリト共ニ一刑架ノ表
 裏ニ綁着セラレシカリドリハ酷ク悲叫シテ觀ルニ忍ヒサル形狀ナレ
 此二人ハ泰然トシテ毫モ畏怖スル色ナク且リドリヲ慰メテ我儕ハ今

日神ノ恩惠ニ由テ不滅ノ燈ヲ點スルナリト云ヘリ抑モ此國ニハ教法
 詰問所ナル者アラサレヒ召集所ト稱スル粗ホ之ト同一ナル者アリ
 却説アリア女王ハ千五百五十八年在位五年ニシテ死去セリ或者シ説
 此女王ハ身體脆弱ニシテ長シ疾病ニ罹リ自ラ政治ヲ總裁セシコト
 實ニ渺少ナリト云ヘリ然レヒ此女王ハ到底此頃ニ起リタル迫害ノ責
 任ヲ免ル、能ハサル者ナレハ世人ハ此人ヲ指シ流血ノマリアト云ヘ
 四 教會ノ創成
 及ヒ其王位ニ登リシカ即位以來又新教ヲ興隆セシト欲シ從來教法ノ
 爲メ種々紛議ノ沸騰セシチモ願ヒテ且其爲人甚ク外飾ヲ好ム者ナレ
 ハ其臣民中ニハスウイッラノドニ起レル改革教會ノ如キ者ヲ起サ
 シト欲スル者アレヒ遂ニ彼ノ成文禮式及ヒ監督政治ヲ用キテ教會ヲ

起シタリ又此女王ハ其宮中ノ會堂ニハ常ニ十字架ノ聖像ヲ安置シ其
 左右ニ蠟燭ヲ點セシメ或監督カ嘗テ忠諫シタレモ敢テ之ヲ用サリ
 シナリ蓋女王カ斯クノ如キ天主教ト改革教會ノ中間ニ屬スル教會ヲ
 起セシ所以ハ王家ノ政略及ヒ國民多數ノ意志ニ契合セシニ由テナリ
 然レモ許多ノ大陸諸國ニ行ハル、改革教會ノ形狀ヲ目撃セシ者等ハ
 斯クノ如キ國教ニ満足スル能ハス其天主教ニ類似スル禮式等ヲ悉ク
 撤除シ純潔ナル者ト爲サント起圖シ之カ爲メ世人ヨリ「ビユリヤン」即
 チ純潔派ノ稱號ヲ得ルニ至リシカ此等ハ其後倍々勢力ヲ得テ第十七
 世紀頃コロムウェルカ出ルニ及ビ殆ト其目的ヲ達シタレ然レモ國教
 其後王家ノ再興アルニ及ビ又舊觀ニ復シ現今ニ至リテハ稍ヤ往時
 同ナル者ナリ

第七節 スコツトランド

一 改革ノ起原 此國改革家ノ注意セシ所ハ會例等ノ「ヨニアラス」
 テ大概其教義ニ屬セシカ此國改革家ハ皆カ「ウヰ」ノ教義ヲ喜ビシニ
 由テ教會ヲ組織スルニ及ビ此人ノ教義ニ從ヒ長老政治ヲ建テタリ抑
 モ此國ノ人民ハ改革以前ハ甚タ無學昧ナル者ニシテ深ク貴族聖職
 者等ヲ尊敬セリ又其教會ノ中心ナル聖「アシデル」ノ市街ニハ大學校
 及ヒ其頃ノ大監督「トントン」カ邸宅アリ此國國王ノ親族「バツリ」ハミル
 「ト」ナル者ハ改革頃セルマニニ遊ビ新教ノ說ヲ聞キ其信徒ト爲リシ
 カ本國ニ歸ルニ及ビ其教ヲ以テ人民等ニ傳ヘタルカ爲メ千五百廿八
 年遂ニ捕縛シテ大監督「トントン」前ニ焚殺セラレタリ時ニ歲廿四ナ
 リ然ルニ人民等ハ古昔テ「トリアン」カ殉教者ノ血ハ教會ノ種子ト云
 ヒシ如ク其後處々ニ於テ奈何ナル教義ヲレハ「ハミルト」ノカ生命ヲ犧
 牲ト爲スマテ信仰セシナラント之ヲ研究シ遂ニ新教ニ轉セシ者アリ

因テ聖職者等驚怖ノ心ヲ起シ許多ノ改革家ヲ捕縛シ之ヲ殺害セリ
 然ルニヤマルヂウキスハルトナル者ハ千五百四十六年其殺害セラレ
 ヲ臨ミヒトシ向キ汝カ死期已ニ近クリト云ヒシカビトシ
 其歳果シテ暗殺セラレタリ
 二 ジヨン、ナクス及ヒ改革ノ創造 此國ノ改革ハ右ニ記載セル如ク
 最初ヨリ其準備已ニ整頓セシカ其後彼ノ有名ナルヨモン、ナクスガ歸
 國スルニ及ヒ大ニ進歩セリ抑モ此人ハ千五百〇五年スコットランド
 ニ生レ若年ノ頃聖アンデルスノ大學校ニ入り或教諭ノ薰陶ニ由テ甚
 ク自由自治ノ說ヲ好ミ又嘗テアウグステンノ著書ヲ得テ之ヲ研究セ
 シカ此等ハ皆後年改革ヲ謀ルノ準備ト爲レリ此人ハ若年ノ頃既ニ接
 手禮ヲ受ケタレモ未タ聖職者ノ務ヲ爲カス或貴族ノ家ニ招聘セラレ
 テ其兒童ヲ教導シ又彼ノ殉教者ウキスハルトニ隨從シ新教ノ說ヲ聞

キ之ヲ信仰セシカウキスハルトカ殉教スルニ及ヒ其遺訓ニ從ヒ他ノ
 新教徒ト共ニ其翌年ヨリ聖アンデルスノ城堡中ニ潛居セリ然ルニ其
 後數月ニシテ此國及ヒフランスノ天主教徒等此城堡ヲ攻陥シ此人等
 ナ捕縛シテフランスニ送り「ガリ」船ノ擢手ト爲シ且此人ニ其持説ヲ更
 メゾコヲ勸諭セシカ此人ハ敢テ其勸諭ニ從ハス一年七月ノ間船中
 ノ苦役ヲ執リ遂ニ之カ爲メ生涯不治ノ疲弱者ト爲レリ其後此人ハ此
 國トイソングランド及ヒフランストノ和議整フニ及ヒ放免セラレテイ
 ソングランドニ至リエドワルド第六ノ頃ハロンドンニ働キマリアノ時
 ニセニウニ遁走シ此地ニ於テカルウノ教ヲ受ケ且ヘブルギリシヤ
 ノ語ヲ勉強シ又其地ノイソングランド人ノ牧師ト爲リ千五百五十九年
 遂ニ本國ノ招キニ應シ其郷ニ歸リ是レヨリ死ニ至ルマテ凡ソ十三年
 ノ間其身體ノ疲弱ナルヲ願ミズ甚ク熱心ニ改革ヲ謀リシカ天性嚴格

ニシテ甚ク威力アリ天主教ノ聖職者等ハ其歸國ヲ聞キシ時酷ク喫驚セリ却説其頃ベル地方ニ於テ許多ノ暴徒蜂起シ祭司等ノ愚鈍ナルヲ憤リ會堂ノ中ニ闖入シ偶像祭壇ヲ狼藉シ遂ニ其會堂ヲ破壊セシカハ此人ハ其粗暴ナルヲ厭ヒ聖アンデルスノ人民等ニハ自ラ教誨シテ平和ニ其偶像ヲ會堂ヨリ撤去セシメシニ諸方ニテ其後之ニ倣フ者甚ク多シ此頃又其講義ヲ目撃セシ或著述家ノ説ニ此人ハ老後其身體ノ疲弱ナルニ由テ講義ノ際其壇上ニ登ルニハ左右ノ者ニ補翼セラレ形狀ナレモ既ニ講義ヲ爲ス時ニ至レハ言動共ニ雄壯ニシテ其磊落ナルヲ講壇ヲ轉倒スルカ如シト云ヘリ又或州ノ太守ハ此人ノ死骸ヲ觀テ此横臥セル者ハ決シテ人ノ顔色ヲ懼レサリシ者ナリト云ヘリ却説此國ハ千五百六十年國會ヲ決議ニ由テ教王ノ權下ヲ離レ天主教所屬ノ財產ヲ沒收セシガハナシスハ官吏等ニ向キ其財產ヲ以テ學校費ニ充

ツコテ勸奨セシニ官吏等ハ其勢力ヲ恃ミ之ヲ用キサリシナリ此國教會ノ者ハ千五百六十年十二月廿一日ニテンボロノ大會ニ於テナシスノ教會條例ヲ受クルコトニ決シ是レヨリカルウヰンノ教義及ヒ長老政治ヲ用キマリヤ女王ノ時(千五百六十一年乃至千五百六十八年)天主教徒カ人民ヲ其教會ニ復歸セシメント起圖シタレモ之ニ應スル者尠ナク其後女王カイングランドニ走ルニ及ヒ倍々鞏固ニ爲レリ

第八節 スペイン及ヒイタリヤ

一 スペイン 此國ノ官吏及ヒ神學者等ハナヤレス大帝ニ從ヒ屢々セルマニニ至リルテルノ説ヲ聽聞セシニ因テ或ヒハ之ヲ感服シ新教ニ改心スル者アリ且其本國人民中ニモ亦之ヲ傳聞シ或ヒハ新約聖書ヲ翻譯シ或ヒハ協會ヲ建テ聖書ヲ研究スル者尠カラサリシカ此等ハ教法詰問ノ爲メ種々ノ迫害ヲ受ケ或者ハ嘗テナヤレス大帝ノ親愛

ヲ受ケテ由テ僅カ焚殺以刑ヲ免サレシモ其他ハ多ク殺害セラレタリ然レモ第十六世紀ノ中葉或歴史家ノ説ニハ新教ハ其頃既ニ弘行シ尙暫ク教法詰問ヲ遲延セシメ國內ハ必ス之ニ風靡セシナラントアリ此國ノ教法詰問ハ千五百四十四年始メテフランドス、オランダ、プロテスタント者ヲ焚殺セリ此人ハ初メ商業ヲ爲メテテラントスニ至リシカ其地ニテ新教ノ説ヲ聞キ遂ニ其信徒ト爲レリ迫害ハ其後屢々起リシカフランド第二ノ時(千五百五十六年以後數年)ニハ最モ甚ク國內ニ教法詰問所十二箇ヲ設ク年々多クノ新教徒ヲ逮捕シ「アウトダマツ」即チ雜合焚殺ノ刑ニ處シ其他獄舎ニテ死セシ者モ抄カラサレハ新教徒ハ之カ爲メ三十餘年許ヲテ全ク跡ヲ絶テリ

三、イタリヤ此國ニ其頃文學者ノ説盛ニ流行セシ由テ教法ヲ輕蔑シ改革後ノ新教ヲ視ルニ恰モ舊教ノ如ク思惟スル者及ヒエラズ

スル如ク思想ヲ以テ改良ヲ希望スル者等許多アリ蓋此等ハ尙ホ天主教ノ權下ニ居ル者ナレモ其他學者等ノ全ク天主教ヲ棄絶シ之ニ抵抗スル耳イタリヤ基督教ノ根本ナル教義ニ抵抗セシ者モ抄カラス且貴族或モハ教宰監督等ノ中ニ自己ノ經驗ニ由テ恰モ新教徒ノ説ノ如ク信仰ニ由テ義ヲ爲ラルハノ教義ヲ信仰シ天主教ヲ離レズ平和ニ改革セシト起圖スル者モ亦許多アリ或貴族ハ嘗テ小冊子ヲ著シ其改革ノ記載セシカ其冊子ハ能ク國內ニ行ハレウニスニテハ僅カ六年間ニ六萬卷ヲ發賣セリ又許多ノ者ハセルマニ等特ニスウイツラントノ改革ヲ好ミイタリヤニモ亦之ヲ行ハント欲シ共ニ一致結合シテラ

ル等諸改革家ノ著書ヲ翻譯及ヒ出版シ遂ニ其京城ニ於テ新教ノ教會ヲ建設セリ然ルニ此國ニモ亦嚴刻ナル教法詰問始マリ彼ノ後年イ

フランドノ大學校ニ招聘サレタルピートル、マルテル等許多ノ者ハ其

生命ヲ全スル爲メ速カニ他國ニ遁走シタレモ未ダ遁走セザル者ハ大
 概逮捕セラレ或ヒハ獄舎ニ下リ或ヒハ「ガリ」船ノ擢手ト爲リ又ハ絞首
 焚殺ノ酷刑ニ遇フ者甚ク多シ却說教法詰問者等カ新教ノ書類ヲ焚燒
 スル爲メ之ヲ搜索スルニ方リテ其嚴密ナリシヲ驚クニ耐ヘタル者ア
 リ例ハ彼ノ貴族ノ著ハシタル小冊子ノ如キハ爾來今日マテ數百ノ星
 霜ヲ閱タレモイタリヤニ於テハ敢テ之ヲ所藏スル者ナク唯イソグテ
 ノドナルロンドンニ於テ凡ソ五十年前以前僅カニ一卷ヲ發見セシ耳ナ
 リ却說此國新教徒モ亦迫害ノ嚴刻ナル爲メ第十六世紀ノ季頃ニ至リ
 テ全ク滅亡セリ(ホヒミア等ノ改革ハ本卷第六章ヲ參觀スヘシ)
 因ニ云ク改革ノ斯クノ如ク中道ニシテ停滯セシ理由ヲ釋スルニ即
 チ次ノ如ク天主教ニテハ(一)教法詰問ヲ設置シ(二)教王及ヒ聖職者ノ
 生命講義法ヲ改良シ(三)テレントノ議會ニテ新舊兩教ノ區別ヲ定メ

全ク信徒ヲ分離セシメ(四)「シエシユイト」派然大ニ勢力ヲ占メ(五)傳道ヲ
 非常ニ擴張セシカ新教ニテハ(一)「エラスティアン」政治即チ教會カ政府ノ
 干涉ヲ受ケシ爲メ其自由ヲ喪キ(二)信徒ノ信仰カ固陋ニ流レ(三)聖書ノ
 講義ニ專ラ哲學ヲ用キ(四)安息日ヲ守ルヲ嚴ナラス(五)教會カ數派ニ分
 シ互ニ軋轢シ(六)傳道ノ稍ヤ遲鈍ナリシ等ノ爲メナリ蓋此傳道ノ遲鈍
 ナルコトハ時ノ古今ニ關ラズ凡ソチ其教會ノ衰微スル兆候ナリ

第三章 新教諸教會

第一節 「ルーテル」教會及ヒ改革教會

一 兩教會見解ノ差異 改革ノ起ルニ方リテセルマニスウイツルラ
ンド兩國ノ改革家ハ種々ノ事ニ就キ互ニ其見解ヲ異ニセリ蓋是レニ
關シテハ兩國ノ改革家共ニ憂慮スルヲ無キニアラサレハ勢ヒ止ムヲ
得ス遂ニ茲ニ至リシモノニテ其異見ハ大略左ノ如シ

〔一〕聖書 聖書ハ神言及ヒ聖禮典ヲ以テ基督ヲ顯彰スル者トシ聖
靈ノ神言中ニ憑寓スルコトハ恰モ熱ノ鐵ヲ透ルカ如ク又神言ハ希伯來
書四章十二節等ニ記載スル如ク活キテ且能力アル者ナリ倘此活クル
言語ヲ受理シテ信仰ニ出ル者アラハ是レ其人ニ不信仰ニ云ハルニ一ノ
障礙アリ然ナリト云テ然ルニズウキシグリニ其説ヲ否言果シ然
ラハ神言ヲ以テ神ノ如ク尊崇スル者ナリ然レハ聖書ハ固ヨリ神ノ默

示ニ由テ陳述セシ者ナレハ亦是レ一個ノ受造物ニ過キス且哥林多後
書三章六節ニ記載セル儼文ハ死シ靈ハ生カストソ語ニ據レハ聖書中
ニ神言ハ唯人ニ救ヲ得セシムル器械タルニ過キス人類ノ心ニ神ノ生
命ヲ憑ラシムルハ聖靈ノ能力ニ據レリ即チ神言ハ神ノ光ヲ指教スル
契機ニシテ聖靈ハ真正ニ人心ヲ輝耀スル者ナリト云ヒ且其信徒等ニ諫
誡シテ神言及ヒ聖禮典ハ救ヲ得ル效驗アル者ナレハ之ヲ尊崇スル教
義ニ注意セサルヘカラスト云ヘリ蓋救ハ全ク神ノ恩惠ニ據レハナリ
却説此人ノ徒弟アリシケルニ其師ノ死去セシ後ルヲテ糾彈セシ
トテ其家ヲ訪問セシニ却テルトルカ之ヲ論破シ汝ノ言果シテ真正
ナラハ我輩諸人ニ道ニ傳ユルニ方リ汝ハ福音ヲ捨ル者ナリト稱スル
其其人ハ必ス否我ハ決シテ福音ヲ捨ツル者ニアラサレハ汝カ唯今述
フル所ハ唯其言語ノミニテ福音其者ニアラサレハナリト答ニヘシト

云ヒテハ「バプテスマ」ハ其言ヲ全ク受理スルニアラサレハ是レヨリ
 稍ヤ其持説ヲ變シ且「バプテスマ」ハ神ノ恩惠ニ由テ聖書ヲ説明スル爲メ
 此世ニ降レル者ナリト云ヘリ
 「(二)「バプテスマ」ル「バプテスマ」ハ人ヲ聖潔ニスル能力アリ
 耳ヲラス神ノ徵召ニ由テ生活セシムル能力アリ即チ人ハ罪ニ抵抗シ
 或ヒハ不信仰ノ障礙アルニアラサレハ此「バプテスマ」ノ能力ニ由テ一
 切ノ惡ニ克ツテ得ヘシ且是レハ神ノ約束ニシテ凡ヘテ建タル契約
 ノ益ヲ得ルヘシ又之ヲ受領スルハ唯一回ナレモ其效驗ハ生涯消滅ス
 ルナリシ是ヲ以テ彼ノ天主教ニテ用キテ告解最期等ノ禮典ハ實ニ無
 益ナル者ナリト云ヘリ然ルニズウキングリハ此説ヲ以テ天主教ニ擧
 擧セル者トシテ之ヲ否シ倘果シテ然ラバ「バプテスマ」ハ實ニ秘法ト稱
 セラルヘカラスト云ヒシカハ「バプテスマ」ハ其效驗ハ公然ノ禮典ニ由テ

存スルニ由テ得且爲啓蒙者天ノナリ故ニ我
 考按スルニ「バプテスマ」ハ如キナリト云ヘリ
 最ヤ「バプテスマ」ハ此禮典ハ就テ是レハ神ノ恩惠ニ由テ聖書ヲ説明スル
 爲メ降レル者ナリト云ヘリ然ルニズウキングリハ此説ヲ以テ天主教ニ擧
 擧セル者トシテ之ヲ否シ倘果シテ然ラバ「バプテスマ」ハ實ニ秘法ト稱
 セラルヘカラスト云ヒシカハ「バプテスマ」ハ其效驗ハ公然ノ禮典ニ由テ
 存スルニ由テ得且爲啓蒙者天ノナリ故ニ我
 考按スルニ「バプテスマ」ハ如キナリト云ヘリ
 最ヤ「バプテスマ」ハ此禮典ハ就テ是レハ神ノ恩惠ニ由テ聖書ヲ説明スル
 爲メ降レル者ナリト云ヘリ然ルニズウキングリハ此説ヲ以テ天主教ニ擧
 擧セル者トシテ之ヲ否シ倘果シテ然ラバ「バプテスマ」ハ實ニ秘法ト稱
 セラルヘカラスト云ヒシカハ「バプテスマ」ハ其效驗ハ公然ノ禮典ニ由テ

免即神之恩惠ニ由テ基督ヲ養血ヲ以テ信徒一切ノ罪ヲ洗滌セシメ
 表號ナリト云ヘリ
 (三)晚餐 此禮典ニ就キテモ兩教會大ニ見解ヲ異ニシルコトヲ見ルルニ
 督ハ體ニシテ晚餐ノ中ニ在セリ即チ基督ハ其肉及ヒ血ヲ以テ信徒ニ
 與ヘタレハ晚餐ノ麵包及ヒ葡萄酒ハ敢テ天主教ニテ教ユル如ク其元
 品ノ變化スルニハアラサシキ其肉及ヒ血ハ元品中及ヒ下ニ在ルナ
 リ是ヲ以テ不信徒モ之ヲ受ケタルハアラサシキ是レ其罪ヲ招ク者
 ナリ云ヘリ然ルニズウキソグリ等ハ之ヲ否シ基督ハ神ノ右手ニ坐
 シ且其人性ハ許多ノ處ニ於テ同時ニ入ト同在スル能ハス又三個ノ容
 量アル者即チ麵包ヲ基督以テ肉ニ同時同處ニ同在スル能ハスト云ヒシ
 湯ルルコトヲ説ク之ハ答テ夫レ神ハ右手中其無限ナル能力ヲ形容セ
 シ者ニテ到處ニ在リ且基督ハ唯天ヨリニ由テタル者ニシテ

ラ等ハ我情ハ共ニ在スル故テ其父以テ手ヲ離シテ云フヘカ
 ス且又光淨ニシテ且無限ナル者ナリハ戸障ヲ閉鎖セシ所ト雖モ數少
 通行スル者ナリト尙モ種々ノ比喻ヲ以テ我カ聲ヲ千入ノ耳聒ニ達ス
 シル各皆其聲ヲ全體ヲ聽受スルヲ得ルナリ百人ノ者湖邊ニ佇立スレ
 ハ各皆其水中ニ太陽ノ反射光ヲ影ヲ觀ルコトヲ得シト是レハ唯其觀ル
 コキ處ヲ觀ルノミニテ敢テ他人ノ觀ヲ奪フコトアラサルナリト云ヘリ
 因テ「カトリック」教會ノ者ハ多少此等ノ説ニ基キ基督ノ人性ノ本質モ其
 神性ノ如ク無限ニ作動スル者ナリト思ヒカレドシテ大議會ニテ決
 議セシ第五條ノ教義(上卷二百七十六頁)ヲ參看スヘシ(ナ否メテ或モハ
 又基督ハ必ス其約束セシ所ニ在ス者ナシ)其人性ハ宇宙ニ遍在スル
 ニアラサシキ許多ノ晚餐ヲ守レテ者以テ所ニ在スナリト信仰スル者モ
 亦少クナラサルナリ抑モズウキソグリ等ハ最初此禮典ヲ以テ基督

贖罪ヲ記念スル爲メナリト説キシカ此教義ニ亦其「マデラ」ノ教義
 ニ於ルカ如ク屢々變更シ或ハ神ノ恩惠ヲ受クル表號ト云ヒ或ハ
 「マデラ」ノ誓ヲ認許即チ信徒ハ之ヲ受クル際「マデラ」ニ爲メ建
 テル契約ヲ領承スル意ナリト云ヒ其後死ニ垂ントスル頃ニ至テ尙ホ
 開發セザル説述ヘテ然ルニ若干ノ新教信徒特ニ合衆國コングレガションヲ
 會コン者ハ今日迄第ニ説類似ト説キ信仰シ其他ノ新教徒ハ今日マテ
 多ク第ニ三ノ説ヲ把持スルナリ彼等カ「マデラ」ヲ管テルナリトテ
 ナ斯ル其基督ノ肉及ヒ血ニ晚餐ニ與テラレ且信徒カ信仰ニ由テ之ヲ
 得ル計ニ就テ我々贊成認許ナリト云ヒシニ「マデラ」ニ對シテ
 深シク謝意ヲ感シ此書簡ノ贈答ハ兩教會ノ平和ヲ謀ル爲メニ既
 ニ甚期ヲ望ムコトヲ「マデラ」ノ議論中一ツ最モ緊要ナル説ハ即チ教會
 ノ禮典ハ神神人共授與スル恩惠ニ其分決テテ彼ノ天主教徒「マデラ」告

解等ノ禮典ニ就キ教ユル如ク人ヨリ神ニ捧クルコトアラズ唯人カ之ヲ
 受領スル耳ト云ヘルコト是ナリ抑モ晚餐ニ由テ基督ノ肉及ヒ血ヲ得ル
 トノ説ハ「マデラ」教會モ改革教會モ敢テ異ナル所アラサレモ唯其異
 ナル所ハ「マデラ」教會ニテハ口ヲ以テ之ヲ受クルト云ヒ改革教會ニ
 テハ口ヲ以テ受クルモノハ唯其表號ニシテ表號ヒラル、所ノ物ハ心
 ナリ以テ之ヲ受クルト云フニアリ

〔四〕定意ノ原由

此ニ就キテモ兩教會見解ヲ異ニスル者種々アレモ大
 概撰擇及ヒ定罪ノ兩條ニ關スルナリルコトアルハアウグスティンノ如ク
 「インフララプセリアン」即チ神ハ人類ヲ造リ之ニ其犯罪スルコトヲ許容
 シ唯其撰擇ヒシ者ノミチ恩惠ニ由テ救ヘモ其他ハ罪ニ放任スルトノ
 説ヲ信仰シタルニモランシト種々ノ説ナ一致ヒシムル爲メ故意
 ニ卑近ナル説ヲ主張シ撰民ノ撰擇セラル、理由ハ其未ダ發顯ヒサル

信仰ニ由ル者ニテ且此撰民ハ其信仰ヲ擴張スル爲メ自己ニ亦其意向ヲ働カシメサルヘカラスト云ヘリ抑モル^ルテ^ル等カ此定意ノ原山ニ關スル説ヲ考按スルニ是レモ亦其他ノ教義ノ如ク改革教會ノ説ヨリ多ク主觀上ノ論ニ傾嚮スルナリ即チスウイツル^ラン^ドノ改革家ハ神ノ主權ヲ重シ凡ヘテノ者ノ最大目的ハ皆神ノ榮光ニ止ル者ニテ一切ノ受造者ハ皆此榮光ヲ顯ハスヘキ者ナレハ撰擇、定罪ノ原由ハ大概神ノ主權ニ由レリトスレヒル^ルテ^ル等ハ重ニ神ト人類ノ關係上ヨリ之ヲ論究スルナリ例ヘハ信仰ニ由テ義ト爲ラル、教義ノ其教會中ニ盛ナルカ如キ是ナリ

〔五〕會例 此ニ就キ兩教會見解ヲ異ニスルモノハ大概聖靈降臨ニ關シテ併リ抑モ聖靈ノ教會ノ上ニ宿レ^ルル^ルハ新舊兩教會共ニ信仰ス^ル所ナレヒ唯天主教ニテハ教王或ヒハ教會カ聖靈ノ感導ニ由テ決議セシ

モノハ神聖確實ニシテ且聖書ト同等ノ價直アル者ナレハ教會ニテ必ズ守ラサルヘカラサレカ如ク其一定セル會例ハ凡ヘテ人ノ良心ニ綁着スル者ナリト云ヒ其會例ハ甚ク複雑精細ナル者ナレヒスウイツル^ラン^ドノ改革家ハ全ク之ニ反シ教會ノ會例トハ唯聖書ニ記載セシ者ノミナリト稱シ其會例ハ至テ簡易質朴ナル者ニテ特ニ彼ノイシク^ラソ^ドニ起レ^ルル^ルビ^ニユ^リタ^シ派ノ如キハ教會中更ラニ一定セル禮式ヲ觀サルニ至レリ然ルニル^ルテ^ル等ハ此兩教會ノ中間ニ立テ信徒ハ教會ノ決議ニ由テ定メタル拜禮式及ヒ祭日ハ必ズ守ラサルヘカラスト但是レハ神ニ義ト爲ラル爲メニアラスト主張シ其教會ハ今日ニ至ル迄尙ホ舊教中種々ノ禮式ヲ守ルナリ

二 改革家ノ商議 ゼルマニスイツルランド兩國ノ改革家ヲ開キタル商議ニテ最モ緊要ナル者ハ千五百廿九年ヘモシマル^ルナル^ルニテ

開キシ會ナリ抑モ此會ハ凡ソ三日間ニシテ重ニ晚餐ニ就キテ商議セ
 シカ此時「レイトナル」教會ヨリハ「ルメランクトン」ヨナス等改革教
 會ヨリハ「ズウキングリ」ニ「ニコラム」ペデウス「フッセル」等出會セリ此「フッセル
 ナル者」ハ「スタラスブルグ」ノ人ニテ始メ「ズウキングリ」ノ説ヲ賛成シ
 シレ後「ハルイテル」ノ説ニ左袒セリ却説ズウキングリハ約翰傳六
 章六十三節ノ經文ヲ引照シ肉ハ無益ナル者ナリト述ベシニ「レイトナル
 」ハ此時其机上ニ白墨ヲ以テ是レハ我身ナリ(太廿六ノ廿六)トシ經文ヲ
 記載シ之ヲ改革教會ノ者ニ指示シテ答辨セリズウキングリ等ハ「レイト
 テル」ノ如ク基督カ人ノ喉フヘキ肉ト爲リ麵包ノ中ニ在ス説ヲ信セサ
 シレ唯其肺及ヒ血ノ麵包等ノ中ニ存在スルコト承諾セシニ「レイトナル
 等」ハ尙ホ人ハ基督ノ身ヲ辨セサルヘカ「ラズ」(前哥十一ノ廿九)ヲ主張セ
 リ抑モ「ズウキングリ」ハ固ヨリ「レイトナル」教會ト輯睦セシコト希望シタ

「レイトナル」之ニ向キ汝ハ我ニ心ヲ異ニスル者ナリト云ハ斷然之
 ナ拒絶致取テ合容スル意ナカリシナリ却説此商議會ニ至ハ遂ニ十五
 條ノ教義ヲ制定シ各之ヲ署名シ且後來ハ互ニ爭論ヲ起スヘカ「ラズ」ト
 條約シテ「レイトナル」教會ノ者等「ズウキングリ」ノ
 盟約書ヲ著ハシ晚餐ノ事ヲ述ヘ世ニ公ニセシカハ改革教會ノ者モ亦
 「レイトナル」ノ信仰個條ヲ著シ之ニ對シテ蓋此信仰個條ヲ觀レハ
 「ズウキングリ」ノ改革家ハ「レイトナル」ノ説ニ同意セント欲セシコト明
 晰ナリ然レモ此兩教會ハ右ニ記載セシ如キ形勢ナルニ由テ遂ニ一致
 シテ天主教ニ抵抗スル能ハザリシナリ
 三 「ジョン」カ「ルウソン」ノ傳記ニ此人ハ千五百〇九年「フランス」ノ北部ナ
 ル「ユノン」ニ生レ父ハ其郷ノ官吏ニシテ頗ル知識アリ母ハ敬虔ニシテ
 能ク神ニ事ヘ父母共ニ近傍ニ顯ハシタル者ナリカ「ルウソン」ハ顔色蒼白

三シテ其言行至リテ謙嚴ナリ且其平生用キル所ノ衣服財産等ハ皆質朴ナラサルナシ其氣象ハル^トテ^ルノ如ク快活ナラサレモ稍ヤ人ヲ愛シ且其父母ノ氣質ヲ受ケ自己ノ真心ニ適ラテ身ヲ修ムルノ特質アリ幼少ノ頃ハ其隣家ナル或貴族ノ兒童ト共ニ學問シ且パリノ學校ニモ共ニ入校セシカ其後獨モ^ンテ^ギユノ學校及ヒ^オレ^オンノ大學校ニ入ルニ及ヒ其進歩甚ク疾シ常ニ他ノ書生ニ超越シ未タ成下ニ至ラスシテ既ニ敏辨法ニ達シ且頗ル先師等ノ著書ヲ通覽シ又暫ク法律學ヲ修メシカ是レハ後年其教會政治ヲ制定スルニ方リ大ニ輔益ヲ得タリ十八歳ノ時或教會ノ牧師ト選ハレタリ蓋此時ハ接手禮ヲ受ケリシナラシ十九歳ノ時始メテ聖書ヲ觀ルコトヲ得テ深ク感スルコトアリ心ヲ盡シテ之ヲ讀ミ直キニ其蘊奧ヲ極メ遂ニ天主教ノ誤謬ヲ發見シ廿三歳ノ時パリニ於テ公然改革ノ說ヲ首唱セリ然ルニ「ソルボン」ノ學者等其反

對立ニテ廣ク之ヲ抵抗セシカハカ^ルウ^ンハ遂ニフランスニ居ルニ能ハス之ヲ去リ或ヒハ山海ヲ跋渉シ或ヒハ客土ニ飄寓シ以テ日月ヲ送リシカ管テヌウ^レツ^ルラ^ンドニ寓スル頃彼ノ後年有名ナル組織神學ヲ著述セリ時ニ歲廿四ナリ却說此人カ最初此書ヲ著述セシ時ハラテ^レノ語ヲ以テ甚ク簡短ニ記載セシカ其後自ラ之ヲ増補改正シ一部ノ書籍ト爲シ且或ヒハフランス王ヲ勸メテ新教ニ歸セシムル意アリシニヤ其卷首ニフランス王フランスシス第一ニ奉呈スト記載セリ蓋此書ハ新教中ニテ組織神學ノ嚆矢ナリカ^ルウ^ンカ^イノ^ダリヤ^ヨリ將ニ其郷里ニ歸ラントテゼニウ^アチ^ニ通行セシ際此地ニフ^レル^ル及ヒウ^レト^云ヘル三人ハ改革家アリ種々ノ商議ヲ爲シ頻リニ之ヲ抑留セシト謀リタレモカ^ルウ^ンハ敢テ許容スル色アラサリシカハフ^レル^ルハ此ハニ向キ足下尙改革ヲ謀ル爲メニ盡力セズ

ハ神ノ詛ヲ受クヘシト云ヒ遂ニ之ヲ留メシカカルウヰンハ後來此時ノ形容ヲ語リフアレルノ言ハ神カ我ヲ攫ミシ如クナリシト云ヒ他ノ改革家等共ニ盡力セシニ其威勢忽チ一筋内ニ行ハシタリ却説此州ハ原ト風俗ノ大ニ衰頹セシ地ニテ惡徒等甚多カリシニカルウヰンハ之ヲ矯正セシトテ嚴刻ナル法律ヲ設ケ且教會ノ懲戒ヲ嚴ニセシカハ忽チ惡徒等ノ憎嫉ヲ受ケ其地ヲ驅逐セラレタリ然レモ其後三年許リニシテ風俗倍々破壊セシカハ人民等又カルウヰンヲ慕ヒ再ヒ其地ニ招聘セリ因テカルウヰンハ是レヨリ勢力ヲ得テ惡習ヲ改革シ且一ノ學校ヲ設ケ書生ヲ薰陶セシカ其名聲大ニ顯ハレ諸國ヨリ來學スル者甚多ク其教義ハ忽チ歐羅巴諸國ニ弘行セリ却説此學校ニ其頃教諭ヲカシビハザハ學問辨舌ヲ以テ有名ナル者ナリカウヰンハ或時セニウヰン或大教會ノ牧師ヲ兼務セシカ其品行甚々嚴格ニシテ一時此地ニ惡疫

流行セシ際ハ自ラ其病者等ヲ看護シ毫モ畏憚スルコトナシ其聖書ヲ講義スルニハ敢テ草稿ヲ起スコトナク直チニ其胸襟ヲ吐露シ又聽衆ヲシテ能ク自己ノ説ヲ熟考玩味セシムル爲メ屢々其間ニ於テ暫時宛停止セシカ其辨舌ノ爽快雄壯ナルニ由テ聽衆ハ常ニ充溢セリ蓋此草稿ナクシテ講義スルコトハ自ラ良法ト稱シ其徒弟等ニモ亦之ヲ勸メタリカルウヰンハ教會ノ榮光ヲ顯ハス爲メ生涯ノ全力ヲ擲ナテ之ニ盡セシカ其書類ヲ著述スルニ方リテハ連夜睡眠スルコトナク書記ヲシテ連日斷ナク之ヲ記載セシメ甚シキニ至リテハ三四人ノ書記ヲシテ一時ニ數種ノ書ヲ記載セシメシコトアリ且斯ク多忙繁雜ノ中ニアリテ常ニ歐羅巴諸國ノ改革家ト文書ノ往復ヲ爲セシカ遂ニ此等ノ爲メ其精力全ク消耗シ五十五歳ニシテ永眠セリ時ニ千五百六十四年ナリ先是カルウヰンハ千五百四十年ニ妻ヲ娶リ且一子ヲ設ケシカ妻ハ其後九年ニシ

テ世チ逝リ其子モ亦相尋キテ天殤セシカハ此等ノ爲メ深ク其心ヲ傷
 メタリ且此人ハ生涯甚ク貧困ニシテ特ニセニウアニ寓セシ頃ハ俸給微
 薄ニシテ生活ヲ爲スニ足ラザレハ自ラ書籍ヲ賣リ其急ヲ救ヒシコ
 リ一歲復ハアテスト「派」ノ或者カ此人ヲ告訴セシ際其吝嗇ナルコトヲ述
 ヘシカハ州會議員ハ之ヲ聞キテ皆哂笑セリ此人ノ財産ハ其死後ニ至
 リ或者之ヲ計算セシニ一切ノ什器等ヲ合セテ之ヲ數フルモ尙ホ其金
 額貳百圓ニ及ハザリシナリ
 カルウヰンハルトナルナク等ノ改革家ト殊ナリ彼等ハ其事業動功
 爲メ其名倍々顯ハレタレトモ此人ハ其建テタル教系即チ神學及ヒ教會
 政治等ノ爲メ殆ソト隠蔽セラル、ニ至レリ且此人ハ死ニ臨ミ後人ニ
 遺囑シ其墓石ヲ建ルコトヲ禁セシ故ニ今日ニ至リテハ墓地ノ所在モ明
 白ナラザルナリ却說此人ガ世人ノ爲メ最モ刺議セラル、コトハ彼ノモ

ルウヰトスノ焚殺ニ關ズルコトナリ(本卷第四章ヲ參觀スベシ)因テ或者ハ
 之カ爲メ種々辨護ノ說ヲ設ケセルウヰトスカ逮捕セラレシ際ニハ或ヒ
 ハ此ガルウヰンガ檢出セシヤモ知ルベカラサレトモ之ヲ焚殺セシコトハ全
 シ國法ニ據リテ行ヒシ者ニテ敢テ此人ノ與知セシコトニアラサルナリ
 蓋此頃ノ國法ニセルウヰトスノ如ク三位一體ノ教義ヲ否ミ神ヲ冒瀆ス
 ル者ハ人ヲ殺害セル者ト同罪ト認メタリ且セルウヰトスノコトハ其頃有
 名ナル改革家ヒーザプリングルハ更ナリメラントノ如キ溫柔ナ
 ル者ト雖モ大概之ヲ殺サント欲セリカルウヰンハセルウヰトスカ既ニ焚
 殺ニ定メラル、ニ及ヒセニウアノ牧師等ヲ勸メ相共ニ官吏ノ許ニ至リ
 他ノ死刑ヲ以テ焚殺ニ代ヘシコトヲ請ヘリカルウヰンハセルウヰトスカ未
 タ獄舎ニ在ル頃其需メニ應シ或者等ヲ携ヘテ之ヲ訪問セシカ後年或
 者ニ告ケテ此時セルウヰトスカ我ニ往日ノ無禮ヲ許サシコトヲ歎願セシ